

**第十七條** 著港シタル船舶噸數五〇噸以上積石數五〇〇石以上ノモノハ其ノ船舶ノ種類、船主、船名、國籍、船籍港名、總噸數、登簿噸數、發港地名、寄港地名、發航年月日時並揚荷積荷ノ種類及數量ヲ記シ出港ノトキハ船名及出港年月日時、出向地名ヲ記シ船長又ハ其ノ代理者ヨリ水上警察署ニ届出ツベシ

定期ニ航海スル船舶ハ豫メ前項ノ届出ヲ爲シ以後之ヲ省略スルコトヲ得

**第十八條** 船舶ハ港内ニ於テ次ノ行爲ヲ爲スベカラズ

- 一 二隻以上連結スルコト
  - 二 他船ノ後部ニ接近シテ航行スルコト
  - 三 他船ト並行シテ航行スルコト
  - 四 他船ノ前路ヲ横切ルコト
  - 五 他船ニ危害ヲ加フル如キ速力ヲ以テ航行スルコト
  - 六 前各號ノ外他船ノ碇泊又ハ航行ノ妨害トナルベキコト
- 港内ニ於テ急行セントスル船舶ハ其ノ合圖ヲ爲スベシ  
港内ヲ航行スル船舶若ハ桴筏ニ於テ前項ノ合圖ヲ受ケタルトキハ適宜其ノ航路ヲ讓ルベシ  
港内ニ於テ船舶互ニ行途フトキハ其ノ逆潮ノモノヨリ又

小形船舶桴筏ト行途フトキハ小形船舶ヨリ其ノ航路ヲ讓ルベシ

**第十九條** 港内ヲ航行スルトキハ汽船ハ速力ヲ減ジ帆船ハ帆ヲ減ジ若ハ曳船ヲ用ヒテ除行スベシ

**第二十條** 港内ニ碇泊シ又ハ航行スル船舶ハ日没ヨリ日出マデノ時間ハ海上衝突豫防法ニ依リ船燈ヲ掲ゲベシ

**第二十一條** 通船、端艇及桴船又ハ小蒸汽船ハ止ムヲ得ザル場合ノ外他船ノ後部ニ接シテ繫留スベカラズ但シ船側ニ繫留スル場合ト雖モ並列シテ船舶航行ノ妨害ヲ爲スベカラズ

桴船ハ汽船ノ舷側ニ接シテ四隻以上並行繫留スベカラズ

**第二十二條** 船舶、桴筏、竹木ノ繫留ヲ忽ニシ又ハ他ニ引曳セラルル船舶、桴筏ノ操舵ヲ忽ニスベカラズ

**第二十三條** 船舶ノ繫留ニ際シテハ必要以外ニ其ノ網索ヲ延長スベカラズ

**第二十四條** 港ノ妨害トナルベキ難破物又ハ沈没品ハ當該船舶又ハ其ノ所有者ニ於テ直ニ之ヲ除却スベシ

**第一〇條** 第四號及第五號ノ行爲ヲナシタルトキ亦同ジ

**第二十五條** 西突堤燈臺及築地低燈ニ在リテハ晝間ノ漲潮時中白球一箇ヲ掲グルモノトス

**第二十六條** 警察官ノ臨船ヲ求メントスル船舶ハ晝間ニ在テハGノ信號旗ヲ掲ゲ夜間ニ在リテハ藍火又ハ閃火ヲ示スベシ

**第二十七條** 塵芥、灰塵等ヲ取棄テンガ爲塵船ヲ要スル船舶ハFノ信號旗ヲ掲ゲベシ

**第二十八條** 船舶港内ニ於テ火ヲ失シタルトキハ救援ノ來ルマデ船鐘ヲ打鳴シ且晝間ニ在リテハNMノ信號旗ヲ掲ゲ夜間ニ在リテハ絶エズ紅燈ヲ上下スベシ

**第二十九條** 船舶航行ノ妨害若クハ危險ノ虞アル場所ニ膠著、沈没又ハ顛覆シタル船舶物件ハ當該船舶所有者ニ於テ之ヲ除却スベシ但シ之ヲ除却スル迄ハ相當ノ標識ヲ附シ夜間ハ點燈スベシ

**第三十條** 許可ヲ受クルニアラザレバ船舶ニ積載セル竹木ヲ港内水上ニ卸スコトヲ得ズ

石炭、荷足、其ノ他之ニ類スル物件ヲ揚卸スルトキハ脱落ヲ防グ爲豫メ必要ナル装置ヲ爲スベシ

**第三十一條** 港内ニ於テ曳船ヲ爲ス汽船ハ次ノ制限ニ依ルベシ

- 一 航路、第一區碇泊所及第一區碇泊所大瀬子橋間ニ在リテハ曳船ノ船尾ト最後ノ被曳船ノ船尾トノ距離四〇

〇尺以内トス

二 前號以外ノ區域ニ在リテハ曳船ノ船尾ト最後ノ被曳船ノ船尾トノ距離六〇〇尺以内トス

**第三十二條** 前條曳船ニ要スル曳綱ノ長サハ曳船ト被曳船第一船トノ距離一〇〇尺以内トシ其ノ以下相互間ノ距離ヲ七〇尺以内トス

第三章 棧橋及繫船浮標取締

**第三十三條** 許可ヲ受クルニアラザレバ船舶ヲ棧橋又ハ繫船浮標ニ繫留スベカラズ

**第三十四條** 棧橋ニ繫留スルコトヲ得ルハ次ニ掲グル船舶ニ限ル

- 一 汽船
  - 二 汽船以外ノ船舶ニシテ特ニ許可ヲ受ケタルモノ
- 第三十五條** 棧橋上ニ於テ次ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スベカラズ
- 一 銃砲火藥類取締法施行規則第二條ノ火藥類並ニ他物ヲ汚染スベキモノト認ムル貨物ヲ揚卸ヲ爲スコト
  - 二 諸車物品ヲ放置シ又ハ荷造其ノ他ノ作業ヲ爲スコト
  - 三 轉轍機其ノ他備付ノ器具ニ猥リニ手ヲ觸ルルコト
  - 四 不潔ノ行爲ヲ爲スコト



第三十六條 棧橋ヨリ揚卸スベキ荷物ハ速ニ陸揚、運搬又

ハ船積ヲ爲シ棧橋上ニ停置スベカラズ

第三十七條 棧橋上ニハ棧橋使用料ヲ納付シタル船客、荷

主、送迎人、荷物及船客取扱人ノ外入ルコトヲ許サズ但

シ次ニ掲グル者ハ此ノ限ニ在ラズ

一 棧橋ヲ管理スル官吏吏員

二 港灣取締ニ従事スル官吏吏員

三 特ニ許可ヲ受ケタル者

第三十八條 船舶棧橋ニ發着ノ際ハ微速力ヲ以テ操縦スベ

シ

第三十九條 二船以上同時ニ棧橋ニ繫留セントシ又ハ棧橋

ヨリ離隔セントスルトキハ棧橋ヲ傷害セザル様互ニ避讓

スベシ

第四十條 棧橋ニ繫留中及發着ノ際ハ舷外ト棧橋トノ間ニ

相當ノ「フエンダー」ヲ用ヒ摩擦ヲ防備スベシ

第四十一條 故意、怠慢又ハ船舶操縦ノ不注意ニ因リ棧橋

及繫船浮標ヲ毀損、亡失セシメタルトキハ其ノ費用ヲ以

テ修繕又ハ新調セシムルコトアルベシ

第四十二條 次ノ場合ニ於テハ一時棧橋及繫船浮標ニ船舶

繫留ヲ停止シ又ハ離隔セシムルコトアルベシ

- 一 天候險惡又ハ其ノ虞アルトキ
- 二 棧橋及繫船浮標ニ故障アルトキ
- 三 縣ニ於テ必要アルトキ

第四章 埠頭及物揚場取締

第四十三條 埠頭及共同物揚場ハ一般ニ共同スルモノトス

但シ必要アル場合ハ縣ニ於テ之ヲ專用スルコトアルベシ

第四十四條 銃砲火藥類取締法施行規則第二條ノ火藥類、

石灰、糞尿肥料骨、糞糞其ノ他ノ不潔物ハ縣ニ於テ特ニ

指定シタル場所ニ於テ揚卸スベシ其ノ區域ハ標柱ヲ以テ

之ヲ區劃ス

第四十五條 埠頭及共同物揚場ハ使用者互ニ便宜ヲ與ヘ他

ノ妨害ヲ爲スベカラズ

第四十六條 埠頭及共同物揚場ニ於テ次ノ各號ノ一ニ該當

スル行爲ヲ爲スベカラズ

一 不潔ノ行爲ヲ爲スコト

二 物品ヲ洗滌シ又ハ干物ヲ爲スコト

三 魚介ノ類ヲ捕獲スルコト但シ介類ニ限り特ニ許可ヲ

受ケタル場合ハ此ノ限ニアラズ

四 荷主ノ使用ニ屬スルモノノ外牛馬ヲ繫ギ諸車物品ヲ

放置シ又ハ荷造其ノ他ノ作業ヲ爲スコト

五、物品ヲ陳列シテ賣買ヲ爲スコト

第四十七條 埠頭及共同物揚場ニハ陸揚又ハ船積ノ物品ヲ

五時間以上留置クコトヲ得ズ但シ其ノ物品ノ種類ニヨリ

五時間内ニ他ニ運搬スルコト能ハザル事由アルモノハ水

上警察署ノ認可ヲ得テ五日以内ノ期間ニ限り之ヲ留置ス

ルコトヲ得

前項但書ニヨリ認可ヲ受ケタル物品ニハ其ノ認可ヲ受ケ

タルモノノ住所氏名及認可ヲ受ケタル年月日ヲ標榜シ置

クベシ

第四十八條 水上警察署ハ前條ノ認可ヲ與ヘタル後ト雖モ

埠頭又ハ共同物揚場ノ公用ニ妨害アリト認ムルトキハ期

限ヲ指定シ留置物品ノ撤去ヲ命ズルコトアルベシ

第四十九條 埠頭及共同物揚場ニ陸揚又ハ船積ノ物品ヲ堆

積スルモノハ顛倒セザル様相當ノ裝置ヲ爲スベシ

第五十條 埠頭及共同物揚場ヲ使用スルモノハ常ニ清潔ニ

掃除シ炎天及風日ニハ時々撒水スベシ

第五十一條 埠頭及物揚場ニ於テ運搬スル物品ハ墜落、漏

出、又ハ飛散セシムベカラズ

第五十二條 故意怠慢又ハ船舶操縦ノ不注意ニ因リ埠頭及

共同物揚場ヲ毀損、亡失セシメタルトキハ其ノ者ノ費用

ヲ以テ修繕又ハ新調セシムルコトアルベシ

第五十三條 重大ナル物品ヲ揚卸セントスルトキハ埠頭又

ハ共同物揚場ヲ毀損セザル様豫メ相當ノ設備ヲ爲スベシ

前項ノ設備ヲ缺キ埠頭又ハ共同物揚場ニ毀損ヲ生ゼシメ

タル者ハ其ノ者ノ費用ヲ以テ原形ニ復スベシ

第五十四條 埠頭又ハ共同物揚場ニ於テ夜間陸揚又ハ船積

ヲ爲ストキハ標燈ヲ掲出スベシ

第五十五條 埠頭及物揚場ヲ私設セントスルトキ若ハ修理

ヲ爲サントスルトキハ現場ノ圖面及仕様書ヲ添ヘ許可ヲ

受クベシ

第五十六條 私有埠頭及物揚場ニハ其ノ場所、區域並ニ所

有者若ハ借地人ノ住所氏名ヲ記載セル標柱ヲ建設スベシ

第五十七條 埠頭又ハ共同物揚場以外ノ官有地又ハ縣有地

ニ於テ陸揚又ハ船積ヲ爲シ又ハ貨物竹木、瓦石ノ類ヲ置

クコトヲ得ズ但シ借地ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ

アラズ

第五章 桴筏取締

第五十八條 桴筏ハ次ノ區域ヲ通航スルヲ許サズ

- 一 航路
- 二 第一區域碇泊所



第五十九條 港外ヨリ來ル桴筏ハ西突堤船通並埋立地運河内ヲ通航スベシ

第六十條 桴筏ニハ見易キ所ニ持主ノ住所、氏名ヲ記シ又ハ之ヲ記シタル木札ヲ附著スベシ

第六十一條 桴筏繫留所ヲ設ケントスルトキハ其ノ場所、繫留方法、期限等ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ縣ノ許可ヲ受クベシ

第六十二條 (削除)

第六十三條 桴筏ノ繫留ニハ校欄、麻其ノ他強靱ナル繫繩ヲ用ヒ天候不穩ノ虞アルトキハ特ニ番人ヲ附シ散逸ヲ防グベシ

第六十四條 桴筏ハ共同物揚場ニ狎リニ繫留スベカラズ

第六十五條 桴筏ハ長サ二〇間幅二間三尺以上ノモノヲ通航セシムベカラズ曳船ヲ用ヒタルトキト雖モ亦同ジ

第六十六條 桴筏ニハ完全ニ操縦シ得ル水夫二名以上ヲ附スベシ

第六十七條 桴筏ト船舶ト連續通航スルトキハ二間以上ノ距離ヲ取リ桴筏連續通航スルトキハ四間以上ノ距離ヲ取ルベシ

第六十八條 桴筏ニシテ夜中通航スルトキハ點燈スベシ

第六十九條 本則又ハ本則ニ基キテ爲シタル命令ニ違背シタルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

第七十條 前條ノ場合船舶内ニ於テハ海員ノ所爲ト雖モ船長若ハ船長ノ事務ヲ行フ者其ノ責ニ任ズ

第七十一條 本則ニ違背シタル者ト雖モ法律命令ニ明文アルモノハ其ノ正條ニ從フ

第七十二條 本規則ハ大正二年一月一日ヨリ施行ス

若松港則

(昭和九年十二月 福岡縣令第四十一號)

第一章 錨地及航路

第一條 若松港ノ區分、境界、碇泊船舶ノ種類及特定條件ハ別表第一號表ニ之ヲ定ム

第二條 總噸數三百噸以上ノ船舶ノ錨地ハ若松水上警察署長(以下警察署長ト稱ス)之ヲ指定ス

第三條 錨地ノ指定ハ特別ノ場合ヲ除クノ外若松港特定信號ニ依リ之ヲ行フ

第四條 船舶ハ繫船浮標、岸壁及棧橋ニ繫留スルモノノ外濫ニ單錨ニ碇泊シ又ハ投錨セズシテ放泊スベカラズ

第五條 繫船浮標ニ繫留スル汽船ハ其ノ船首及船尾ヲ之ニ繫留スベシ但シ船首及船尾ヲ繫留スルコト能ハザル事由ニ依リ船尾ノミヲ以テ繫留スルトキハ雙錨ヲ投ズベシ

第六條 港界内ニ於ケル航路ノ區分及水域ハ別表第二號表ニ之ヲ定ム

第七條 航路内ニ於テハ碇泊、停船其ノ他船舶航行ノ妨害トナルベキ行爲ヲ爲スベカラズ但シ航路内ノ岸壁又ハ浮棧橋ニテ船客ノ乗降又ハ貨物ノ積卸ヲ爲スモノハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 總噸數三百噸以上ノ船舶入港セントスルトキハ二時間前ニ船長又ハ其ノ取扱店主ニ於テ警察署長ニ届出ヅベシ(別記第一號様式)但シ特別ノ事由ニ依リ第一號様式ニ據ルコト能ハザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 若松燈臺以南ノ水域ニ入ラントスル總噸數百噸以上ノ汽船ハ一ノ瀬浮標以東ニ於テ晝間ニ在リテハ國旗及船名符字信號ヲ掲ゲ夜間ニ在リテハ更ニ汽笛又ハ汽角ヲ長聲ニ發スベシ

第十條 總噸數百噸以上ノ出入汽船ハ港口信號所前及港内錨地間ニ於テ汽笛又ハ汽角長聲三發ヲ適宜吹鳴シツツ航行スベシ

第十一條 特殊水域ニ出入スル總噸數三百噸以上ノ船舶ハKPKノ信號ヲ掲グベシ

第十二條 若松港則



第十條 總噸數五百噸以上ノ船舶若松燈臺以南ノ水域ニ出入シ又ハ其ノ水域内ニ於テ轉錨セントストキハ若松港特定信號ニ依リ進退スベシ但シ一定ノ繫船所ヲ有スル定期航路船ニシテ警察署長ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ(別記第二號樣式)

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル定期航路船ハ前方見易キ箇所ニ直徑〇・六米以上ノ黑球一箇ヲ掲グベシ

第十一條 入港容認信號、出港容認信號又ハ轉錨容認信號ヲ掲ゲタル後十五分間以内ニ運航ヲ開始セザルトキハ其ノ容認ヲ取消スコトアルベシ

第十二條 總噸數五百噸以上ノ船舶ハ夜間入港スルコトヲ得ズ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシテ警察署長ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ(別記第三號樣式)

- 一 一定ノ繫船所ヲ有スル船舶
- 二 直ニ牧山鐵道岸壁又ハ新川岸陸ニ繫留スル船舶
- 三 直ニ特殊水域ニ入港スル船舶
- 四 急速入港ヲ要スル船舶

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル船舶ハ白紅ノ二燈ヲ上下ニ連テ前橋ニ之ヲ掲グベシ

第十三條 總噸數百噸以上積石數二百七十八立方米以上

(一千石以上)ノ船舶入港シタルトキハ直ニ別記第四號樣式ニ依リ、出港セントストキハ二時間前ニ別記第五號樣式ニ依リ、三百噸以上ノ汽船轉錨セントストキハ二時間前ニ別記第六號樣式ニ依リ警察署長ニ届出ヅベシ但シ特殊水域内ニ於ケル汽船ノ轉錨前適宜ノ時間ニ届出ヅルコトヲ得

定期航路船ハ其ノ出入港日時ヲ豫メ一箇月分取纏メ届出ヲナシ出入港ノ場合ニ於ケル届出ヲ省略スルコトヲ得(別記第七號樣式)

前二項ノ豫定日時ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ警察署長ニ届出ヅベシ(別記第八號樣式)

第十四條 總噸數三百噸以上ノ船舶出港セントストキハ三十分前ニ出帆旗ヲ半掲ノ位置ニ引下シ汽笛又ハ汽角長聲一發シ出帆準備ヲ了シタルトキ出帆旗ヲ取下シ船名符字信號ヲ掲ゲ汽笛又ハ汽角長聲二發ノ後航行ヲ開始スベシ但シ夜間ニ在リテハ出帆旗及船名符字信號ノ掲揚ヲ省略スルコトヲ得

第十五條 總噸數三百噸以上ノ船舶轉錨セントストキハ三十分前ニ若松港特定信號ニ定ムル轉錨信號ヲ掲グベシ

第十六條 總噸數百噸以上積石數二百七十八立方米以上

(一千石以上) 出入船舶ニシテ便乗者アルトキハ直ニ警察署長ニ届出ヅベシ(別記第九號樣式)

第三章 航 法

第十七條 港界内ニ於ケル船舶ノ航法ハ海上衝突豫防法ニ規定スルモノノ外本章ノ規定ニ依ルベシ

第十八條 港界内ニ於ケル船舶ハ他船ニ危害ヲ及ボスノ虞ナキ低速度、減帆、曳船其ノ他適當ナル方法ヲ以テ航行スベシ

第十九條 雜種船ハ航路内航行中ノ汽船又ハ帆船ノ進路ヲ避クベシ

第二十條 出入船舶ハ他船航行ノ妨害トナルベキ虞アル物件ヲ舷外ニ突出スルコトヲ得ズ

第二十一條 帆走船ハ航路ニ於テ縫航スベカラズ航路ヲ横切ラントスル船舶ハ航路ニ從ヒ航行スル他船ノ進路ヲ避クベシ

第二十二條 總噸數五百噸以上ノ船舶ハ航路ノ中央部ヲ航行シ其ノ他ノ船舶ハ防波堤、埠頭棧橋又ハ碇泊船ノ一端ヲ右舷ニ見テ通航スルトキハ之ニ近寄り、左舷ニ見テ通航スルトキハ之ニ遠ザカリテ航行スベシ但シ已ムヲ得ザ

若 松 港 則

ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 雜種船夜間港界内ヲ航行スルトキハ船上見易キ箇所ニ危險防止上有效ナル白燈又ハ紅綠兩色燈一箇ヲ掲グベシ

第四章 曳 船

第二十四條 濱築港船入場入口以南ニ於テ曳船ヲナス汽船ハ警察署長ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外左ノ制限ヲ超エ曳船スベカラズ

被曳船種別	同上積載重量噸數		被曳船隻數
	噸數	馬力	
帆船	二百噸以上	二百馬力以上	二隻
	二百噸未滿	二百馬力未滿	三隻
倉庫船	三百噸以上	三百馬力以上	二隻
	三百噸未滿	三百馬力未滿	三隻
被曳船	三百噸未滿	六十馬力以上	三隻
	六十馬力未滿	六十馬力未滿	二隻
舢舨	二百噸以上	二百馬力以上	三隻
	二百噸未滿	二百馬力未滿	六隻
鐵船	六隻以上	六隻以上	六隻以上
	三隻以上	三隻以上	三隻以上



本則ニ於テ帆船ト稱スルハ船首ニ「ヂブーム」船尾ニ傳馬吊ヲ備ヘ帆走裝置完全ニシテ目的地迄自由ニ獨航シ得ルモノヲ謂ヒ、倉庫船ト稱スルハ操舵器ノミヲ有シ被曳航ヲ主トシ全然帆走裝置及機械力ニ依ル運航ノ設備ナク獨走シ得ザルモノヲ謂ヒ、被曳船ト稱スルハ操舵器ヲ有シ被曳航ヲ主トシ機械力ヲ以テ運航スル裝置ナキモ橋一本ヲ有シ或程度ノ獨走ヲ爲シ得ルモノヲ謂ヒ、舢舨ト稱スルハ胴船型ニシテ帆走裝置ノ有無ニ拘ラズ船首ニ「ヂブーム」船尾ニ傳馬吊ヲ備ヘザルモノヲ謂ヒ、鰲船ト稱スルハ帶型ニシテ吃水淺ク櫓竿ヲ以テ運航スルモノヲ謂フ

**第二十五條** 港界内ニ於テ曳船ヲ爲ス場合ノ曳綱ノ長ハ曳船ト第一被曳船間ニ在リテハ二十米ヲ、被曳船相互間ニ在リテハ十米ヲ超ユベカラズ但シ曳綱ノ長ハ船船相互間ノ距離ニ依ル

**第二十六條** 曳船ノ方法ニ依ラザル鰲船ニシテ連結航行スル場合ハ四隻ヲ超ユベカラズ

前項ノ場合ニ於テハ一隻ニ付操縦者一人以上乗組ムベシ

**第五章 爆發物及危險物ノ運搬積卸**

**第二十七條** 港界内ニ於テ爆發物又ハ容易ニ燃焼スベキ物

**第三十二條** 總噸數三百噸未満ノ帆船、雜種船等ハ濫ニ繫船浮標、總噸數三百噸以上ノ汽船ノ舷側若ハ船尾ニ繫留シ又ハ自船碇泊水域内ト雖他船航行ノ妨害トナルベキ場所ニ碇泊停船スベカラズ

**第三十三條** 航船標識、繫船浮標其ノ他ノ工作物ヲ損傷シ又ハ損傷スルガ如キ行爲ヲ爲スベカラズ

前項ノ物件ヲ損傷シタル者又ハ損傷其ノ他異狀ヲ發見シタル者ハ直ニ警察署長ニ届出ヅベシ

**第三十四條** 港界内又ハ港界附近ニ於テ灰燼、塵芥、荷足、動物ノ死體等ヲ投棄スベカラズ港界内ニ於テ石炭、雜貨荷足等ノ積卸ヲ爲ストキハ海中ニ脱落シ又ハ飛散スルヲ防グニ適當ナル設備ヲ爲スベシ

**第三十五條** 港界内ノ航路ニ於テ漁撈及水泳ヲ爲スベカラズ

**第三十六條** 廢船、難破船其ノ他ノ物件ニシテ船舶ノ航行碇泊等ノ妨害トナルベキモノハ警察署長ノ指定シタル時間内ニ其ノ所有者ニ於テ之ヲ除去スベシ

**第三十七條** 港界内又ハ港界附近ニ於ケル左ノ各號ノ場合ハ直ニ警察署長ニ届出ヅベシ但シ船舶内ノ事故ハ船長之ガ届出ノ義務アルモノトス

若松港則

件ノ運搬若クハ積卸ヲ爲サントスルトキハ警察署長ノ許可ヲ受クベシ(別記第十號様式)但シ當該船舶ノ燃料ニシテ常用量ヲ超エザルモノハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ場合ニ於テ警察官吏現場ニ臨檢スルトキハ其ノ指示ニ從フベシ第一項ノ規定ニ於ケル爆發物及容易ニ燃焼スベキ物件ノ種類ハ開港港則施行規則別表第三號表ニ依ル

**第二十八條** 港界内ニ於テ鎔銑ヲ運搬若クハ積卸セントストキハ警察署長ノ許可ヲ受クベシ(別記第十一號様式)

前項ノ船舶ハ其ノ船體ヲ赤色トシ、晝間ニ在リテハB旗ヲ、夜間ニ在リテハ紅燈ヲ前橋ノ頂ニ掲ゲ一時間六湮以内ノ速度ヲ以テ航行スベシ

第六章 雜則

**第二十九條** 若松港特定信號ハ之ヲ告示ス

若松港特定信號ハ中央信號所(若松水上警察署屋上)港口信號所又ハ牧山信號所ニ於テ之ヲ行フ

**第三十條** 港界内ニ於テ特定信號ヲ使用セントスルトキハ警察署長ノ許可ヲ受クベシ(別記第十二號様式)

**第三十一條** 船舶ハ法令ニ規定アル場合ノ外濫ニ汽笛汽角ヲ吹鳴シ、信號ヲ爲シ又ハ燈火ヲ用フベカラズ

- 一 變死體ヲ發見シタルトキ
- 二 變死變傷事件發生シ又ハ之ヲ覺知シタルトキ
- 三 海難事故(火災、難破、沈没、衝突)發生シ又ハ之ヲ發見シタルトキ
- 四 傳染病若クハ其ノ疑アル患者發生シ又ハ之ヲ覺知シタルトキ

**第三十八條** 港界内ニ於ケル左ノ各號ノ場合ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外警察署長ノ許可ヲ受クベシ但シ他官廳ノ許可ヲ受ケタル者ハ着手前届出ヅベシ(別記第十三號様式)

- 一 船舶ノ製造竊裝、休整、大修繕、解體(別記第十四號様式)其ノ他水面ノ一時的使用(別記第十五號様式)
- 二 多數竹木ノ積卸、筏ノ結構、運搬又ハ繫留(別記第十六號様式)
- 三 棧橋、標識、繫船所、煙場、波止場、石垣、板柵、足場、繫船杭、波除杭、石垣根留等ノ設置、大修理又ハ改造(別記第十七號様式)
- 四 進水式(別記第十八號様式) 端艇發漕、施餓鬼、其ノ他演技(別記第十九號様式)
- 五 工事又ハ測量ニ從事スルトキ(別記第二十號様式)



- 六 難破船、沈没品其ノ他引揚ニ從事スルトキ(別記第二十二號様式)
- 七 其ノ他警察署長ニ於テ必要ト認ムル事項  
前項第五號又ハ第六號ノ場合ニ在リテハ若松港特定信號ニ依リ他船ノ航行スベキ方向ヲ表示スベシ
- 第三十九條 警察官吏ハ取締上必要アリト認ムルトキハ船舶ニ臨檢シ又ハ一時停船ヲ命ジ其ノ他臨檢ノ處分ヲ爲スコトヲ得
- 第四十條 本則ニ於テ雜種船ト稱スルハ汽艇、舢舨、被曳船、艀船、倉庫船、端舟、發動機船其ノ他主トシテ櫓權ノミヲ以テ航行スル船ヲ謂フ
- 第四十一條 願出又ハ届出ニシテ船舶ニ關スルモノハ特別ノ規定アル場合ノ外船長又ハ取扱店主之ヲ爲スベシ
- 第四十二條 本則ハ船舶ニ類似ノ形體ヲ有スル工作物之ヲ準用ス前項工作物ハ雜種船ノ繫留箇所ニ繫留スルコトヲ得

第七章 罰則

第四十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一 第一條ノ規定ニ依ル別記第一號表ノ碇泊區域及特定

- 條件ニ違反シ又ハ第二條ノ規定ニ依ル警察署長ノ錨地指定若クハ變更ノ命ニ從ハザル者
  - 二 第四條第六條第八條乃至第十條第十二條乃至第十六條第十八條乃至第二十八條第三十條乃至第三十八條第四十一條ノ規定ニ違反シタル者
  - 三 第三十九條ノ規定ニ依ル臨檢ヲ拒ミ又ハ處分ニ從ハザル者
  - 第四十四條 船舶内ニ在リテハ船員ノ所爲ト雖船長又ハ其ノ事務ヲ行フ者其ノ責ニ任ズ
  - 第四十五條 本章ノ規定ニ該當スル者法人ナルトキハ之ニ適用スベキ罰則ハ法人ノ代表者ニ之ヲ適用ス
- 附則  
本令ハ昭和十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
(別記様式略ス)

別表第一號表

件 條 定 特	種類ノ船舶泊碇	界 境 分 區
若松沿岸ニハ船舶其ノ他ノ物件ヲ碇泊又ハ繫留スベカラズ但シ港口信號所前ヨリ若松魚市場横ニ至ル間ノ距岸二十二米及同魚市場ヨリ若松市渡船場ニ至ル間ノ距岸十三米以内又ハ警察署長ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ		外 港 本港東境界線迄ノ水域
		本 港 若松市渡船場ノ標柱ヨリ中島西端ヲ經テ戸畑市渡船場ノ標柱ニ至ル連絡線以西ノ内港トノ境界線迄ノ水域
		第一 區 本航路ノ南側境界線以南ノ水域
		第二 區 本航路ノ北側境界線以北ノ水域
		内 港 金比羅山下標柱ノト牧山鼻標柱トノ連絡線以西ノ水域



本航路	支航路	航路
<p>一、黑色及赤色浮標ニ依リ區劃シタル水域</p> <p>二、若松貨物渡船場沖ニ設置セル赤色浮標ヨリ其ノ西方ニ設置セル各赤色浮標ヲ通過シ本港内港ノ境界線上北岸壁ヨリ百十米ノ地點ニ至ル連結線ヲ北側トシ同地點ヨリ百二十度ノ線ヲ西側トシ中島西端ヨリ戸畑埠頭沖ニ設置セル黒白色浮標(同埠頭北端ヨリ二百七十六度ノ線上百二十七米ノ地點)トノ連結線及同浮標ヨリ二百三十八度ノ線上九百五十米ヲ南側トシ前記九百五十米ノ地點ヨリ百九十一度ノ線ヲ東側トスル水域</p> <p>三、八幡製鐵所岸壁ニ至ル航路</p>	<p>第一支航路 若松税關棧橋ヨリ百七十四度ノ線ヲ本航路迄延長シタル線ノ兩側各九米ノ水域</p> <p>第二支航路 枝光行巡航船棧橋ヨリ百四十七度ノ線ヲ本航路迄延長シタル線ノ兩側各九米ノ水域</p> <p>第三支航路 若松埠頭東端ヨリ百二十一度ノ線ヲ本航路迄延長シタル線ト同埠頭西端ヨリ百四十四度ニ引キタル線上十八米ノ地點ヨリ第十五號繫船浮標ニ至リ更ニ同浮標ヨリ百七十二度ノ線ニ延長シ本航路ニ至ル線内ノ水域</p> <p>第四支航路 若松側舊棧橋三井物産株式會社起重機中央ヨリ百三十六度十五分ノ線ヲ本航路迄延長シタル線ノ兩側各九米ノ水域</p> <p>第五支航路 若松側舊棧橋西クレイン中央ヨリ百四十八度四十五分ノ線ヲ本航路迄延長シタル線ノ兩側各九米ノ水域</p> <p>第六支航路 東洋製鐵株式會社船入場入口南端ヨリ二百五十度五分ノ線ヲ第七支航路迄延長シタル線ノ兩側各</p>	<p>二十米ノ水域</p> <p>戸畑渡船場棧橋ノ先端ト戸畑埠頭北端ヨリ六度ニ引キタル線上六十九米ノ地點トノ連結線以北本港ト外港トノ境界線迄及本航路境界線ニ圍マレタル水域</p> <p>戸畑埠頭南端ヲ起點トシ北方九十一米ヨリ合同水産專屬使用沖一番繫船浮標ヲ經テ設置黒白色浮標ニ至リ更ニ本航路ニ沿フコト九十一米ニシテ新川岸壁東端ニ引キタル線内ノ水域</p> <p>新川岸壁東端ヨリ三百二十一度ノ線上九十五米ノ地點ト同地點ヨリ二百三十九度三十分ノ線上五十五米ノ地點ト更ニ同地點ヨリ二百九十七度ノ線上七十三米ノ地點ト同地點ヨリ百九十一度三十分ノ線上七十三米ノ地點ト及二百三十九度三十分ノ線上二百三十六米ノ地點ト同地點ヨリ百五十二度ノ線ヲ新川岸壁ニ引キタル地點トヲ連結シタル線内ノ水域</p> <p>牧山鐵道岸壁東端ト第十一號繫船浮標トノ連結線上距岸二十米ノ地點ヨリ赤色浮標(同岸壁東端ヲ西ヘ距タル五十五米ノ地點ヨリ垂線上距岸六十二米ノ地點)及第十二號第十三號繫船浮標ヲ經テ同岸壁ノ西端ニ至ル線内ノ水域</p> <p>本港、内港、境界線ヨリ藤木第四船入場西南端ニ至ル間黑色及赤色浮標ニヨリ區劃シタル水域</p> <p>新棧橋東端第五航路浮標ヨリ前田渡船場ニ至ル間黑色及赤色浮標ニヨリ區劃シタル水域</p> <p>前田埋立地先東北端ヨリ城山埋立地西北端ニ至ル間黑色及赤色浮標ニヨリ區劃シタル水域</p> <p>十二番航路浮標ヨリ宮丸渡船場東端ニ至ル線ノ西側二十米ノ水域</p> <p>濱築港船入場内黑色及赤色浮標ニヨリ區劃シタル水域</p>

支航路	航路	路
<p>第七支航路 二十米ノ水域</p> <p>第八支航路 戸畑埠頭南端ヲ起點トシ北方九十一米ヨリ合同水産專屬使用沖一番繫船浮標ヲ經テ設置黒白色浮標ニ至リ更ニ本航路ニ沿フコト九十一米ニシテ新川岸壁東端ニ引キタル線内ノ水域</p> <p>第九支航路 新川岸壁東端ヨリ三百二十一度ノ線上九十五米ノ地點ト同地點ヨリ二百三十九度三十分ノ線上五十五米ノ地點ト更ニ同地點ヨリ二百九十七度ノ線上七十三米ノ地點ト同地點ヨリ百九十一度三十分ノ線上七十三米ノ地點ト及二百三十九度三十分ノ線上二百三十六米ノ地點ト同地點ヨリ百五十二度ノ線ヲ新川岸壁ニ引キタル地點トヲ連結シタル線内ノ水域</p> <p>第十支航路 牧山鐵道岸壁東端ト第十一號繫船浮標トノ連結線上距岸二十米ノ地點ヨリ赤色浮標(同岸壁東端ヲ西ヘ距タル五十五米ノ地點ヨリ垂線上距岸六十二米ノ地點)及第十二號第十三號繫船浮標ヲ經テ同岸壁ノ西端ニ至ル線内ノ水域</p> <p>第十一支航路 本港、内港、境界線ヨリ藤木第四船入場西南端ニ至ル間黑色及赤色浮標ニヨリ區劃シタル水域</p> <p>第十二支航路 新棧橋東端第五航路浮標ヨリ前田渡船場ニ至ル間黑色及赤色浮標ニヨリ區劃シタル水域</p> <p>第十三支航路 前田埋立地先東北端ヨリ城山埋立地西北端ニ至ル間黑色及赤色浮標ニヨリ區劃シタル水域</p> <p>第十四支航路 十二番航路浮標ヨリ宮丸渡船場東端ニ至ル線ノ西側二十米ノ水域</p> <p>第十五支航路 濱築港船入場内黑色及赤色浮標ニヨリ區劃シタル水域</p>	<p>二十米ノ水域</p> <p>戸畑渡船場棧橋ノ先端ト戸畑埠頭北端ヨリ六度ニ引キタル線上六十九米ノ地點トノ連結線以北本港ト外港トノ境界線迄及本航路境界線ニ圍マレタル水域</p> <p>戸畑埠頭南端ヲ起點トシ北方九十一米ヨリ合同水産專屬使用沖一番繫船浮標ヲ經テ設置黒白色浮標ニ至リ更ニ本航路ニ沿フコト九十一米ニシテ新川岸壁東端ニ引キタル線内ノ水域</p> <p>新川岸壁東端ヨリ三百二十一度ノ線上九十五米ノ地點ト同地點ヨリ二百三十九度三十分ノ線上五十五米ノ地點ト更ニ同地點ヨリ二百九十七度ノ線上七十三米ノ地點ト同地點ヨリ百九十一度三十分ノ線上七十三米ノ地點ト及二百三十九度三十分ノ線上二百三十六米ノ地點ト同地點ヨリ百五十二度ノ線ヲ新川岸壁ニ引キタル地點トヲ連結シタル線内ノ水域</p> <p>牧山鐵道岸壁東端ト第十一號繫船浮標トノ連結線上距岸二十米ノ地點ヨリ赤色浮標(同岸壁東端ヲ西ヘ距タル五十五米ノ地點ヨリ垂線上距岸六十二米ノ地點)及第十二號第十三號繫船浮標ヲ經テ同岸壁ノ西端ニ至ル線内ノ水域</p> <p>本港、内港、境界線ヨリ藤木第四船入場西南端ニ至ル間黑色及赤色浮標ニヨリ區劃シタル水域</p> <p>新棧橋東端第五航路浮標ヨリ前田渡船場ニ至ル間黑色及赤色浮標ニヨリ區劃シタル水域</p> <p>前田埋立地先東北端ヨリ城山埋立地西北端ニ至ル間黑色及赤色浮標ニヨリ區劃シタル水域</p> <p>十二番航路浮標ヨリ宮丸渡船場東端ニ至ル線ノ西側二十米ノ水域</p> <p>濱築港船入場内黑色及赤色浮標ニヨリ區劃シタル水域</p>	<p>二十米ノ水域</p> <p>戸畑渡船場棧橋ノ先端ト戸畑埠頭北端ヨリ六度ニ引キタル線上六十九米ノ地點トノ連結線以北本港ト外港トノ境界線迄及本航路境界線ニ圍マレタル水域</p> <p>戸畑埠頭南端ヲ起點トシ北方九十一米ヨリ合同水産專屬使用沖一番繫船浮標ヲ經テ設置黒白色浮標ニ至リ更ニ本航路ニ沿フコト九十一米ニシテ新川岸壁東端ニ引キタル線内ノ水域</p> <p>新川岸壁東端ヨリ三百二十一度ノ線上九十五米ノ地點ト同地點ヨリ二百三十九度三十分ノ線上五十五米ノ地點ト更ニ同地點ヨリ二百九十七度ノ線上七十三米ノ地點ト同地點ヨリ百九十一度三十分ノ線上七十三米ノ地點ト及二百三十九度三十分ノ線上二百三十六米ノ地點ト同地點ヨリ百五十二度ノ線ヲ新川岸壁ニ引キタル地點トヲ連結シタル線内ノ水域</p> <p>牧山鐵道岸壁東端ト第十一號繫船浮標トノ連結線上距岸二十米ノ地點ヨリ赤色浮標(同岸壁東端ヲ西ヘ距タル五十五米ノ地點ヨリ垂線上距岸六十二米ノ地點)及第十二號第十三號繫船浮標ヲ經テ同岸壁ノ西端ニ至ル線内ノ水域</p> <p>本港、内港、境界線ヨリ藤木第四船入場西南端ニ至ル間黑色及赤色浮標ニヨリ區劃シタル水域</p> <p>新棧橋東端第五航路浮標ヨリ前田渡船場ニ至ル間黑色及赤色浮標ニヨリ區劃シタル水域</p> <p>前田埋立地先東北端ヨリ城山埋立地西北端ニ至ル間黑色及赤色浮標ニヨリ區劃シタル水域</p> <p>十二番航路浮標ヨリ宮丸渡船場東端ニ至ル線ノ西側二十米ノ水域</p> <p>濱築港船入場内黑色及赤色浮標ニヨリ區劃シタル水域</p>



大阪府水路取締規則

(昭和十一年十二月)  
大阪府令第九十八號

第一章 通 則

第一條 本令ニ於ケル用語ハ左ノ例ニ依ル

一 水路トハ船舶ノ自由ニ航行シ得ル河川、運河及港灣ノ水域ヲ謂フ

二 航路トハ水路ノ内船舶ノ航行ノ用ニ供スル水域ヲ謂フ但シ安治川ニ在リテハ濤筋ノ中央ヨリ左右へ各二十米、木津川及尻無川樋ノ渡下流ニ在リテハ濤筋ノ中央ヨリ左右へ各十五米ノ水域ヲ謂フ

第二條 警察署長ハ危険防止上其ノ他交通保全ノ爲必要アリト認ムルトキハ水路ノ通行ヲ禁止シ若ハ制限シ又ハ本令ニ依リテ爲シタル許可ヲ取消シ若ハ制限スルコトヲ得

第三條 船舶ハ危険豫防其ノ他交通上ノ必要ニ基ク警察官吏ノ指示又ハ標示ニ従フベシ

第四條 法令ニ依リ海技免狀受有者ヲ乗組マシムルコトヲ要セザル船舶ハ十六歳以上ノ者ニ非ザレバ之ヲ操航スル

一發ニ續ク短聲一發ノ汽笛、汽角、號角其ノ他ノ信號ヲ爲スベシ

第十條 船舶ハ濫リニ並列若ハ競争シテ航行スベカラズ

第十一條 船舶航行中行違ヒ難キ場合ハ水流ニ遵行スル船舶ニ於テ避讓スベシ

第十二條 船舶航路ヲ横切ラントスルトキハ安全ナルコトヲ確メタル後航行スベシ

第十三條 船舶ハ他船及沿岸工作物ニ危害ヲ及ボスノ虞アル速度並ニ方法ヲ以テ航行スベカラズ

第十四條 船舶ハ左ノ各號ノ場所ニ於テハ徐行スベシ

一 渡船場附近

二 航路ノ交叉セル場所

三 航路ノ曲角

四 橋梁下

五 前各號ノ外交通上危険ヲ生ズル虞アル場所

第十五條 船舶ハ航行中帆又ハ積荷等ノ爲進路ヲ見透シ難キトキハ見張人ヲ置クベシ

第十六條 河川及運河ニ於テハ帆走スベカラズ但シ安治川築地渡下流、淀川毛馬閘門上流、新淀川木津川落合下ノ渡下流、尻無川福崎渡下流及神崎川ニ於テハ此ノ限ニ在

大阪府水路取締規則

コトヲ得ズ但シ手漕ボート、傳馬船ノ類ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ船舶長十五米又ハ幅五米ヲ超ユルトキハ十六歳以上ノ者二名以上ニテ之ヲ操航スベシ

第二章 航 法

第五條 船舶ハ航路ノ右側ヲ航行スベシ

第六條 船舶航路ノ交叉セル場所ニ於テ左方ニ轉向セントスルトキハ大廻リヲ爲シ右方ニ轉向セントスルトキハ小廻リヲ爲スベシ

第七條 櫂權ノミヲ以テ航行スル船舶水流其ノ他ノ關係ニ依リ操船上危険ノ虞アル場合ニ於テハ前二條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

前項ニ依リ航行スル船舶ハ前二條ニ依リ航行スル船舶ノ進路ヲ避クベシ

第八條 櫂權ノミヲ以テ航行スル船舶航路ノ交叉セル場所ニ於テ原動機ヲ用ヒ航行スル船舶ト互ニ進路ヲ横切り衝突ノ虞アルトキハ原動機ヲ用ヒテ航行スル船舶ノ進路ヲ避クベシ

第九條 他船ヲ追越サントスルトキハ掛聲其ノ他ノ合圖ヲ爲スベシ但シ原動機ニ依リ運航スル船舶ニ在リテハ長聲

ラズ

第十七條 船舶ハ鐵ヲ船胸ニ垂下スベカラズ

總噸數百噸以上ノ船舶河川及運河航行中ハ投錨準備トシテ左舷錨ヲ水面下ニ垂下シ置クベシ

第十八條 船舶衝突其ノ他事故ヲ生ジタルトキハ直ニ停船スベシ

前項ノ場合ニ於テ人ヲ傷害シ又ハ物件ヲ損壞シタルトキハ直ニ被害者ノ救護其ノ他適當ナル措置ヲ爲シ双方遲滞ナク其ノ旨所轄警察署ニ届出ツベシ

第三章 船燈、信號

第十九條 船舶夜間航行中ハ海上衝突豫防法第十條ニ規定

スル白燈ヲ船尾ニ掲グベシ但シ同法第七條ノ船舶ハ相當ノ光力ヲ有スル白色燈ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

海上衝突豫防法第七條第三號、第四號ニ該當スル船舶夜間航行中ハ同法第三號ニ規定スル燈火ヲ其ノ前方ニ掲グベシ但シ手漕ボート、傳馬船ノ類ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條 曳船水路ノ狀況ニ依リ海上衝突豫防法第三條ニ規定スル橋燈ヲ上下ニ連掲シ難キ場合ハ之ヲ橋燈ノ位置ニ相當ノ間隔ヲ保チ水平ニ掲グルコトヲ得

第二十一條 船舶ハ碇泊中海上衝突豫防法第十一條ノ規定



ニ依ル碇泊燈ヲ掲グベシ但シ原動機ヲ用フル五噸未満ノ船舶及橋樑ノミヲ以テ運航スル船舶ニシテ航路ニ接近セザルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條 汽船及帆船轉回スルトキハ晝間ニ在リテハ見易キ箇所ニ國際信號旗Rヲ夜間ニ在リテハ前橋ノ頂部ニ周圍ヲ照射スベキ紅燈一箇ヲ掲グベシ但シ總噸數二十噸未満ノモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 原動機ヲ用ヒテ航行スル船舶ハ航路ノ曲角又ハ前方ヲ見透シ難キ場所ニ於テハ汽笛、汽角、號角其ノ他ニ依リ長聲一發ノ發聲信號ヲ爲シ曳船中ハ長聲一發ニ續ク短聲二發ノ發聲信號ヲ爲スベシ

第二十四條 本令ニ定ムルモノノ外船舶ノ航法、船燈、信號ニ關シテハ海上衝突豫防法ノ定ムル所ニ依ル

第四章 碇泊、繫留

第二十五條 船舶碇泊シタルトキハ看守ヲ怠ルベカラズ

第二十六條 船舶ハ橋樑、標柱、檢潮器及其ノ保護杭ニ繫留シ又ハ之ニ障害ヲ及ボス虞アル行爲ヲ爲スベカラズ

第二十七條 船舶ハ左ノ各號ノ場所ニ繫留スベカラズ但シ警察官吏ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 航路

間ハ赤色ノ燈火ヲ掲出シ除去シ終ル迄之ヲ保持スベシ

第三十三條 船舶ハ法令ニ規定スル場合ヲ除クノ外濫リニ汽笛、汽角又ハ號角ヲ吹鳴スベカラズ

第三十四條 船舶ハ船體不相當ナル人員又ハ物件ヲ搭載スベカラズ但シ分割スベカラザル物件ニシテ出發地所轄警察署ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十五條 水路ニ於テ左ノ各號ノ行爲ヲ爲サントスルトキハ其ノ目的、方法、期間及區域又ハ場所ヲ具シ所轄警察署長ノ許可ヲ受クベシ

- 一 總噸數二十噸以上ノ船舶ヲ解體、修繕、休航、蘇裝等ノ爲五日以上繫留セントスルトキ
- 二 神輿渡御又ハ川施餓鬼ノ類ヲ爲サントスルトキ
- 三 競漕其ノ他ノ催物ヲ爲サントスルトキ
- 四 前名號ノ外交通上支障ヲ生ズルノ虞アル行爲ヲ爲サントスルトキ

第三十六條 水路ニ於テ左ノ各號ノ行爲ヲ爲サントスルトキハ其ノ目的、方法、期間及區域又ハ場所ヲ具シ所轄警察署ニ届出ツベシ

- 一 總噸數二十噸以上ノ船舶ヲ上架又ハ進水セントスルトキ

大阪府水路取締規則

二 水路ノ交叉セル場所ノ曲角

三 橋樑下

四 入津料取立所前

五 渡船場及消防船又ハ救命艇碇泊所附近

第二十八條 共同荷揚場前ニハ現ニ貨物積卸中ノ船舶ノ外ハ繫留スベカラズ但シ他船ノ貨物積卸ノ障害トナラザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條 船舶ハ繫留中ノ他船ヲ航路ニ突出セシムル虞アル方法ニ依リ繫留スベカラズ

第三十條 交通保全ノ爲必要アリト認ムルトキハ區域又ハ期間ヲ定メ船舶ノ碇泊ヲ制限スルコトアルベシ

第五章 水路ノ保全

第三十一條 水路ニ土石、石炭殻、塵芥、油類及之ヲ含ム汚水其ノ他交通上支障ヲ生ズル虞アル物件ヲ投棄スベカラズ

第三十二條 水路ニ於ケル難破船其ノ他交通上支障ヲ生ズルノ虞アル物件ハ所有者又ハ占有者ニ於テ速ニ除去スベシ

前項ノ難破船其ノ他ノ物件ニハ水面上ニ晝間ハ赤旗、夜

二 難破船其ノ他ノ物件ノ引揚作業ヲ爲サントスルトキ

第三十七條 他ノ法令ニ基キ水路占用ノ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ目的、區域、期間及占用者ノ住所氏名ヲ見易キ箇所ニ標示スベシ

第三十八條 船舶ハ他ノ船舶又ハ建造物ニ竈口類ヲ鈎シテ航行スベカラズ

第三十九條 大阪市及堺市ノ水路ニ在リテハ游泳場以外ノ場所ニ於テ游泳スベカラズ

第六章 曳航

第四十條 船舶ヲ曳航セントスルトキハ他船ノ運航ヲ妨害セザル様相當ナル速度ヲ保持シ且左ノ制限ニ依ルベシ

- 一 淀川天満橋上流ニ在リテハ小型船(テントウ船、劍先船、上荷船及之ニ類スル船舶並ニ手漕ボート、傳馬船ノ類ヲ謂フ以下之ニ做フ)ハ十隻以内船鑑札規則適用船、猪牙船、達磨船及之ニ類スル船舶ハ五隻以内總噸數二十噸以上ノ船舶ハ一隻
- 二 新淀川及神崎川(西島開門筋ヲ除ク)ニ在リテハ小型船ハ五隻以内船鑑札規則適用船、猪牙船、達磨船及之ニ類スル船舶ハ三隻以内總噸數二十噸以上ノ船舶ハ二隻以内



三 淀川天満橋下流、堂島川又ハ土佐堀川ヲ經テ安治川口ニ至ル間、木津川、尻無川臨港鐵道橋下流、岩崎運河、木津川運河及三軒家堀割紡績大橋下流ニ在リテハ小型船ハ三隻以内船鑑札規則適用船、猪牙船、達磨船及之ニ類スル船舶ハ二隻以内總噸數二十噸以上ノ船舶ハ一隻

四 西道頓堀川深里橋下流、寢屋川、三十間堀川、中津川、六軒屋川、傳法川、正蓮寺川、長堀川、東横堀川(九之助橋以南ヲ除ク)、天保山運河、大正運河、千歳運河、八幡屋運河及住友堀割ニ在リテハ小型船ハ二隻以内船鑑札規則適用船、猪牙船、達磨船及之ニ類スル船舶ハ一隻

前項第四號ノ河川運河ニ於テ總噸數二十噸以上ノ船舶ヲ曳航セントスルトキハ出發地所轄警察署長ノ許可ヲ受クベシ

第四十一條 前條以外ノ河川、運河ニ於テ一時曳航セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ出發地所轄警察署長ノ許可ヲ受クベシ

- 一 日時
- 二 航行區域

三 被曳船ノ種類、船數及其ノ最大積量

前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ曳船航行中許可證ヲ携帯スベシ

第四十二條 船舶河川運河内ニ於テ他船ヲ曳航スルトキハ曳船ト被曳船トノ間隔ヲ十米以内ニ保持スベシ

第七章 筏

第四十三條 船舶ニ依リ筏ヲ曳航セントスルトキハ他船ノ運航ヲ妨害セザル様相當ナル速度ヲ保持シ且左ノ制限ニ依ルベシ

一 木津川中口町南端下流、三軒家堀割紡績大橋下流、三十間堀川及大正運河ニ在リテハ筏ノ長六十米、幅四米以内

二 尻無川中ノ渡下流ニ在リテハ筏ノ長四十米、幅四米以内

三 淀川(安治川ヲ除ク)木津川中口町南端上流、新淀川、神崎川、尻無川臨港鐵道橋下流中ノ渡ニ至ル間、岩崎運河、木津川運河及千歳運河ニ在リテハ筏ノ長二十米、幅四米以内

前項以外ノ河川ニ於テ筏ヲ曳航セントスルトキハ出發地所轄警察署長ノ許可ヲ受クベシ但シ筏ノ長十五米、幅二、

五米ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四十四條 曳航ニ依ラザル筏ノ運航ハ長十五米、幅二、五米ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四十五條 安治川ニ於テハ曳航ニ依ルノ外筏ヲ運航スベカラズ

第四十六條 筏ヲ五日以上繋留セントスルトキハ目的、期間及區域ヲ具シ所轄警察署長ノ許可ヲ受クベシ

第四十七條 第三條、第四條第一項、第五條乃至第十三條

第十八條、第十九條第一項但書、第二十六條、第二十七條、第二十九條、第三十條及第三十八條ノ規定ハ之ヲ筏ニ準用ス

第八章 罰則

第四十八條 第二條ノ規定ニ基ク禁止又ハ制限ニ違反シタル者、第三條、第十條、第十八條、第二十六條乃至第二十八條、第三十一條、第三十二條、第三十五條、第三十八條及第四十條乃至第四十六條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第四十九條 第四條乃至第六條、第七條第二項、第八條、第九條、第十一條乃至第十七條、第十九條、第二十一條乃至第二十三條、第二十五條、第二十九條、第三十四條

開港取締規則(朝鮮)

第三十六條、第三十七條及第三十九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第三十條ノ規定ニ基ク制限ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第五十條 前二條ニ規定セル違反行爲ヲ教唆又ハ幫助シタル者ハ正犯ニ準ジ之ヲ處罰ス

附則

第五十一條 第三十五條第三號ノ規定ハ沿岸海上ニ之ヲ適用ス

第五十二條 本令ハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

開港取締規則

(大正四年七月)

朝鮮總督府令第七十二號

改正

昭和十五年七月

朝鮮總督府令第百八十五號

第一條 開港ノ港界左ノ如シ

仁川港 猫角ヨリ大目尾島ノ北端ニ向ケ引キタル延長線

勿淄島ノ東端ヲ基準トシテ南微西二分ノ一西ニ引キタル

一線納島ノ南端ヨリ西四分ノ三南ニ引キタル一線及

市街ノ南東ニアル百二十八呎山頂ヨリ納島ノ東端ニ引



キタル一線内  
 群山港 所雄串ヨリ南四分ノ三東ニ引キタル一線、堂末ヨリ後望山山頂ニ引キタル一線及龍堂ヨリ前望山掛燈立標ニ向ケ引キタル一線以内  
 木浦港 南角ヨリ高下島二百六十四呎山頂ニ引キタル一線、高下島二百四十呎山頂ヨリ四十二呎島ノ山頂ヲ經テ對岸ニ引キタル一線及牙山山頂ヨリ三鶴島ノ東端ヲ經テ務安半島ニ引キタル一線内  
 釜山港 富民洞南端ヨリ絶影島大風浦ニ向ケ引キタル一線及廣蟾末ヨリ浮鳳末ニ引キタル一線以内  
 海州港 掘川川口左岸ヨリ荷花技北端ニ向ケ引キタル一線及其ノ延長線竝ニ水心亭山著松三百五十四呎ヨリ九度ニ引キタル一線以内  
 鎮南浦港 猪島百七十七呎山頂ヨリ北二分ノ一西ニ引キタル一線及望達里崎ヨリ北二分ノ一西ニ引キタル一線以内  
 新義州港 下端洞(海圖ノ威化洞ニ當ル)目標ヨリ北微西二分ノ一西ノ對岸小沙河川口右岸ニ引キタル一線及三橋川川口目標ヨリ西ニ引キタル一線以内  
 龍巖浦港 辰串嘴目標ヨリ永島頂上ニ引キタル一線、永島頂上ヨリ馬鞍島頂上ヲ經テ延長シタル一線及三橋川川口目標ヨリ西ニ引キタル一線以内  
 多獅島港 獅子島二百五十呎山頂ヨリ加次島頂上ニ引キタル一線及望達里崎ヨリ北二分ノ一西ニ引キタル一線以内

タル一線、加次島頂上ヨリ水運島頂上目標ニ引キタル一線、水運島頂上目標ヨリ永島頂上ニ引キタル一線及永島頂上ヨリ辰串嘴目標ニ引キタル一線以内  
 元山港 連島里百三十六呎山頂ヨリ陽日川川口右岸ニ引キタル一線以内  
 清津港 高林山六百呎山頂ヨリ別峯四百六十九呎山頂ニ引キタル一線以内  
 城津港 沙津端ヨリ對岸厚里津山山頂ニ引キタル一線以内  
 雄基港 琵琶項島東端ヨリ雄基山千三百三十一呎山頂ニ引キタル一線以内  
 羅津港 城亨端ヨリ小草島南端ニ向ケ引キタル一線及其ノ延長線以内  
 前項ノ方位ハ眞方位トス  
 第二條 船舶ハ開港ヲ出入スルニ當リ其ノ所屬國旗及信號符字ヲ掲揚スヘシ  
 入港ノ船舶ハ入港届ヲ提出シタル後ニ非サレハ前項ノ國旗及信號符字若ハ船主旗ヲ引下スヘカラス  
 出港届ヲ提出シタル船舶ハ出帆旗ヲ掲揚スヘシ  
 第三條 入港届ハ第一號書式ニヨリ著港後二十四時間内ニ出港届ハ第二號書式ニ依リ出港前ニ之ヲ警察署長ニ提出ス

スヘシ但シ一定ノ日時ニ著發スル船舶ニシテ特ニ警察署長ノ許可ヲ受ケタルモノハ第三號書式ニ依リ著發届ヲ提出スルヲ以テ足ル

第四條 一定ノ港津間ニ往復スル沿海通航船ニ付テハ船主ハ豫メ警察署長ノ許可ヲ受ケ入港及出港ニ關スル届出ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第五條 入港船舶ハ下船スル船客ノ住所、職業、氏名、年齢、船室等級、乗船地及行先地ヲ記載シタル下船客名簿ヲ入港届又ハ著發届ニ添附スヘシ

警察署長必要ト認ムルトキハ出港セムトスル船舶ニ對シ前項ニ準シタル事項ヲ記載シタル乗船客名簿ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第六條 出港シタル船舶ガ避難修繕其ノ他ノ事故ノ爲出港後十二時間内ニ歸港シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル届書ヲ警察署長ニ提出シ入港届ニ代フルコトヲ得

第七條 入港シタル船舶ノ船長ハ警察署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他船又ハ陸地トノ間ニ於テ交通ヲナシ又ハ爲サシムヘカラス

第八條 警察署長必要ト認ムルトキハ港界内ニ在ル船舶ノ碇泊所ヲ指定シ又ハ碇泊所ノ變更ヲ命スルコトヲ得

開港取締規則(朝鮮)

前項ニヨリ指定ヲ受ケ又ハ變更ヲ命セラレタル船舶ハ警察署長ノ許可ヲ受クルニ非ラサレハソノ碇泊所ヲ變更スルコトヲ得ス但シ天候ソノ他己ムヲ得サル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス  
 前項但書ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ遲滞ナク警察署長ニ届出ツヘシ  
 第九條 港界内若クハ其ノ附近ニ碇泊シ又ハ航行スル船舶ハ日没ヨリ日出迄海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定シタル各種ノ船燈ヲ掲クヘシ  
 第十條 船舶ハ港界内又ハ其ノ附近ニ於テ他船ノ航行若クハ碇泊ヲ妨碍スヘカラス  
 警察署長ハ船舶ノ接キ出シタル「チブ、ブームス」カ他船ノ航行ヲ妨碍スルノ虞レアリト認ムルトキハ之ヲ取込マシムルコトヲ得  
 第十一條 船舶港界内ヲ航行スルトキハ其ノ速力ヲ減シ又ハ曳船ニ依リ除行スヘシ但シ汽艇ハ此ノ限ニ在ラス  
 第十二條 港界内ニ於テ汽艇又ハ櫓權ヲ以テ航行スル舟ハ汽船、帆船ノ航路ヲ避クヘシ  
 第十三條 道知事必要アリト認ムルトキハ前二條ノ規定ニ拘ラス別段ノ定ヲ爲スコトヲ得



第十三條

港界内ニ於テ曳船ヲ爲サントスルトキハ警察署長ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外船又ハ端舟ハ五艘水船又ハ倉船ハ二艘、航洋船ハ一艘ヲ超ユルコトヲ得ス警察署長取締上必要ト認ムルトキハ被曳船ノ船數ヲ特ニ制限スルコトヲ得

第十四條

曳船ハ航路内ニ於テ被曳船ヲ放ツヘカラス港界内ニ於テ船舶二艘以上連航スルトキハ相當ノ距離ヲ保ツヘシ

第十五條

船舶ハ濫ニ二艘以上並列シテ航行シ又ハ航路内ニ於テ濫ニ他船ノ前路ヲ横切り若ハ追越スヘカラス港界内ニ於ケル脚角、埠頭、棧橋、防波堤ノ突端又ハ碇泊所ノ一端ヲ回航スル船舶ハ之ヲ右舷ニ見テ航行スルトキハ小廻ヲナシ左舷ニ見テ航行スルトキハ大廻ヲナスヘシ

第十六條

汽船防波堤入口ニ於テ出會ノ虞アルトキハ入港船ハ防波堤外ニ於テ出港船ノ進路ヲ避クヘシ

第十七條

警察署長必要ト認ムルトキハ總噸數五百噸以上ノ船舶ニ對シ港界内ニ於テ雙鎖泊ヲ命スルコトヲ得港界内ニ在ル船舶ハ暴風雨襲來ノ虞アルトキハ豫備錨ヲ投下スルノ準備ヲ爲シ尙汽船ニ在リテハ蒸氣ヲ

乗組員一部ノ殘留ヲ命スルコトヲ得

第十九條

港界内ニ於テ船殼營業ヲ爲サントスル者ハ警察署長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十條

左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ警察署長ノ許可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキモ亦同シ

一

港界内ニ於テ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ運搬セムトスルトキ

二

港界内又ハ其ノ附近ニ於テ難破物又ハ沈沒品ノ引揚ヲ爲サムトスルトキ

三

港界内又ハ其ノ附近ニ於テ法令ノ規定ニ依ルニ非スシテ特設信號ヲ用ヒムトスルトキ

四

港界内又ハ其ノ附近ニ於テ五噸以上ノ船舶ヲ進水セムトスルトキ

五

港界内又ハ其ノ附近ニ於テ端艇ノ競漕會ヲ催サムトスルトキ

第二十一條

火藥類又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ常用ヲ超過シテ積載シ入港スル船舶ハ港界外ニ於テ檣頭其ノ他賭易キ場所ニ日出ヨリ日沒迄ハ國際信號ノB旗、日沒ヨリ日出迄ハ紅燈ヲ掲ケ警察署長ノ指揮ヲ待ツヘシ但シ信號旗及紅燈ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ赤旗ヲ國際信號ノB

開港取締規則(朝鮮)

發生セシムヘシ

第十八條

港界内ニ於ケル船舶ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ又ハ警察署長ノ許可ヲ受ケタルモノヲ除クノ外航路内ニ碇泊又ハ停船スヘカラス

一

港内ノ工事ニ從事スル船舶

二

難破物又ハ沈沒品ノ引揚ニ從事スル船舶

三

遭難船舶ノ救助ニ從事スル船舶

四

運轉ノ自由ヲ有セサル船舶

前項ノ船舶ハ航路内ニ碇泊又ハ停船中ハ海上衝突豫防ニ關スル法令ニ依リ運轉自由ヲ得サル船舶ノ掲クヘキ船燈又ハ形象ヲ掲クヘシ但シ總噸數二十噸未満ノ船舶ニシテ警察署長ニ於テ特ニ標示ノ方法ヲ指示シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條ノ二

船舶ハ濫リニ左ニ掲クル場所ニ碇泊又ハ停船スヘカラス

一

埠頭、棧橋、船溜ノ入口又ハ船渠ノ附近

二

港界内ニ於テ道知事ノ定メタル水域

第十九條

港界内又ハ其ノ附近ニ於テ船舶ヲ裝裝、修繕又ハ休業セントスル者ハ豫メ其ノ旨ヲ警察署長ニ届出ツヘシ前項ノ場合ニ於テ警察署長必要ト認ムルトキハ該船舶

旗ニ、赤色安全燈ヲ紅燈ニ代用スルコトヲ得

第二十二條

前條ニ於テ火藥類ト稱スルハ銃砲火藥類取締令施行規則第二十三條ニ規定スル火藥類ヲ謂ヒ船舶ニ設備スル大砲一門毎ニ火藥五十發分、雷管類七十箇、小銃一挺毎ニ火藥百發分、雷管百五十箇及信號用ノ榴彈、火筒、焰管救命筒以外ノモノヲ常用外火藥類ト看做シ、容易ニ燃燒スヘキ物件ト稱スルハ生石油、(「ブルマ」油

「ロウク」油、

「ラシグイン」油(含ム)石油、「ナフタ」

「テレピンチン」油、

「エーテル」

「ペンウオール」、

石油

「ベンチン」、

「アセトン」、酒精及硫化炭素ノ類其ノ他華氏九十五度以下ノ熱度ニ依リ發火スヘキ氣體ヲ發スルモノヲ謂ヒ船舶所用ノ目的ヲ證明シ得ルモノヲ除クノ外ハ常用外ト看做ス

第二十三條

常用外ナル火藥類又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ積卸セムトスル船舶ハ其ノ品名數量ヲ警察署長ニ届出テ其ノ指定シタル場所ニ於テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十四條

常用外ナル火藥類又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ニ付警察署長港界内ニ於テ積卸ノ場所ヲ指定シ難シト認ムルトキハ港界外ニ於テ適當ノ場所ヲ指定スルコトヲ得



此ノ場合ニ於テ其ノ指定シタル場所ハ港界内ニ在ルモノト看做ス

第二十五條 港界内又ハ其ノ附近ニ於テ海難其ノ他變災發生シタル船舶ハ其ノ旨ヲ警察署長ニ届出ツヘシ

第二十六條 前條ノ船舶他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スルトキハ間斷ナク汽笛、汽角又ハ霧中號角ヲ吹鳴シ且晝間ハ國際信號ノNC旗ヲ掲ケ夜間ハ星火ヲ發スル榴彈、火箭其ノ他發火信號ヲ爲スヘシ但シ火災ノ場合ニ在リテハ救援ノ來ル迄號鐘ヲ打鳴シ且晝間ハ國際信號ノNM旗ヲ掲ケ夜間ハ絶ヘス紅燈ヲ上下スヘシ

前項以外ノ場合ニ於テ警察官吏ノ救援ヲ要スルトキハ晝間ハ國際信號ノST旗ヲ掲ケ夜間ハ藍火又ハ閃光ヲ示スヘシ

第二十七條 船舶ハ前條ニ掲ケタル非常信號ニ用ウル場合ヲ除クノ外警察署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ港界内又ハ其ノ附近ニ於テ濫ニ銃砲若ハ烟火ヲ發シ其ノ他爆發物ヲ使用スルコトヲ得ス

船舶ハ本令若ハ海上衝突豫防ニ關スル法令其ノ他特別ノ規定アル場合又ハ慣例ニ依リ用ウル場合ヲ除クノ外港界内又ハ其ノ附近ニ於テ濫リニ汽笛、汽角若ハ霧中號角ヲ

吹鳴スルコトヲ得ス

港界内又ハ其ノ附近ニ於テ濫リニ船舶ノ航行ノ妨害ト爲ルヘキ探照燈其ノ他之ニ類似ノ燈火ヲ用フヘカラス

第二十八條 船舶ニ積載スル竹木ヲ港界内ノ水上ニ卸シ又ハ筏若ハ水面ニ浮ヒタル竹木ヲ港界内ニ繋留シ又ハ運搬セムトスルトキハ豫メ警察署長ニ届出ツヘシ

第二十九條 港界内ニ於テ濫ニ動物ノ死體、荷足、灰燼、塵芥、瓦礫等ヲ河海中ニ投棄スヘカラス

港界内ニ於テ濫ニ他ノ船舶ニ船舶其ノ他ノ物件ヲ繋留スヘカラス

港界内船舶ノ碇泊又ハ航行ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ於テ濫リニ漁撈ヲ爲スヘカラス

港界内ニ於テ石炭、荷足其ノ他之ニ類スル物件ヲ積卸スル船舶ハ其ノ河海中ニ脱落スルコトヲ豫防スル爲メ必要ナル措置ヲ爲スヘシ

第三十條 警察署長ハ港界内又ハ其ノ附近ニ於テ他船ノ航行ヲ妨ケ若ハ航行ニ危險ノ虞アル漂流物、沈没品其ノ他ノ物件ヲ其ノ所有者又ハ其ノ物件ヲ投棄若ハ脱落セシメタル者ヲシテ除去セシムルコトヲ得

第三十一條 船舶カ燈船、標、立標、埠頭又ハ其ノ他ノ

工作物ヲ毀損シタルトキハ其ノ修繕若ハ再設費用ヲ支辨スヘシ

第三十一條ノ二 本令ニ規定スルモノノ外開港内ニ於ケル船舶航行ノ取締ニ關シ必要ナル事項ハ道知事之ヲ定ム

道知事第十二條ノ二若ハ前項ノ規定ニ依リ必要ナル事項ヲ定メ又ハ第十八條ノ二第二號ノ規定ニ依ル水域ヲ定メントスルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第三十二條 本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第三十三條 本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニシテ船舶ニ係ル規定ニ付テハ船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者其ノ責ニ任ス

船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ船舶ノ乗組員カ本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタル場合ニ於テ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十四條 本令又ハ他ノ法令ニ依リ罰金、科料又ハ使用料ノ納付若ハ費用ノ支辨ヲ命セラレタル船舶ハ之ヲ完納スルカ又ハ當該官廳ニ於テ相當ト認ムル擔保物ヲ提供ス

開港取締規則(朝鮮)

ルニ非サレハ警察署長ニ於テ其ノ出港ヲ差止ムルコトヲ得

前項ニ規定スル擔保物ハ金錢又ハ國債證券ニ限ル

第三十五條 廢船其ノ他船舶ニ等シキ形態ヲ有スル工作物ニハ本令中船舶ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十六條 第八條、第十條、第十五條ノ二又ハ第二十九條ノ規定ハ内外國軍艦ニ之ヲ準用ス

第三十七條 第二條ノ規定ハ沿海區域以下ヲ航行スル帆船及平水區域ノミヲ航行スル船舶ニ之ヲ適用セス

第二條乃至第六條、第十九條及第二十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿ノ船舶及標權ヲ以テ航行スル舟ニ之ヲ適用セス

附 則

本令ハ大正四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和一五、七、朝令一八五)

本令ハ昭和十五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス (書式略ス)



### 咸鏡北道雄基開港ノ件

(大正十年五月)  
朝鮮總督府令第九十一號

從來ノ開港ノ外咸鏡北道雄基ヲ開港トス

附 則

本令ハ大正十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 咸鏡北道羅津開港ノ件

(昭和十年十一月)  
朝鮮總督府令第三百三十三號

從來ノ開港ノ外昭和十年十一月一日ヨリ咸鏡北道羅津ヲ開港トス

### 平安北道多獅島ヲ開港トスルノ件

(昭和十四年五月)  
朝鮮總督府令第七十五號

從來ノ開港ノ外平安北道多獅島ヲ開港トス  
附 則 (昭和十四年八月十日ヨリ施行)  
本令施行ノ期日ハ別ニ之ヲ定ム

### 黃海道海州ヲ開港トスルノ件

(昭和十五年七月)  
朝鮮總督府令第六十三號

從來ノ開港ノ外黃海道海州ヲ開港トス

附 則

本令ハ昭和十五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 朝鮮ト内地、臺灣、樺太又ハ南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル件

(大正十二年三月)  
制令第六號

改正 昭和三年七月  
制令第四號

第一條 内地、臺灣、樺太又ハ南洋群島ヨリ朝鮮ニ貨物又ハ旅客ヲ輸送スル船舶朝鮮各港ニ入港シタルトキハ船長

ハ入港ノ時ヨリ二十四時間内ニ税關ニ入港届ヲ爲シ其ノ貨物ノ内其ノ港ニ於テ陸揚シ又ハ他船ニ積換フヘキモノノ積荷目録ヲ提出スヘシ

前項ノ船舶ハ税關ノ認許ヲ得タル場合ヲ除クノ外前項ノ積荷目録ヲ提出シタル後ニ非サレハ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ携帶品及郵便物ハ此ノ限リニ在ラス

第二條 朝鮮ヨリ内地、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ貨物又ハ旅客ヲ輸送スル船舶朝鮮各港ヨリ出港セムトスルトキハ船長ハ出港一時間前迄ニ税關ニ出港届ヲ爲シ其ノ港ヨリ内地、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ輸送スル貨物ノ積荷目録ヲ提出スヘシ

第三條 船長積荷目録ノ訂正補正ヲ爲スニハ税關ノ認許ヲ受クルコトヲ要ス

第四條 左ニ掲クル物品ノ移出ハ開港又ハ朝鮮總督ノ指定スル港ニ由リ之ヲ爲スヘシ  
一 朝鮮出港税令ニ依リ出港税ヲ課スヘキ物品又ハ之ト

同種ノ物品ニシテ出港税ヲ課セサルモノ  
二 朝鮮ニ於テ内國税ノ免除又ハ交付金ノ交付ヲ受クル爲税關ノ移出免許ヲ受ケムトスル物品

三 大正九年制令第十九號ニ依リ其ノ移出ヲ條件トシテ移入税ノ免除ヲ得タル物品又ハ其ノ加工品若ハ製造品

咸鏡北道雄基開港ノ件・咸鏡北道羅津開港ノ件・平安北道多獅島ヲ開港トスルノ件・朝鮮ト内地、臺灣、樺太又ハ南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル件(朝鮮)

第五條 左ニ掲クル物品ノ移入ハ開港又ハ朝鮮總督ノ指定スル港ニ由リ之ヲ爲スヘシ但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故アルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 朝鮮ニ於テ内國税ヲ課スヘキ物品  
二 朝鮮出港税令ニ依リ其ノ移入ヲ條件トシテ出港税ノ免除ヲ得タル物品  
三 内地、臺灣又ハ樺太ニ於テ内國税ノ免除若ハ拂戻又ハ交付金ノ交付ヲ受クル爲税關ノ移入免許ヲ受ケムトスル物品

四 大正九年制令第十九號ニ依リ移入税ヲ課スヘキ物品前項但書ノ規定ニ依リ貨物ヲ陸揚シ又ハ他船ニ積換ヘタルトキハ船長ハ直ニ其ノ事由ヲ税關ニ届出ツヘシ

第六條 前二條ノ規定ハ郵便物ニ付之ヲ適用セス

第七條 税關長必要アリト認ムルトキハ第一條又ハ第二條ノ船舶ト陸地トノ交通ノ場所ヲ指定スルコトヲ得

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ船長ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
一 第一條第一項又ハ第二條ノ貨物ト符合セサル積荷目録ヲ提出シタルトキ

二 第一條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ  
三 第二條ノ積荷目録ヲ提出セスシテ出港シタルトキ



第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ船長ヲ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第一條第一項ノ規定ニ違反シ所定ノ時間内ニ入港届ヲ爲ササルトキ

二 第二條ノ規定ニ違反シ所定ノ時間内ニ出港届ヲ爲ササルトキ

三 第五條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

第十條 第七條ノ規定ニ依リ税關長交通ノ場所ヲ指定シタル場合ニ於テ其ノ場所ニ由ラスシテ交通シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十一條 第八條又ハ第九條ノ規定ニ該當スルトキハ船長ハ不注意ニ出テタルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十二條 第四條及第五條ニ掲クル物品ノ移出入ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外關稅法第二十四條乃至第七十七條、第二十九條乃至第六十條、第七十六條、第七十七條、第八十條乃至第八十二條ノ四、第百條ノ規定、保税倉庫法、保税工場法及大正九年法律第五十三號第八條ノ規定ヲ準用ス

第十三條 本令違反事件ノ調査及處分ニ關シテハ關稅法第七章及大正九年法律第五十三號第八條ノ規定ヲ準用ス

第十四條 第一條乃至第三條及第五條第二項ノ規定中稅關

トアルハ稅關所在地外ニ在リテハ稅關監視署、稅關及稅關監視署所在地外ニ在リテハ警察署トス

第十五條 稅關及稅關監視署所在地外ニ於テハ警察官吏ハ第一條及第二條ノ船舶ニ乗込ミ貨物ノ検査其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十六條 本令中船長ニ適用スヘキ規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ亦之ヲ適用ス

第十七條 本令中船舶、船長、船舶ニ依ル移出、船舶ニ依ル移入及海路運送竝ニ之ニ關スル犯罪事件ノ調査處分及處罰ニ付テノ規定ハ航空機、航空機ノ長、航空機ニ依ル移出、航空機ニ依ル移入及航空機ニ依ル移入手續未済ノ貨物ノ運送竝ニ之ニ關スル犯罪事件ノ調査處分及處罰ニ付之ヲ準用ス但シ本令中開港トアルハ航空法第三十四條ノ飛行場、港トアルハ航空機ノ著陸又ハ離陸ノ地、入港又ハ入港届トアルハ著陸又ハ著陸届、出港又ハ出港届トアルハ離陸又ハ離陸届トス

附 則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前大正九年制令第十九號ニ依リ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ニシテ本令中之ニ相當スル規定アルモノハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

大正十二年制令第六號施行規則

(大正十二年三月) 朝鮮總督府令第四十八號

改正 昭和十一年十一月 朝鮮總督府令第三百三十一號

第一條 船舶ノ入港届及出港届ハ左ノ事項ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ積荷目録ノ餘白ニ記載シテ之ヲ爲スコトヲ得

一 入港届記載事項

船舶ノ名稱、船種、船籍港、登簿噸數及總噸數又ハ積石數、仕出港、入港ノ日時、朝鮮外ヨリ輸送セル旅客ノ數

二 出港届記載事項

船舶ノ名稱、船種、船籍港、登簿噸數及總噸數又ハ積石數、仕向港、出港ノ日時、朝鮮外ニ輸送スル旅客ノ數、前項ノ入港届及出港届ニハ稅關ノ要求アルトキハ旅客ノ住所、氏名、乗込地及上陸地ヲ記載シタル船客名簿ヲ添附スヘシ

第二條 積荷目録ニハ船舶ノ名稱貨物ノ船荷證券番號、仕

大正十二年制令第六號施行規則(朝鮮)

出地、仕向地、記號及番號、包裝種別、箇數、品名、數量、價格及大正十二年制令第六號第一條第一項ノ場合ニ在リテハ荷受人、同令第二條ノ場合ニ在リテハ荷送人ヲ記載シ尙同令第一條第一項ノ貨物ニシテ經由港ニ於テ移入免許ヲ得タルモノ又ハ同令第二條ノ貨物ニシテ經由港ニ於テ移入免許ヲ得テ移出セムトスルモノニ付テハ移入免許ヲ得タル港名又ハ移出免許ヲ得ムトスル港名ヲ附記スヘシ

關稅法第三十九條ニ依リ運送スル外國貨物ニ付テハ前項ノ積荷目録ニハ其ノ箇數ノミヲ記載スルヲ以テ足ル

積荷目録ハ同時ニ二通ヲ提出スヘシ

第三條 大正十二年制令第六號第四條及第五條ノ規定ニ依リ指定スル港左ノ如シ

- 慶尙南道蔚山郡方魚津
- 慶尙南道馬山府馬山浦
- 慶尙南道昌原郡鎮海
- 慶尙南道統營郡統營
- 全羅南道麗水郡麗水
- 全羅南道濟州島濟州
- 慶尙北道迎日郡浦項
- 慶尙北道鬱陵島道洞



咸鏡南道咸州郡西湖津  
黃海道海州郡龍塘浦

第四條 郵便局ハ移入郵便物ノ到着シタルトキハ移入郵便物目錄ヲ作り當該稅關ニ通知スヘシ

稅關官吏郵便物ヲ檢査スルトキハ郵便局員立會ノ上之ヲ行フヘシ

內國稅又ハ移入稅ヲ課スヘキ郵便物ヲ名宛人ニ交付スルコト能ハサルトキハ郵便局ハ其ノ理由ヲ記載シ稅關ニ通知スヘシ

第五條 前各條ニ規定スルモノヲ除クノ外大正十二年制令第六號ノ施行ニ關シテハ關稅法及大正九年法律第五十三號施行規則第三十條乃至第五十二條、第六十四條乃至第七十七條及第七十九條乃至第八十六條ノ規定保稅倉庫法施行規則並ニ保稅工場法施行規則ヲ準用ス但シ第三條ニ掲ケタル港ニ於テハ稅關長ハ土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ關稅法及大正九年法律第五十三號施行規則第三十一條又ハ同第七十七條第二項ノ特許手数料ヲ低減スルコトヲ得

第六條 本令中、船舶、船長及海路運送並ニ之ニ關スル犯則事件ノ調査及處分ニ付テノ規定ハ航空機、航空機ノ長

航空機ニ依ル移入手續未済ノ貨物ノ運送並ニ之ニ關スル犯則事件ノ調査及處分ニ付テノ準用ス但シ船舶ノ名稱トアルハ航空機ノ登録記號、船種トアルハ航空機ノ種類及型式、船籍港トアルハ航空機ノ定置場、登簿噸數及總噸數又ハ積石數トアルハ航空機ノ人及貨物ノ積載力、仕出港又ハ仕向港トアルハ仕出地又ハ仕向地、船客名簿トアルハ旅客名簿、經由港トアルハ航空機ノ經由シタル著陸又ハ離陸ノ地、港名トアルハ著陸又ハ離陸ノ地名トシ航空機及之ニ積卸ヲ爲ス貨物ニ關スル特許手数料ハ左ノ割合ニ依ル

臨時開港特許手数料	
日出ヨリ日没迄	一時間迄毎ニ
日没ヨリ午後十二時迄	同
午後十二時ヨリ日出迄	同
日出ヨリ日没マテ	一時間迄毎ニ
日没ヨリ午後十二時迄	同
午後十二時ヨリ日出迄	同
貨物搬入、搬出及取扱特許手数料	
日出ヨリ日没マテ	一時間迄毎ニ
日没ヨリ午後十二時迄	同
午後十二時ヨリ日出迄	同
派出檢査特許手数料	
檢査ニ要スル時間一時間迄毎ニ	

附 則

本令ハ大正十二年制令第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス本令施行ノ際現ニ保稅地域ニ在ル貨物ノ敷料又ハ使用料ニ付テハ第五條ノ規定ニ依ルヘキモノヲ除クノ外從前ノ例ニ依ル

鴨綠江及豆滿江沿岸ニ於ケル外國船舶ノ出入及運送ニ關スル件

(大正十二年一月 朝鮮總督府令第十二號)

第一條 外國船舶ハ戎克船又ハ端舟其ノ他櫓權ノミヲ以テ運轉シ若ハ主トシテ櫓權ヲ以テ運轉スル舟ニ限リ道知事ノ許可ヲ受ケ左ニ掲ケル場所ニ出入シ又ハ運送ヲ爲スコトヲ得

一 平安北道新義州府ヨリ上流鴨綠江沿岸但シ新義州府ト義州郡九龍浦トノ間ノ沿岸ヲ除ク

鴨綠江及豆滿江沿岸ニ於ケル外國船舶ノ出入及運送ニ關スル件(朝鮮)

二 咸鏡北道慶興郡蘆西面土里ヨリ上流豆滿江沿岸

前項ノ許可ノ期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條 前條ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 申請者及船舶所有者ノ國籍、住所、氏名及年齢
- 二 船舶ノ種類、船名總噸數、又ハ積石數
- 三 船籍地
- 四 寄港地
- 五 航行區域
- 六 航行期間

第三條 第一條ノ許可ヲ與ヘタルトキハ附錄雜形ノ許可證ヲ交付ス

許可證ハ船内見易キ箇所ニ之ヲ標示スヘシ

第四條 第二條第四號乃至第六號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ道知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二條ノ規定ハ前項ノ許可申請ニ付テノ準用ス此ノ場合ニ於テハ申請書ニ許可書ヲ添附スルコトヲ要ス

第五條 第二條第一項第一號乃至第三號ノ事項ヲ變更シタルトキハ十日内ニ道知事ニ届出テ許可證ノ書換ヲ受クヘシ

第六條 道知事許可ヲ受ケタル者法令ニ違反シ又ハ公益上



必要アリト認ムルトキハ許可ヲ取消シ又ハ取締上必要ナル指示命令ヲ爲スコトヲ得

第七條 本令ニ依リ道知事ニ提出スル申請書又ハ届書ハ主タル寄港地ヲ管轄スル警察官署ヲ經由スヘシ

第八條 第三條第二項、第四條第一項、第五條ノ規定若ハ許可書雛形(材料木製)

第六條ニ依ル指示命令ニ違反シ又ハ虚偽ノ申請ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年警務總監部令第二號ハ之ヲ廢止ス

船舶出入(運送)許可證

船種	船名	船籍地名	寄港地名	國籍	住所	氏名	年齢
	(總噸數又ハ積石數)						
右鴨綠江(又ハ豆滿江)ノ沿岸前記ノ場所ニ出入(運送ニ從事)スルコトヲ許可ス				官署	名 圖		
本許可證ノ有効期間ハ許可ノ日ヨリ 箇月トス							
大正 年 月 日							

船舶法第一條等ノ日本船舶ノ不開港出入ニ關スル件

(大正十二年三月) 朝鮮總督府令第六十三號

船舶法第一條又ハ臺灣船籍規則第一條ノ日本船舶ハ不開港ニ出入シ又ハ各港ノ間ニ於テ運送ヲ爲スコトヲ得但シ傳染病豫防上必要アリト認メ朝鮮總督ニ於テ其ノ最初ノ寄港地ヲ指定シタル場合ニ於テハ指定地以外ニ寄港スルコトヲ得前項但書ノ規定ニ違反シタルトキハ船長又ハ船長ニ代リテ其ノ職ヲ行フ者ヲ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附 則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年朝鮮總督府令第六十三號ハ之ヲ廢止ス

清津漁港管理規則

(昭和十年十二月) 朝鮮總督府令第四百三十三號

第一條 左ニ掲ケル船舶以外ノ船舶ニシテ二十噸以上ノモノ清津漁港(第一表ノ水面)ニ入港セントスルトキハ道知事ノ許可ヲ受ケヘシ但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故アルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 國又ハ公共團體ノ所有ニ屬スル船舶

二 漁 船

三 水産製品又ハ漁獲物ノ運搬用船舶

四 水産製品ノ製造又ハ漁業ニ必要ナル物品ノ運搬用船舶

五 造船業ニ必要ナル物品ノ運搬用船舶

六 港内ノ工事ニ從事スル船舶

七 清津漁港ノ附帶地域(第二號表ノ土地)ニ於ケル工事ニ必要ナル物品ノ運搬用船舶

八 海難救護ニ從事スル船舶

第二條 道知事清津漁港ノ保全上、港内ノ工事上其ノ他必要アリト認ムルトキハ船舶ノ入港ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

船舶法第一條等ノ日本船舶ノ不開港出入ニ關スル件・清津漁港管理規則(朝鮮)



トヲ得

第三條 清津漁港ノ附帶地域ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限リ道知事ノ許可ヲ受ケ之ヲ占用スルコトヲ得

- 一 漁業ノ經營上必要アルトキ
- 二 造船業ノ經營上必要アルトキ
- 三 漁獲物又ハ水産品ノ製造、取引、保管又ハ運搬ノ爲必要アルトキ
- 四 前各號ノ外道知事ニ於テ特ニ清津漁港ノ利用上必要アリト認ムルトキ

第四條 前條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタル者ハ道知事ノ定ムル所ニ依リ料金ヲ納付スヘシ

第五條 第三條ノ規定ニ依ル許可ノ期間ハ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條 第三條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ道知事ニ提出スベシ

- 一 申請人ノ氏名及住所(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所在地並ニ代表者ノ氏名及住所)
- 二 占用セントスル土地ノ位置及面積
- 三 占用ノ目的
- 四 占用ノ期間

五 前各號ノ外道知事ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキ

第九條 第一條ノ規定又ハ第二條ノ禁止若ハ制限ニ違反シタルトキハ當該船舶ノ船長又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヲ二百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

船長又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ船舶ノ乗組員カ第一條ノ規定又ハ第二條ノ禁止若ハ制限ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

附 則

本令ハ昭和十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號表(清津漁港)

新輪城川導水堤ノ南端ト其ノ東側防波堤ノ南端トヲ連結シタル線内ノ水面(別圖ノ通)

第二號表(清津漁港附帶地域)

清津漁港ノ周圍ノ土地(別圖ノ通)(別圖省略)

臺灣開港規則(臺灣)

前項ノ申請書ニハ事業計畫書及圖面(占用セントスル土地ノ一般圖、平面圖、求積圖及工作物ヲ設置スル場合ニ在リテハ其ノ構造圖)ヲ添附スヘシ

第七條 相續又ハ法人ノ合併ニ因リ第三條ノ規定ニ依ル許可ニ因リテ生スル權利義務ヲ承繼シタル者ハ遲滞ナク相續又ハ合併アリタルコトヲ證スル書類ヲ添附シ道知事ニ之ヲ届出ツヘシ

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ道知事ハ占用ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ許可ヲ取消シ其ノ効力ヲ制限シ其ノ條件ヲ變更シ施設シタル工作物其ノ他ノ物件ヲ變更若ハ除却セシメ原狀回復ヲ爲サシメ又ハ損害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲サシムルコトヲ得

一 引續キ一年以上占用ノ許可ヲ受ケタル土地ヲ其ノ目的ノ用ニ供セサルトキ

二 本令又ハ本令ニ依リテ爲ス處分若ハ其ノ條件ニ違反シタルトキ

三 清津漁港ノ附帶地域ノ保全上又ハ工事上必要アルトキ

四 法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ爲必要アルトキ

臺灣開港規則

(昭和十一年十一月)

臺灣總督府令第六十二號

改正 昭和十一年三月

臺灣總督府令第二十二號

第一條 本令ニ於テ開港ト稱スルハ基隆、高雄、花蓮港、淡水及安平ノ各港ヲ謂フ

前項ノ開港ノ港界左ノ如シ

基隆

萬人推鼻ヨリ北東微東二分ノ一東ニ向ヒ中山ノ西北端ニ引キタル一線及尖山鼻ヨリ南西微南ニ向ヒテ引キタル一線以内ノ水面

高雄

高雄燈臺ヲ中心トシ二哩ノ半徑ヲ以テ劃リタル圓弧内ノ水面

花蓮港

米崙山ノ山頂ヲ中心トシ二哩ノ半徑ヲ以テ劃リタル圓弧内ノ水面

淡水

淡水燈臺ヲ中心トシ二哩ノ半徑ヲ以テ劃リタル圓弧内



ノ水面  
安平

安平燈臺ヲ中心トシ二浬ノ半徑ヲ以テ劃リタル圓弧内ノ水面

第二條 船舶ハ開港ヲ出入スルニ當リ其ノ所屬國ノ國旗及信號符字ヲ掲クヘシ但シ定期郵便船ハ會社旗ヲ以テ信號符字ニ代用スルコトヲ得

船舶出港セントスルトキハ豫メ出帆旗ヲ掲クヘシ

第三條 船舶入港シタルトキハ遲滞ナク第一號様式ノ入港届ヲ出港セントスルトキハ第二號様式ノ出港届ヲ港務部長ニ提出スヘシ

第四條 港務部長必要アリト認ムルトキハ船舶ニ水先人ヲ乗船セシムルコトヲ得此ノ場合ト雖船舶ノ指揮ハ船長ノ責任トス

第五條 港務部長必要アリト認ムルトキハ船舶ノ出入順序又ハ碇泊所ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ指定ヲ受ケタル船舶ハ港務部長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ順序又ハ碇泊所ヲ變更スルコトヲ得ス但シ避難其ノ他已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ遲滞ナク之ヲ港務部長ニ届出ツヘシ

第六條 爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ常用ニ超過シテ積載シタル船舶入港シタルトキハ港内所定ノ場所ニ於テ港務部長ノ指揮ヲ待ツヘシ

前項ノ船舶ハ日出ヨリ日没迄ノ間ハBノ信號旗ヲ日没ヨリ日出迄ノ間ハ紅燈一箇ヲ前橋ノ頂上ニ掲クヘシ

第一項ニ於テ爆發物ト稱スルハ火藥(有煙火藥、無煙火藥ノ類)雷酸鹽(雷汞ノ類)起爆ノ用途ニ供スル窒化物(窒化鉛ノ類)其ノ他ノ起爆劑「ナイトログリセリン」及之ヲ主トスル爆發藥(各種「ダイナマイト」ノ類)綿火藥、硝化綿、鹽素酸鹽類(鹽素酸曹達、鹽素酸加里ノ類)過鹽素酸鹽類(過鹽素酸加里、過鹽素酸「アンモニア」ノ類)硝酸鹽類(硝石、智利硝石、硝酸「アンモニア」ノ類)芳香系列ノ硝化物ニシテ爆發性ヲ有スルモノ「ナイトロペンジン」「ピクリン」酸ノ類)實包、空包藥包、藥筒ノ類、火藥又ハ爆發藥ヲ裝填シタル彈丸、信管雷管ノ類、煙火其ノ他火藥又ハ爆發藥ヲ使用シタル火工品(玩具用普通火工品ヲ除ク)及壓縮瓦斯類ヲ謂ヒ容易ニ燃燒スヘキ物件ト稱スルハ原油、揮發油、石油、輕油、重

第九條 暴風ノ徵アルトキハ碇泊中ノ船舶ハ標旗防止及運轉ノ準備ヲ爲スヘシ

第十條 船舶ハ公ノ航路ニ投錨シ又ハ他ノ船舶ノ航行ヲ妨クヘカラス

第十一條 船舶爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ノ積卸ヲ爲サントスルトキハ港務部長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ爲スヘシ港務部長前項ノ場所ヲ指定スルニ當リ港内ニ適當ノ場所ナキトキハ港外ニ於テ之ヲ指定スルコトヲ得前項ノ規定ニ依リ指定シタル場所ハ當該船舶ニ付テハ之ヲ港内ト看做ス

第十二條 船舶港内ニ於テ火ヲ失シタルトキハ救援ノ來ル迄船鐘ヲ打鳴シ且日出ヨリ日没迄ノ間ハNQノ信號旗ヲ掲ケ日没ヨリ日出迄ノ間ハ絶エス紅燈ヲ上下スヘシ

第十三條 船舶ニ於テ警察官ノ救援ヲ要スルトキハ日出ヨリ日没迄ノ間ハSTノ信號旗ヲ掲ケ日没ヨリ日出迄ノ間ハ藍火若ハ閃火ヲ示スヘシ

第十四條 船舶ハ港務部長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ港内ニ於テ銃砲又ハ煙火等ヲ發スルコトヲ得ス

第十五條 繫留ノ爲設置シタル浮漂其ノ他ノ營造物ニ非サルモノニ船舶其ノ他ノ物件ヲ繫留スヘカラス

油其ノ他ノ石油類、黃燐、赤燐、硫化燐「カリウム」「ナトリウム」「マグネシウム」過酸化曹達、「エーテル」硫化炭素「コロヂウム」「メチールアルコホル」「ベンゾール」「トルオール」「ソルベントナフサ」「アルコホル」「アセトン」「キンロール」「テレピン」油、「セルロイド」濃硫酸、濃硝酸、生石灰、炭化石灰、磷化石灰、其ノ他「エーベル」又ハ「ペンスキー」閉塞發煙試驗器ヲ用キ七百六十耗ノ氣壓ニ於テ攝氏三十五度以下ノ溫度ニテ發煙スルモノヲ謂フ

爆發物ハ船舶ニ備附ケタル大砲一門毎ニ火藥五十發分、導火管類七十箇、小銃一挺毎ニ火藥百發分、雷管百五十箇及船舶相當量ノ信號用榴彈、火箭、焰管、救命焰ヲ除クノ外之ヲ常用ニ超過シタルモノト看做ス

容易ニ燃燒スヘキ物件ハ船舶所用ノ目的ヲ證明シ得ルモノノ外之ヲ常用ニ超過シタルモノト看做ス

第七條 入港シタル船舶ハ港務部長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他ノ船舶又ハ陸地ト交通ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 港内ニ於テ碇泊又ハ航行スル船舶ハ日没ヨリ日出迄ノ間ハ海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定シタル各種ノ船燈ヲ掲クヘシ



第十六條 燈船、浮標、立標、埠頭其ノ他ノ營造物ヲ毀損

シタル船舶ハ其ノ復舊ニ要スル費用ヲ支辨スヘシ

第十七條 在港中ノ船舶ハ屍體、荷足、灰燼、塵芥、其ノ

他船舶ノ航行又ハ碇泊ヲ妨クヘキ物件ヲ水中ニ投棄スヘカラス

船舶石炭、荷足其ノ他海底ニ堆積スル物件ヲ積卸セントスルトキハ之カ水中ニ脱落スルヲ防ク爲必要ノ措置ヲ爲スヘシ

第十八條 前條ノ物件ヲ港内又ハ其ノ附近ノ水中ニ投棄シ

又ハ過失ニ依リ脱落セシメタル船舶ハ州知事又ハ廳長ノ指定スル期間内ニ之ヲ取除クヘシ

船舶前項ノ義務ヲ履行セサルトキハ州知事又ハ廳長ハ該船舶ノ費用ヲ以テ之ヲ取除クコトヲ得

第十九條 港内又ハ其ノ附近ニ於テ船舶ノ航行又ハ碇泊ニ

妨害トナルヘキ難破物其ノ他ノ物件ハ州知事又ハ廳長ノ指定スル期間内ニ其ノ所有者之ヲ取除クヘシ

所有者前項ノ義務ヲ履行セサルトキハ州知事又ハ廳長ハ所有者ノ費用ヲ以テ之ヲ取除キ又ハ破壊スルコトヲ得

第二十條 港内ニ於テ船舶ノ糞糞、修繕又ハ休繋セントスルトキハ豫メ之ヲ港務部長ニ届出テ碇泊所ノ指定ヲ受ク

三 第五條第一項ノ指定又ハ第二十三條ノ禁止ニ違反シタル者

第二十五條 本令中港務部長トアルハ安平港ニ付テハ所轄ノ警察署長トス

第二十六條 第二條、第三條、第六條乃至第九條、第十一條乃至第十三條、第十六條、第十八條第二項、第十九條

第二十一條、第二十二條及第二十四條ノ規定ハ之ヲ軍艦ニ適用セス

附 則

本令施行ノ期日ハ別ニ之ヲ定ム(昭和四年臺灣總督府令第七號ヲ以テ同年三月一日ヨリ施行)

當分ノ内淡水港及安平港ニハ本令中第二條第二項、第四條及第二十條ノ規定ヲ適用セス

基隆港内取締規則及高雄港内船舶出入及運航規程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一號様式

入 港 届
一 船 種
一 船 名
一 國 籍

臺灣開港規則(臺灣)

ヘシ

第二十一條 本令ニ依リ罰金若ハ科料ニ處セラレ又ハ費用ヲ納付スヘキ船舶之ヲ完納セサルトキハ州知事又ハ廳長ノ適當ト認ムル擔保ヲ提供スルニ非サレハ出港スルコトヲ得ス

第二十二條 本令ノ規定ニシテ船舶ニ係ルモノハ船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ニ之ヲ適用ス

船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ船舶ノ乗組員カ本令ニ違反シタル場合ニ於テ自己ノ指揮ニ出テサル故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十三條 州知事又ハ廳長必要ト認ムルトキハ期間及區域ヲ限リ船舶ノ航行及碇泊ヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ期間及區域ハ之ヲ告示ス

第二十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

- 一 第二條、第三條、第五條第二項、同條第三項、第六條第一項、同條第二項、第七條乃至第十條、第十一條
- 一 第一項、第十二條、第十四條、第十五條、第十七條、及第二十條ニ違反シタル者
- 二 第四條ノ水先人ノ乗船ヲ拒ミタル者

一 船 籍 港
一 船舶所有者
一 代理店又ハ取扱店
一 總 噸 數
一 登 簿 噸 數
一 最初發航地及年月日
一 最終發航地及年月日
一 入 港 日 時
一 船 員 數 名(内職員 名)
一 船 客 數 一二等其ノ他
一 噸稅有効期間
一 噸稅有効期間
一 右及届出候也
年 月 日
何港務部長殿
明 細 書
一 吃 水 前 呎
一 吃 水 後 呎
二 船ノ長さ
三 貨物ノ種類及噸數
船長氏名



陸揚  
通過  
四 上 陸 人  
一 等 女 男 人  
二 等 女 男 人  
三 等 女 男 人  
其ノ他 女 男 人  
計 人

五 常用超過爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件アラハ其ノ品名及數量並陸揚地  
六 豫定出港日時及仕向地  
七 碇泊地ノ位置及檢疫錨地ノ交叉角

第二號様式

出 港 届  
一 船 種 類  
一 船 名 籍 籍  
一 國 籍  
一 最終仕向地

一 最初仕向地  
一 出 港 日 時  
右及届出候也  
年 月 日

何港務部長殿  
明 細 書  
一 吃 水 前 後 呎  
二 當港積荷種類及噸數  
三 當港ヨリ乗船客

一 等 女 男 人  
二 等 女 男 人  
三 等 女 男 人  
其ノ他 女 男 人  
計 人

船 長 氏 名

### 花蓮港港規則

(昭和十五年一月 臺灣總督府令第九號)

#### 第一章 總 則

第一條 本令ニ於テ花蓮港港トハ臺灣開港規則第一條第二項ノ規定ニ依ル花蓮港ノ港界及之ニ隣接スル土地ニシテ港ノ利用ニ必要ナル區域ヲ謂フ  
前項ノ港界ノ區劃及港ノ利用ニ必要ナル區域ハ別記第一號表ニ依ル  
第二條 本令ニ於テ雜種船トハ總噸數百噸未満ノ船舶ヲ謂フ  
第三條 本令中船舶ニ關スル規定ハ船舶ニ類似セル形體ヲ有スル工作物ニ之ヲ準用ス  
第四條 花蓮港港ニ於テハ保稅地域ヲ除クノ外交通局長ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ旅客又ハ公衆ニ對シ寄附ヲ乞ヒ、物品ノ購買ヲ求メ、物品ヲ配付シ其ノ他演說勸誘等ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ  
第二章 水面ノ管理  
第五條 內港ニ入港セントスル船舶ハ外港附近ニ於テ長短

花蓮港港規則(臺灣)

二聲ノ汽角ヲ吹鳴シ港務部長ヨリ入港順序及碇泊所ノ指定其ノ他ノ指揮ヲ受クベシ但シ雜種船ニシテ雜種船區ニ入港スルモノハ此ノ限ニ在ラズ  
第六條 雜種船ニハ臺灣開港規則第七條ノ規定ヲ適用セズ  
第七條 臺灣開港規則第六條第一項ノ船舶入港シタルトキハ外港ニ於テ港務部長ノ指揮ヲ待ツベシ  
第八條 船舶日没後入港シタルトキハ日出迄外港ニ於テ假泊スベシ但シ雜種船及港務部長ノ許可ヲ受ケタル船舶ハ此ノ限ニ在ラズ  
第九條 雜種船以外ノ船舶ハ內港ニ於テハ繫船設備ニ依リテ碇泊スベシ但シ己ムコトヲ得ザル事由ニ依リ港務部長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
第十條 漁船ハ臺灣開港規則第三條ノ規定ニ拘ラズ入港シタルトキハ遲滞ナク別記第一號様式ノ入港届ヲ、出港セントスルトキハ別記第二號様式ノ出港届ヲ港務部長ニ提出スベシ  
第十一條 內港ヨリ出港セントスル船舶ハ出帆三十分前ヨリ信號符字ヲ掲ゲ解纜開始ノ直前ニ長短二聲ノ汽笛又ハ汽角ヲ吹鳴シ港務部長ノ指揮ヲ受クベシ但シ雜種船ハ此ノ限ニ在ラズ



第十二條 雜種船ハ特定信號ニ依ル警戒旗掲揚中ハ水道ニ出入スルコトヲ得ズ

第十三條 港務部長必要アリト認ムルトキハ船舶ノ航行停止又ハ出入順序若ハ碇泊所ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ港務部長必要アリト認ムルトキハ船舶ノ繫留、解纜又ハ轉繫ニ關シ曳船ノ使用ヲ命ズルコトヲ得

第十四條 船舶ハ左ノ各號ノ場合ニ於テハ臺灣開港規則第十條ノ規定ニ拘ラズ公ノ航路又ハ水道ニ投錨又ハ停留スルコトヲ得

- 一 衝突其ノ他急迫ノ危險ヲ避ケントスルトキ
- 二 運轉自由ヲ得ザルトキ
- 三 人命又ハ船舶ノ救助ニ從事スルトキ
- 四 測量若ハ浚渫作業又ハ航路標識ノ工事ニ從事スルトキ
- 五 難破物、沈沒物等ノ引揚其ノ他海中ノ工事ニ從事スルトキ

前項第三號又ハ第四號ノ場合船舶ハ最見易キ場所ニ晝間ハ黒球又ハ黒色ノ形象一箇ヲ夜間ハ紅燈一箇ヲ掲グベシ第一項第五號ノ場合船舶ハ最見易キ場所ニ晝間ハ紅色ノ方旗一箇ヲ、夜間ハ紅燈一箇ヲ掲グベシ

留スベカラズ但シ港務部長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條 左ノ各號ノ場合ニ於テハ港務部長ノ許可ヲ受ケベシ

- 一 遊漁、漁撈又ハ潜水作業ヲ爲サントスルトキ
- 二 竹木材ヲ水上ニ卸サントスルトキ
- 三 筏等ヲ繫留又ハ運行セントスルトキ
- 四 其ノ他船舶航行ノ妨ト爲ルベキ一切ノ作業ヲ爲サントスルトキ

第二十一條 船舶ハ法令ニ規定アル場合ヲ除クノ外濫ニ汽笛又ハ汽角ヲ吹鳴スベカラズ

第二十二條 左ノ各號ノ場合ニ於テハ港務部長ハ本令ニ基キテ爲シタル許可ヲ取消シ又ハ之ニ制限ヲ加フルコトヲ得

- 一 臺灣開港規則若ハ本令又ハ之ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ
- 二 公益上必要アリト認メタルトキ

第三章 設備ノ管理

第一節 岸壁、護岸及物揚場

第二十三條 港務部長第二章ノ規定ニ依リ船舶ノ入港、碇

花蓮港港規則(臺灣)

第十五條 水道又ハ内港ニ於テハ船舶ハ他船ニ危害ヲ及ボサザル程度ニ速力ヲ減ズベシ帆船ニ在リテハ帆ヲ用ヒテ航行スベカラズ

第十六條 船舶ハ並列シテ航行シ又ハ濫ニ他船ヲ追越スベカラズ

雜種船ハ雜種船以外ノ船舶ノ進路ヲ避ケベシ

第十七條 雜種船水道ヲ通過スルトキハ右舷ヲ護岸ニ近寄セテ航行スベシ

第十八條 船舶他ノ船舶、筏等ヲ曳航スルトキハ左ノ制限ヲ超ユベカラズ但シ港務部長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 曳船ノ船首ヨリ被曳船又ハ被曳物件ノ後端ニ至ル迄ノ延長六十メートル以内ニシテ單縱列ナルコト
- 二 被曳船ハ雜種船ニ在リテハ三隻以内、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ一隻ナルコト

船舶以外ノ物件ヲ曳航スル船舶水道ヲ通過セントスルトキハ前項第一號ノ制限ニ依ルノ外港務部長ノ許可ヲ受ケベシ

第十九條 雜種船、筏等ハ荷役等ノ爲碇泊中ノ船舶ノ舷側ニ一列ニ繫留スル場合ヲ除クノ外其ノ船尾又ハ舷側ニ繫

泊、出港等ニ付指揮ヲ爲サントスルトキハ豫メ臺灣總督府交通局花蓮港埠頭出張所(以下埠頭出張所長ト稱ス)ニ協議スベシ

岸壁ニ繫留シタル船舶ヲ轉繫セシムル必要アルトキハ埠頭出張所長ハ港務部長ニ對シ當該船舶ノ碇泊所ノ變更ヲ求ムベシ

埠頭出張所長ハ船舶ニ對シ其ノ繫留ニ付必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 岸壁ニ於テ船舶ヲ繫留スベキ位置ハN旗ヲ以テ之ヲ標示ス

第二十五條 船舶ガ岸壁繫留中ニ於テ失火其ノ他ノ事由ニ因リ港灣設備、貨物其ノ他ノ物件ニ危險又ハ障礙ヲ及ボス虞アルトキハ埠頭出張所長ハ當該船舶又ハ其ノ附近ノ船舶ニ對シ臨機ノ處置ヲ命ズルコトアルベシ

第二十六條 前條ノ場合ニ於テ船舶ガ命令ニ從ハザルトキハ埠頭出張所長ハ當該船舶ノ危險及費用ノ負擔ニ於テ必要ナル處置ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 岸壁ニ繫留中ノ船舶ハ蒸氣、汚水又ハ汚物ヲ陸上ニ排出スベカラズ

前項ノ規定ニ違反シタル船舶ハ埠頭出張所長ノ指示ニ從



ト適當ナル處置ヲ爲スベシ

第二十八條 岸壁、護岸及物揚場ニハ貨物其ノ他ノ物件ヲ放置スベカラズ

岸壁、護岸及物揚場ニ放置セラレタル貨物其ノ他ノ物件ハ交通局總長ニ於テ所有者ノ費用ヲ以テ之ヲ搬出、撤去又ハ處分スルコトヲ得

前項ノ處分ニ依リ得タル金額ハ其ノ所有者ガ花蓮港港ノ使用ニ依リテ負擔スベキ義務アル費用ニ之ヲ充當スルコトヲ得

第二節 上家野積場及船揚場

第二十九條 上家ハ船舶積卸貨物ヲ入ルル爲一般ニ之ヲ使用スルコトヲ得但シ左ノ貨物ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件
- 二 他ノ貨物ヲ汚損スル虞アルモノ
- 三 燃料、木材、石材、鐵材其ノ他粗雜品及潤大物

第三十條 野積場ハ船舶積卸貨物ノ置場トシテ一般ニ之ヲ使用スルコトヲ得但シ爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件ハ此ノ限ニ在ラズ

野積場ハ交通局總長之ヲ指定ス

第三十一條 上家又ハ野積場ヲ使用セントスル者ハ別記第

三號様式ノ申込書ヲ埠頭出張所長ニ提出シ同時ニ貨物ノ現實ノ提供ヲ爲スベシ

上家又ハ野積場ノ使用ハ前項ノ申込ノ順序ニ依ル

第三十二條 上家ニ入レタル貨物又ハ野積場ニ置キタル貨物ヲ引取ラントスル者ハ別記第四號様式ノ搬出届ヲ埠頭出張所長ニ提出シ積荷明細書ニ搬出承認印ノ押捺ヲ受クベシ

第三十三條 上家及野積場ニ於ケル貨物ニ付テハ埠頭出張所長ハ其ノ保管ノ責ニ任ゼズ

第三十四條 上家及野積場ニ於ケル貨物ノ置場ハ埠頭出張所長之ヲ指定ス

埠頭出張所長必要アリト認ムルトキハ前項ノ置場ヲ變更スルコトアルベシ此ノ場合ノ荷練費ハ貨主ノ負擔トス

第三十五條 上家ニ入レタル貨物又ハ野積場ニ置キタル貨物ハ其ノ當日ヨリ起算シ七日以内ニ之ヲ引取ルベシ

第三十六條 前條ノ期間ヲ經過スルモ引取ラレザル貨物ハ埠頭出張所長ニ於テ貨主ノ費用ヲ以テ之ヲ倉庫業者ニ委託スルコトアルベシ

前項ノ規定ニ依リ貨物ヲ寄託シタルトキハ埠頭出張所長ハ運滞ナク其ノ旨貨主ニ通知スベシ

第四十一條 左ノ設備ハ埠頭出張所ニ於テ之ヲ爲シ各其ノ

項ノ規定ニ依リ之ヲ運用ス

曳船

- 一 船舶ノ出入、繫留、解纜又ハ轉業ノ爲使用セシム
- 二 使用セントスル船舶ハ豫メ別記第六號様式ノ曳船使用許可願ヲ埠頭出張所長ニ提出シ其ノ許可ヲ受クベシ
- 三 被曳船ノ船側ニ至リタルトキヨリ當該船舶ノ指揮ニ屬ス
- 四 作業中ニ生ジタル自他ノ損害ハ曳船従事員ノ故意又ハ重大ナル過失ニ基因セルコトノ證明セラレタル場合ヲ除クノ外曳船ヲ使用シタル船舶ノ負擔トス

歩板

- 一 旅客ヲ運送スル船舶ニ使用セシメ無料トス
- 二 使用セントスル船舶ハ埠頭出張所長ノ許可ヲ受クベシ
- 三 裝備及監視ハ使用船舶ノ責任トス

起重機

- 一 交通局總長ノ指定スル者ヲシテ取扱ハシム
- 二 使用料其ノ他運用ニ關スル規定ハ交通局總長ノ認

花蓮港港規則(臺灣)

第三節 其ノ他諸設備

ヲ添附スベシ

長ニ提出シ其ノ許可ヲ受クベシ

第四十條 上家、野積場又ハ船揚場ノ一部ヲ繼續シテ使用セントスル者ハ別記第五號様式ノ使用許可願ヲ交通局總

長ニ提出シ其ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ上家、野積場又ハ船揚場ニ工作物ノ築造其ノ他ノ設備ヲ爲サントスルトキハ願書ニ其ノ設計仕様書及圖面ヲ添附スベシ



可ヲ受ケ前號ノ規定ニ依ル取扱者之ヲ定ム

第四十二條

左ノ設備ハ交通局總長ノ指定スル者ヲシテ之ヲ爲サシメ各其ノ項ノ規定ニ依リ之ヲ運用セシム但シ自家用ノ船又ハ雜用船ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ  
船

- 一 用途ヲ示シタル使用ノ申込ニ依リ所有者ノ都合ノ許ス限リ貸貸ス
- 二 陸上トノ交通不便ナル場所ニ碇泊中ノ船舶ガ屍體脚荷、灰燼、塵芥其ノ他ノ物件ヲ處分スル爲使用セントスルトキハFノ信號旗ヲ掲ゲベシ

雜用船

- 一 用途ヲ示シタル使用ノ申込ニ依リ所有者ノ都合ノ許ス限リ貸貸ス

網取船

- 一 船側ニ至リタルトキヨリ當該船舶ノ指揮ニ屬ス

繫船人夫

- 一 作業ヲ開始シタルトキヨリ當該船舶ノ指揮ニ屬ス

第四節 雜 則

第四十三條 防波堤、護岸其ノ他ノ設備ヲ毀損シタル者ハ其ノ復舊ニ要スル費用ヲ支辨スベシ貨物ノ變質、損傷等

ハ港務部長ノ許可ヲ受ケベシ

第六章 設備ノ使用料

第四十九條

埠頭出張所長ハ左ノ設備ノ使用料ヲ各其ノ項ノ規定ニ依リ徵收ス

岸壁使用料

- 一 船舶一隻一回ノ岸壁繫留二十四時間毎ニ總噸數一噸ニ付命令航路就航船ハ五厘、其ノ他ノ船舶ハ一錢ヲ徵收ス
- 二 二十四時間未滿ハ二十四時間、一噸未滿ハ一噸トシテ計算ス三轉繫ノ場合ハ前後ノ繫留時間ヲ通算ス

上家使用料

- 一 第三十五條ノ期間ヲ經過シタル貨物ニ對シ一噸ニ付期間滿了ノ日ノ翌日ハ三十錢、翌々日以後ハ一日ニ付十錢ヲ徵收ス
- 二 上家ニ入レタル貨物ニシテ貨主ノ都合ニ依リ船積セザルモノニ對シテハ上家ニ入レタル日ヨリ一噸一日ニ付十錢ヲ徵收ス
- 三 一噸未滿ハ一噸トシテ計算ス

- 四 第三十六條第一項ノ規定ニ依リ倉庫業者ニ寄託セラレタ貨物ニ對シテハ寄託ノ前日迄徵收ス

花蓮港港規則(臺灣)

ニ因リ上家其ノ他ノ設備ヲ毀損シタル場合ニ於ケル其ノ貨主亦同ジ

第四章 貨物ノ取扱

第四十四條

花蓮港港ニ於ケル荷役業ハ臺灣總督ノ許可ヲ受ケタル者ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第四十五條

前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ貨物ノ取扱ニ付業務規程ヲ定メ交通局總長ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第五章 特定信號

第四十六條

船舶ニ對スル港務部長ノ入港順序及碇泊所ノ指定並ニ出港其ノ他ノ指揮ニ關スル信號ハ別記第二號表ノ特定信號ニ依リ之ヲ爲ス

前項ノ特定信號ハ港口信號竿ニ之ヲ掲揚ス港口信號竿ノ位置及構造ハ別記第三號表ニ依ル

第四十七條

船舶前條ノ特定信號ヲ受ケタルトキハ碇泊所ノ指定ニ對シテハ其ノ特定信號ヲ掲ゲテ之ニ應答シ繫留後直ニ之ヲ引卸シ、出港其ノ他ノ指揮ニ對シテハ國際信號ノ回答旗ヲ掲ゲテ之ニ應答シ適宜ノ時期ニ之ヲ引卸スベシ

第四十八條 花蓮港港ニ於テ特設信號使用ヲセントスル者

野積場使用料

- 一 第三十五條ノ期間ヲ經過シタル貨物ニ對シ一噸ニ付期間滿了ノ日ノ翌日ハ二錢、翌々日以後ハ一日ニ付五厘ヲ徵收ス
- 二 野積場ニ置キタル貨物ニシテ貨主ノ都合ニ依リ船積セザルモノニ對シテハ野積場ニ置キタル日ヨリ一噸一日ニ付五厘ヲ徵收ス
- 三 一噸未滿ハ一噸トシテ計算ス

- 四 第三十六條第一項ノ規定ニ依リ倉庫業者ニ寄託セラレタル貨物ニ對シテハ寄託ノ前日迄徵收ス

上家、野積場又ハ船揚場ノ繼續使用料

- 一 第四十條ノ使用許可ノ指令ニ附シタル命令ノ條項ニ依リ徵收ス

曳船使用料

- 一 船舶一隻一回ニ付左ノ區別ニ依リ徵收ス
  - 汽船總噸數 三千噸以上 二十圓
  - 汽船總噸數 三千噸未滿 十五圓
  - 西洋形帆船 十五圓以内
  - 其ノ他ノ帆船 十圓以内
- 二 曳船開始ノ時ヨリ二時間以上ヲ經過シタルトキハ



爾後一時間又ハ其ノ端數毎ニ一隻ニ付二圓ヲ徵收ス  
三 曳船作業準備後使用ノ取消ヲ願出デタルトキハ燃  
料其ノ他消耗品ノ實費ヲ徵收ス

第五十條 貨物才、立方呎、石、斤、封度又ハ庭ヲ以テ標  
示セラレタルトキハ前條ノ規定ノ適用ニ付テハ各四十才  
四十立方呎、六石、千五百斤、二千封度又ハ千庭ヲ一噸  
トシテ計算ス  
容器ニ入レタル動物ハ其ノ容器ノ儘計算ス

第七章 罰則

第五十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰  
金又ハ科料ニ處ス

一 第五條、第八條乃至第十二條、第十四條第二項乃至  
第十八條第一項、第十九條又ハ第二十一條ノ規定ニ違  
反シタルトキ

二 許可ヲ受ケズシテ第四條、第十八條第二項、第二十  
條、第四十四條又ハ第四十八條ノ行爲ヲ爲シタルトキ

三 第十三條ノ命令ニ從ハザルトキ

第五十二條 本令ニ依リ罰金若ハ科料ニ處セラレ又ハ使用  
料其ノ他ノ費用ヲ納付スベキ船舶之ヲ完納セザルトキハ  
罰金又ハ科料ニ在リテハ廳長、使用料其ノ他ノ費用ニ處

リテハ交通局總長ノ適當ト認ムル擔保ヲ提供スルニ非ザ  
レバ出港スルコトヲ得ズ

第五十三條 本令ノ規定ニシテ船舶ニ係ルモノハ船長又ハ  
船長ノ職務ヲ行フ者ニ之ヲ適用ス

船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ船舶ノ乗組員ガ本令  
ニ違反シタル場合ニ於テ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以  
テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ズ貨主ノ代理人其ノ他ノ從業  
者ガ本令ニ違反シタル場合ニ於ケル其ノ貨主亦同ジ

第八章 雜則

第五十四條 第二十六條、第二十八條第二項、第三項、第  
四十三條、第四十九條及第七章ノ規定ハ國有ノ船舶ニ之  
ヲ適用セズ

第五十五條 第七條、第二十二條、第二十五條、第二十六  
條、第二十七條第二項、第二十八條第二項第三項、第四  
十三條、第四十九條及第七章ノ規定ハ軍艦ニ之ヲ適用セ  
ズ

附則

本令ハ昭和十五年二月一日ヨリ之ヲ施行ス  
(別記様式省略)

關稅法第九十九條ニ依リ  
從來ノ開港ノ外開港ト爲  
スヘキ場所指定ノ件

(明治四十二年八月)  
臺灣總督府令第五十五號

改正 大正十四年  
臺灣總督府令第三百三號

關稅法第九十九條ニ依リ從來ノ開港ノ外開港ト爲スヘキ場  
所左ノ通指定ス但シ花連港ヲ除クノ外當分ノ内支那形船ニ  
限リ出入スルコトヲ得  
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
明治三十二年八月府令第八十七號ハ之ヲ廢止ス  
新竹州 後 龍 臺中州 鹿 港 臺南州 東 石  
管内 管内 管内 管内  
花連港 花連港  
廳管内

臺灣ト内地、樺太、朝鮮及  
南洋群島間通航船舶取締  
規則

(大正九年十二月)  
臺灣總督府令第八十八號

改正 昭和十五年七月  
臺灣總督府令第一百一號

第一條 臺灣ト内地、樺太、朝鮮及南洋群島間ヲ通航スル  
船舶臺灣各港ニ入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二  
十四時以内ニ稅關ニ入港届ヲナシ内地、樺太、朝鮮及南  
洋群島ヨリ其ノ港ニ輸送シタル内國貨物及保稅工場移出  
又ハ保稅倉庫庫出ノ外國貨物ノ積荷目録ヲ提出スヘシ  
第二條 前條ノ船舶出港セントスルトキハ船長ハ出港一時  
間前ニ稅關ニ出港届ヲナシ其ノ船舶ノ港ヨリ内地、樺太  
朝鮮及南洋群島ニ輸送スヘキ内國貨物及保稅工場移出又  
ハ保稅、倉庫、庫出ノ外國貨物ノ積荷目録ヲ提出スヘシ  
第三條 第一條ノ船舶内地、樺太、朝鮮及南洋群島ヨリ臺

關稅法第九十九條ニ依リ從來ノ開港ノ外開港ト爲スヘキ場所指定ノ件  
臺灣ト内地、樺太、朝鮮及南洋群島間通航船舶取締規則(臺灣)



灣各港ニ、臺灣各港ヨリ内地、樺太、朝鮮及南洋群島ニ輸送スル貨物ノ積卸ヲナササルトキハ前二條ノ規定ニ拘ラス積荷目録ヲ提出スルヲ要セス

第四條 入港届及出港届ノ方式竝ニ積荷目録ノ様式ハ税關長之ヲ定ム

第五條 積荷目録ハ其ノ提出ノ日ヨリ七日内ハ税關ノ認許ヲ得テ之ヲ訂正補足スルコトヲ得

第六條 第一條ノ船舶臺灣ニ於ケル内地貨物ノ運送ニ關シテハ臺灣沿海通航船取締規則ヲ準用ス

第七條 税關官吏職務ノ爲船舶ニ乗組ムトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第八條 第一條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 第二條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 貨物ト符合セサル積荷目録ヲ提出シタルトキハ船長ヲ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 此ノ規則中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代リ

第二條 積荷目録ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 船名並船舶國籍證書又ハ船體札ノ番號

二 船籍港

三 船積量

四 船長ノ住所氏名

五 船員船客ノ氏名

六 積荷ノ種類、數量、價額及其ノ仕向地並仕出地

七 發港地、寄港地、終港地

八 入出港ノ年月日

第三條 乃至第六條 (削除)

第七條 出入港届ヲ爲ササルトキハ船長ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 此ノ規則中船長ニ適用スヘキ規定ハ船長ニ代テ其ノ職務ヲ行フ者ニ對シ亦之ヲ適用ス

其ノ職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第十二條 此ノ規則ニ於テ税關ニ關スル規定ハ税關支署、税關監視署又ハ其ノ之ナキ地ニ在リテハ郡役所、警察署警察分署、警察官吏派出所及警察官吏駐在所ニ之ヲ準用ス

第十三條 外國貿易船ニ依リ輸送スル第一條及第二條ノ貨物ニ關シテハ本令ノ規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣内地向復船舶取締規則ハ之ヲ廢

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和一一、七、臺令一〇一)

臺灣沿海通航船取締規則

(明治三十四年十二月)

臺灣總督府令第三百一十一號

改正 大正 臺灣總督府令第八號

第一條 沿海通航船臺灣沿岸ヲ往復スルトキハ出入港ノ都

度税關、税關支署、税關監視署、其ノ之ナキ所ニ於テハ

警察官署ニ出入港届ヲ爲シ積荷目録ヲ添附スヘシ

出入船舶届出規則

(大正十三年十月)

樺太廳令第三十五號

第一條 樺太ニ出入スル汽船及帆船ノ船長ハ別記第一號及

第二號様式ニ依リ各其ノ事項ヲ具シ所轄警察署ニ届出ツ

ヘシ

前項ノ届出ハ入港ノ場合ニ在リテハ即時、出港ノ場合ニ

在リテハ出港前ニ於テシ警察官署所在地外ノ地ニ在リテ

ハ受持警部補派出所、巡查部長派出所、巡查駐在所ヲ經

由スヘシ

第二條 前條ノ届出ヲ爲サス又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者

ハ七十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號様式ノ一 (用紙半紙罫紙)

一 船舶ノ種類

二 船 名

三 船主ノ氏名

四 船 籍 地

臺灣沿海通航船取締規則 (臺灣)・出入船舶届出規則 (樺太)



- 五 總噸數及登簿噸數又ハ石數
  - 六 船員ノ數
  - 七 陸揚スヘキ荷物、別紙目錄ノ通
  - 八 上陸スヘキ船客、別紙名簿ノ通
  - 九 發航地並其ノ年月日時
  - 十 寄 港 地
  - 十一 入港年月日時
- 右及御届候也

警察(分)署長殿

船長氏名印

第一號様式ノ二(用紙半紙罫紙)

揚 荷 目 録

計	品目	單位	數量	換算噸數	價格	仕出地	備考
/		稱呼		噸	圓		
/							
/							
/							
/							
/							
/							

記載例  
一 品目ハ具體的ニ記載スヘシ

年 月 日

船長氏名印

第二號様式ノ二(用紙半紙罫紙)

積 荷 目 録

計	品目	單位	數量	換算噸數	價格	仕向地	備考
		稱呼		噸	圓		

記載例

- 一 品目ハ具體的ニ記載スヘシ
- 二 數量ハ一般取引上使用スル單位、稱呼ヲ用キ換算噸數ハ噸以下二位迄トシ價格ハ厘位ヲ切捨ツヘシ
- 三 樺太產ト其ノ他ノ區別ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第二號様式ノ三(用紙半紙罫紙)

船 客 名 簿

等級	上陸地	本籍又ハ國籍	住 所	職業	男女別	氏 名	年 齡

船入澗取締規則(樺太)

- 二 數量ハ一般取引上使用スル單位、稱呼ヲ用キ換算噸數ハ噸以下二位迄トシ價格ハ厘位ヲ切捨ツヘシ
- 三 樺太產ト其ノ他ノ區別ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第一號様式ノ三(用紙半紙罫紙)

船 客 名 簿

等級	乘船地	本籍又ハ國籍	住 所	職業	男女別	氏 名	年 齡

第二號様式ノ一(用紙半紙罫紙)

出 港 届

- 一 船舶ノ種類
  - 二 船 名
  - 三 積込タル荷物 別紙目錄ノ通
  - 四 乗込タル船客 別紙名簿ノ通
  - 五 仕 向 地
  - 六 寄 港 地
  - 七 出港年月日時
- 右及御届候也

船入澗取締規則

(大正元年十二月 樺太廳令第十二號)

改正 昭和三年 樺太廳令第七號

- 第一條 本則ハ樺太廳ニ於テ又ハ樺太廳長官ノ許可ヲ受ケ修築シタル船入澗ニ之ヲ適用ス
  - 船入澗ノ區域ハ標杭ヲ以テ之ヲ表示ス
  - 第二條 船入澗ハ支廳長之ヲ管理ス
  - 第三條 左ノ事項ハ所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ
    - 一 工作物ヲ設クルトキ
    - 二 舟艇ノ引揚又ハ引卸ヲ爲スコト
    - 三 煙火其ノ他火器ヲ弄スルコト
    - 四 木材ヲ水面ト直接ニ揚卸スルコト
    - 五 前各號ノ外舟艇ノ出入碇泊又ハ荷役ニ支障アル事項
  - 第四條 船入澗ニ出入スル舟艇ハ海上衝突豫防法ノ定ムル所ニ依リ船燈ヲ掲クヘシ
  - 第五條 舟艇ハ航路ニ支障ナキ場所ニ碇泊繫留スヘシ
- 所轄警察官署ハ必要ト認ムルトキハ其ノ位置ノ變更ヲ命



スルコトアルヘシ

第六條 火藥類又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ搭載スル舟艇

ハ所轄警察官署ニ届出テ其ノ指示スル場所ニ碇泊スヘシ

第七條 船入洞ノ外側、之ニ連五スル護岸壁又ハ標木浮標

等ニ舟艇木材等ヲ繫留スヘカラス

第八條 重量又ハ長大ノ物件ヲ揚卸スルトキハ埠頭及物揚

場ヲ毀損セサル様豫メ相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第九條 故意又ハ懈怠ニ因リ埠頭物揚場又ハ其ノ他ノ營造

物ヲ毀損シタルトキハ其ノ修繕ヲ爲サシメ又ハ修繕ニ必

要ナル費用ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第十條 貨物其ノ他ノ物件ヲ海中ニ脱落シタルトキハ之ヲ

除去セシメ又ハ除去ニ必要ナル費用ヲ辨償セシムルコト

アルヘシ

第十一條 船入洞ニ荷足、塵芥、瓦礫又ハ禽獸ノ死屍等ヲ

投棄スヘカラス

第十二條 第三條、第四條、第五條第一項、第六條乃至第

八條及第十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ

處ス第五條第二項ノ命令ニ從ハサル者亦同シ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

船舶取締規則

(大正二年十月)

關東都督府令第三十三號

改正 昭和八年

關東廳令第六十一號

第一條 本令ハ大連港、旅順港及普蘭店港以外ノ關東州港

灣ニ出入スル船舶ニ之ヲ適用ス

第二條 左ニ掲クル船舶ハ關東州港灣ニ出入スルコトヲ得

一 總噸數二十噸未滿ノ船舶

二 支那形船舶

第三條 船舶ニシテ入港シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ第

一號又ハ第二號様式ノ著港届ヲ差出スヘシ

第四條 船舶ニシテ出港セムトスルトキハ所轄警察署ニ第

三號又ハ第四號様式ノ出港届ヲ差出シ第五號様式ノ出港

許可證ヲ受クルニ非サレハ出港スルコトヲ得ス但シ出港

五時間以前ニ出港届ノ手續ヲ了シタルトキハ出港許可證

ヲ受ケサルモ妨ケナシ

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ハ港外ニ碇泊シ検査

信號ヲ掲ケ警察官署ノ検査ヲ經テ其ノ許可ヲ受ケタル後

第七條 前二條ノ場合ニ於テ當該吏員ハ船舶所在地ニ於テ

完全ニ防疫上必要ナル處置ヲ爲スヲ得スト認ムルトキハ

其ノ船舶ニ對シ検査所其ノ他適當ノ地點ニ廻航ヲ命スル

コトヲ得

第八條 當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ船

舶ニ臨檢シ又ハ泊地ノ指定變更其ノ他必要ノ事項ヲ命ス

ルコトヲ得

第九條 船舶ニシテ警察官署ノ救援ヲ要スル場合ハ晝間ニ

在リテハ國際信號S T Tヲ掲ケ夜間ニ在リテハ藍火又ハ閃

火ヲ示スヘシ

第十條 船舶ニシテ火ヲ失シタルトキハ時鐘若ハ之ニ類似

ノ振鳴器ヲ連打シ又ハ氣笛ヲ連吹シ晝間ニ在リテハ國際

信號N Qヲ掲ケ夜間ハ號火、火箭等ヲ用キ見易キ發火信

號ヲ爲シ且斷エス紅燈ヲ上下スヘシ

前項ノ外危急ノ場合ニ遭遇シ救助ヲ要スルトキ亦同シ但

シ晝間ハ國際信號N Cヲ掲クヘシ

第十一條 船舶ハ所轄警察官署ノ許可ヲ得ルニ非サレハ屍

體、武器又ハ爆發物ヲ搭載シ又ハ陸揚スルコトヲ得ス船

舶ニシテ爆發物ヲ搭載シタルトキハ晝間ニ在リテハ赤旗

夜間ニ在リテハ紅燈ヲ掲ケ完全ナル位置ニ碇泊シ警察官

船舶取締規則 (關東州)

第六條 入港後傳染病患者又ハ其ノ疑似症患者ヲ發生シタ

ル船舶ニハ前條ノ規定ヲ準用ス

性腦脊髓膜炎ヲ謂フ

傳染病トハ虎列刺、赤痢、腸室扶斯、「バラチフス」、痘

瘡、發疹室扶斯、猩紅熱、實布埤利亞、「ペスト」、流行

性腦脊髄膜炎ヲ謂フ

第六條 入港後傳染病患者又ハ其ノ疑似症患者ヲ發生シタ

ル船舶ニハ前條ノ規定ヲ準用ス

性腦脊髄膜炎ヲ謂フ

傳染病トハ虎列刺、赤痢、腸室扶斯、「バラチフス」、痘

瘡、發疹室扶斯、猩紅熱、實布埤利亞、「ペスト」、流行

性腦脊髄膜炎ヲ謂フ

第六條 入港後傳染病患者又ハ其ノ疑似症患者ヲ發生シタ

ル船舶ニハ前條ノ規定ヲ準用ス

性腦脊髄膜炎ヲ謂フ

傳染病トハ虎列刺、赤痢、腸室扶斯、「バラチフス」、痘

瘡、發疹室扶斯、猩紅熱、實布埤利亞、「ペスト」、流行

性腦脊髄膜炎ヲ謂フ



吏ノ指揮ヲ受クヘシ

第十二條 第五條第六條第九條及第十條ノ信號ハ西洋形以外ノ船舶ニ在リテハ晝間ハ赤旗夜間ハ紅燈ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十三條 船舶ノ碇泊、船客船員ノ乗降、貨物ノ積卸ハ特ニ定メラレタル地點アルトキハ其ノ地點以外ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 船舶ハ航路ノ障害ト爲ルヘキ場所ニ碇泊スヘカラス

第十五條 塵芥、灰燼、土砂其ノ他船舶ニ障害ヲ及ホスノ虞アル物件ハ之ヲ港内ニ投棄スヘカラス

第十六條 第七條ニ依リ檢疫所ニ廻航ヲ命シタル船舶ノ消毒其ノ他ノ費用ハ船長又ハ其ノ代理者ヨリ之ヲ納付スヘシ

第十七條 警察署長ハ船舶ニ危害ヲ及ホスノ虞アル難破物委棄物其ノ他ノ物件ヲ期間ヲ定メ義務者ヲシテ之ヲ取除キ又ハ破壊セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ義務者其ノ義務ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキハ警察署長ニ於テ之ヲ施行シ又ハ第三者ヲシテ施行セシメ其ノ費用ハ義務者ヨ

リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十八條 本令及本令ニ基キ爲シタル處分ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

船舶ニ在リテハ前項ノ規定ハ船長又ハ船長ニ代ハリ其ノ職務ヲ行フ者ニ之ヲ適用ス

第十九條 當該官廳ハ本令ニ依ル罰金、科料若ハ費用ノ完納又ハ相當擔保物ノ提供アルマテ當該船舶ノ出港ヲ許ササルコトアルヘシ

附 則

第二十條 本令ハ大正三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十一條 明治三十九年九月府令第七號港灣出入船舶取締規則ハ之ヲ廢止ス

(第一號様式)

一	船舶種類及名稱	船	丸
二	國籍及船籍港名	國	港
三	積量 <small>噸數</small>	噸	積石數
四	長及吃水 <small>長</small>	噸	噸
五	船舶所有者	噸	噸
六	代理店	噸	噸

七 船客員數

名船客ノ乘船地、等級、職務、住所、身分、職業、男女、氏名、年齢別

内 譯

一等船客	男	名計	名
二等船客	男	名計	名
三等船客	男	名計	名
其ノ他ノ船客	男	名計	名
合 計	男	名計	名
八 乗組員ノ員數	女	名計	名
事務員以上ノ船員	女	名計	名
水火夫雜役夫	女	名計	名
九 發航地及發航年月日			
十 寄港地及著港年月日			
十一 爆發物若ハ容易ニ燒燃スヘキ物件搭載ノ有無、若アラハ其ノ品名數量			
十二 航海中ニ於ケル海難又ハ危險物ノ發見其ノ他異狀ノ有無			

船舶取締規則(關東州)

- 十三 航海中出生、犯罪者ノ有無
- 十四 航海中寄港中及現在船中ニ傳染病其ノ他ノ患者、死者ノ有無若アラハ其ノ病名
- 十五 航海中寄港中傳染病患者、死者アリタル船舶又ハ疑ハシキ船舶ト交通ノ有無
- 十六 航海中寄港中及現在船中ニ鼠ノ有無
- 十七 他港ニ於テ檢疫消毒停船ノ有無
- 十八 飲料水ヲ汲入レ又ハ食料ヲ積入レタル地名
- 十九 獸類又ハ其ノ皮骨類搭載ノ有無若アラハ其ノ種類、數量及搭載地名
- 二十 航海中及現在船中ニ病獸又ハ斃獸ノ有無
- 二十一 航海中寄港中獸疫ヲ發生シタル船舶又ハ疑ハシキ船舶ト交通ノ有無
- 二十二 積荷中襪、古綿、古着、古皮革、古羽毛、古敷物、古麻袋、古紙等ノ有無若アラハ其ノ搭載地名
- 二十三 輸入貨物ノ種類噸數(別表ノ通)

右昭和 年 月 日 午前 時 分 港ニ著港候間及御届候也

昭和 年 月 日



船長  
船醫

何警察署宛  
(第一號樣式別冊)

汽船 號丸	著港年月日	昭和年月日	午前午後	時
	船主			
船客明細書				
乘船地等級	國籍	族籍	住所	職業男女
等	國	身	所	氏名
		分	職	年
		住	業	齡
		所	男	
		職	女	
		業	氏	
		男	名	
		女	年	
		氏	齡	

(第一號樣式別冊)

輸入貨物表  
昭和年月日  
地名  
國籍  
船名

品名	數量	價格	船積港	備
穀類				
食料品				
機械類				
木材				
テメント				
建築材料				
綿絲				
綿布				
綿花				
染料				
雜品				
合計				

(第二號樣式)

帆船著港屆

仕出港(發港地)

届出人

船代理者

一 船名 著港日時 昭和年月日午時  
二 擔數(積量)  
三 船主原籍氏名

四 人員  
船客男女  
便乘者男女  
船員  
計  
合計名

何警察署宛

輸入貨物品目	箇數及擔數	價格	備考

(第三號樣式)

汽船出港屆

一 國籍、船舶種類及名稱 國 船 丸

船舶取締規則(關東州)

(第三號樣式別冊)

何警察署宛

船長

汽船	號丸	出港年月日	昭和年月日	午前午後	時
		船主			
上陸地等級	國籍	族籍	住所	職業男女	氏名
等	國	身	所	業	年
		分	職	男	齡
		住	業	女	
		所	氏	名	
		職	年	齡	
		業			

二 仕向港  
三 寄港地  
四 新乘船客員數 名 (船客、上陸地、等級、國籍、住所、身分、職業、男女、氏名、年齡別ハ別冊トシテ記載スヘシ)  
五 輸出貨物ノ種類噸數(別表ノ通)  
昭和年月日 午前午後 分出港候間及御届候也



(第三號樣式別表)

地名	國籍	船種	船名	輸出貨物表	昭和	年	月	日
			品名	噸數	價格			
			豆類					
			穀物種子					
			油					
			石炭					
			雜品					
			合計					

(第四號樣式)

帆船出港屆	仕向港 (到着港)	屆出人	船代理者	昭和	年	月	日	午時
一 船名	出港日時	昭	和	年	月	日	午	時
二 擔數(積量)	名							
三 新乘船人員	船客男	名						
	便乘女	名						
	船員	名						
何警察署宛	合計	名						

(第五號樣式)

輸出貨物品目	箇數及擔數	價格	備考

一 發 航 地  
 交付年月日  
 何警察署印  
**小型船舶等ノ港灣出入取  
 締ニ關スル件**

(昭和十五年八月)  
關東局令第六十六號

第一條 總噸數二十噸未滿ノ船舶及支那型船舶ハ大連港、旅順港又ハ普蘭店港ニ出入スル場合ヲ除クノ外當分ノ内關東州廳長官ノ指定シタル港灣ニ非ザレバ出入スルコトヲ得ズ但シ海難其ノ他不可抗力ニ因ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ前項ノ規定ハ端舟其ノ他權權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ權權ヲ以テ運轉スル船舶及所轄警察署長ノ許可ヲ受ケタル船舶ニハ之ヲ適用セズ

第二條 前條ノ規定ニ違反シタル船舶ニ付テハ船長又ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ヲ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三條 當該官廳ハ前條ノ規定ニ依ル罰金ノ完納又ハ相當擔保物ノ提供アル迄當該船舶ノ出港ヲ許サザルコトヲ得

附 則  
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

**帝國ト關東州トノ間ニ通  
 航スル船舶ノ件**

(明治三十九年八月)  
勅令第二百三十六號

帝國ト關東州トノ間ニ通航スル船舶ハ開港ニ由リ出入スヘシ  
 小型船舶等ノ港灣出入取締ニ關スル件・帝國ト關東州トノ間ニ通航スル船舶ノ件・旅順港取締規則(關東州)

**旅順港取締規則**

(昭和二年四月)  
關東廳令第十六號

第一條 本令ニ於テ港内ト稱スルハ旅順港規則第一條ニ規定スル第二區中別圖第二區第一、第二標木ヲ連結シタル想像線以北ノ海面及第三區ヲ謂フ

第二條 西港ヲ除ク第三區ノ水域ヲ船舶ノ自由碇泊所トシ西港並ニ西港内岸壁及棧橋ハ之ヲ船舶ノ碇泊所又ハ繫留所トス但シ汽艇、支那形船舶其ノ他小廻船ニ對シテハ別圖第二區内第一、第二標木ヲ連結シタル一線以北ノ水域ヲモ其ノ碇泊所及繫留所トス

第三條 自由碇泊所中老虎尾燈臺ヨリ南五度西ニ引キタル延長線以東ノ水域ヲ檢査地トス

第三條 入港船舶自由碇泊所以外ノ港内ニ碇泊セムトスルトキハ關東海務局長(以下海務局長ト稱ス)ノ指定ヲ受クヘシ但シ汽艇、支那形船舶其ノ他小廻船ハ航路又ハ運航ノ妨害ト爲ラサル限リ指定ヲ俟タズ碇泊スルコトヲ得



第四條 海務局長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ船舶ニ對シ碇泊所ノ變更又ハ運航ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第五條 港内ニ在ル船舶ハ海務局長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ碇泊所ヲ變更スルコトヲ得ス但シ風波災害其ノ他已ムコトヲ得サル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ニ依リ碇泊所ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク其ノ事由及碇泊所ヲ海務局長ニ届出ツヘシ

第六條 船舶入港ノ場合ニ於テハ港外ヨリ碇泊所ニ就ク迄出港ノ場合ニ於テハ碇泊所ヲ離ルル時ヨリ港外ニ出ツル迄晝間ハ國旗及信號符字ヲ表示シ夜間ハ所定ノ燈火ヲ掲クヘシ港内運航ノトキ亦同シ

第七條 關東州外ヨリ入港スル船舶ハ傳染病豫防ノ爲檢疫ヲ受クヘシ

前項ノ船舶ハ入港前ヨリ檢疫信號ヲ掲クヘシ  
檢疫信號ハ晝間ハ前橋頭ニ黃旗ヲ掲ケ夜間ハ同所ニ紅白二燈ヲ上下ニ連掲スルモノトス

定期郵便船又ハ特ニ緊急ヲ要スル船舶ニシテ夜間入港セムトスルトキハ成規ノ檢疫信號ヲ掲クルノ外汽笛長三聲ヲ發シ關東海務局(以下海務局ト稱ス)官吏ノ臨檢ヲ求ムヘシ

留所トノ間トス

海務局長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ總噸數一千噸未満ノ船舶ト雖モ前項ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

第十一條 水先人船舶ニ乗込ミタル場合ト雖モ船舶ノ指揮ハ船長ノ責任トス

第十二條 削除

第十三條 船舶入港シタルトキハ著港後二十四時間内ニ海務局ニ船員名簿寫ヲ提出シ同時ニ船舶國籍證書又ハ之ニ代ルヘキ證書及最近發航地ノ出港免狀ヲ預クヘシ但シ船客、貨物ノ積卸ヲ爲サスシテ著港後二十四時間内ニ出港スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ預リタル書類ハ出港許可ト同時ニ之ヲ還付ス支那形船及小廻船ニ在リテハ別記第五號書式ノ著港届ヲ提出シ第一項ノ書類ニ代フルコトヲ得

第十四條 船舶ハ出港一時間前ニ別記第三號書式(支那形船舶ニ在リテハ別記第六號書式)ノ出港届ヲ提出シ別記第四號書式ノ出港許可證ヲ受クルニ非サレハ出港スルコトヲ得ス

船舶ハ出港十二時間前ヨリ出帆旗ヲ前橋頭ニ掲クヘシ但シ支那形船及小廻船ハ此ノ限ニ在ラス

旅順港取締規則(關東州)

前項ノ船舶ハ豫メ船主又ハ代理店ヨリ其ノ旨ヲ海務局ニ届出ツヘシ

第八條 前條ノ船舶ハ檢疫地ニ假泊シ海務局官吏ノ臨檢ヲ受ケ別記第一號書式ノ著港届ヲ提出シ別記第二號書式ノ交通許可證ヲ受クルニ非サレハ陸地若ハ他船トノ交通船客若ハ船員ノ上陸又ハ物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 關東州沿岸ノミヲ航行スル船舶入港シタルトキハ直ニ別記第一號書式ノ著港届ヲ差出スヘシ  
前項ノ船舶左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前二條ノ規定ヲ準用ス

一 現ニ傳染病若ハ其ノ疑アル患者又ハ死者アルトキ  
二 航海中傳染病若ハ其ノ疑アル患者又ハ死者アリタルトキ

三 傳染病流行地ヲ發シ若ハ其ノ地ヲ經テ來航シ又ハ傳染病若ハ汚染シタル船舶ト交通シ其ノ他傳染病若ハ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルトキ

第十條 總噸數一千噸以上ノ船舶ハ水先人ノ水路嚮導アルニ非サレハ西港ニ出入スルコトヲ得ス但シ海務局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス  
前項ノ水路嚮導ノ區間ハ第二區南境界線ト碇泊所又ハ繫

第十五條 出港許可證ヲ受ケタル後二十四時間以上碇泊スル船舶ハ更ニ前二條ノ手續ヲ爲スニ非サレハ出港スルコトヲ得ス但シ荷役ヲ爲サル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 出港シタル船舶避難、修繕其ノ他ノ事故ノ爲出港後十二時間内ニ歸港シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル届書ヲ海務局ニ提出シ著港届ニ代フルコトヲ得

第十七條 左ニ掲クル以外ノ場所ニ於テ貨物ノ積卸又ハ船客船員ノ上陸若ハ乗船ヲ爲スコトヲ得ス但シ海務局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 西港汐見崎ヨリ朝日町第二標木ニ至ル沿岸  
二 第二區内第二標木ヨリ朝日町、嚴島町ヲ經テ下關波止場ニ至ル沿岸

第十八條 老虎尾水道内出入船舶ノ航路ハ白玉山高低導燈ヲ一直線ニ視ル線ヨリ東西各百米ノ幅ヲ以テ南方ニ走ル並行線内トス

前項ノ航路ノ延長ハ老虎尾水道南端ノ浮標ヨリ五百米トス

第十九條 前條ノ航路ヲ航行セムトスルトキハ入港船ハ老虎尾水道外ニ於テ出港船ノ航路ヲ避クヘシ  
船舶ハ老虎尾水導並前條ノ航路ニ於テ濫ニ停留若ハ投錨



シ又ハ被曳船ヲ放チ其ノ他航路ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲スヘカラス

帆船ハ老虎尾水道ニ於テ縫航スヘカラス

第二十条 海務局長ハ入出港船舶ニ對シ老虎尾山信號所ヨリ特定信號ヲ以テ入出港ニ關スル指示又ハ其ノ碇泊所ヲ示定ス

前項ノ特定信號ハ別ニ之ヲ告示ス

第二十一条 西港内ニ於ケル船舶ハ繫船壁又ハ棧橋ニ著發スル場合ヲ除クノ外老虎尾北端ト汐見崎突端トヲ結フ線以北ニ停留スヘカラス

第二十二条 船舶老虎尾水道ヲ通過セムトスルトキハ錨ヲ捲揚ケ海底電線ニ對スル危害ヲ豫防スヘシ

第二十三条 本令ニ於テ傳染病トハ「コレラ」、痘瘡、猩紅熱、「ペスト」、黃熱及發疹「チフス」ヲ謂フ  
傳染病ノ病源體保有者ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ傳染病患者ト看做ス

第二十四條 在港中ノ船舶其ノ船内ニ傳染病、赤痢、腸「チフス」、「バラチフス」、「デフテリヤ」、流行性腦脊髄膜炎又ハ其ノ疑アル患者發生シタルトキハ檢疫信號ヲ掲ケ海務局官吏ノ指揮ヲ受ケ更ニ別記第二號書式ノ交通許可證ヲ受クルニ非サレハ陸地若ハ他船トノ交通、船客若

二 航海中傳染病患者又ハ死者アリタルモノニハ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

三 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ其ノ他傳染病ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルモノニシテ必要アリト認ムルトキハ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

四 停船中傳染病患者若ハ死者又ハ傳染病ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルモノヲ發見シタルトキハ更ニ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

五 傳染病ノ疑アル患者アルトキハ二日ヨリ多カラサル期間停船ヲ命スルコト

六 發航地若ハ寄港地ノ狀況又ハ船舶ノ狀態若ハ船長ノ請求ニ依リ消毒若ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シ又ハ傳染病源體保有者ノ檢索ヲ爲スコト

七 別記第一號書式第二十二號ニ掲クル物件ニ對シテハ消毒、燒棄其ノ他ノ處分ヲ爲スコト  
八 必要アリト認ムルトキハ消毒ノ爲所定ノ場所ニ廻航セシムルコト

前項第一號及第三號ノ規定ニ依ル停船期間ハ消毒又ハ鼠

旅順港取締規則(關東州)

ハ船員ノ上陸又ハ物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス  
本項ノ病源體ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル事實ヲ發見シタルトキ亦同シ

第二十五条 海務局長必要アリト認ムルトキハ船舶ニ臨檢シ船客及船員ノ健康診斷ヲ行フコトヲ得

第二十六条 海務局長ハ牛、羊其ノ他ノ獸類又ハ其ノ屍體肉、皮、毛骨類等ヲ搭載セル船舶ニ臨檢シ家畜傳染病豫防上其ノ必要アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 船舶ノ消毒ヲ爲スコト  
二 家畜又ハ其ノ屍體、肉、皮、毛骨類ニ對シテハ隔離撲殺又ハ消毒等ノ處分ヲ爲スコト

前項ノ船舶入港シタルトキハ海務局官吏ノ臨檢ヲ終ル迄國際信號ニ依リ第三代表旗ノ下ニ「I」旗ヲ掲揚スヘシ

第二十七條 海務局長ハ船舶又ハ物件ニ對シ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 現ニ傳染病患者若ハ死者アルトキハ停船ヲ命シ患者死者又ハ物件ノ處分ヲ指示シ船舶其ノ他ノ消毒若ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シ且必要アリト認ムルトキハ一定ノ期間船客、船員ヲ檢査所又ハ船内ニ停留スルコト

族、昆蟲等ノ驅除ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ「ペスト」トハ十日以内、「コレラ」、黃熱ハ五日以内トス又第三號ノ場合ニ於ケル期間ノ算定ハ傳染病流行地ヲ發シタル時又ハ其ノ地ヲ經過シタル時若ハ傳染病ニ汚染シタルト疑フヘキ事實アリタル時ヨリ之ヲ起算ス

第二十七條ノ二 船舶左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ヨリ海務局長ニ申告シ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ受クヘシ但シ海務局長ハ積荷ノ種類其ノ他船舶ノ狀況ニ依リ之ヲ免除スルコトヲ得

一 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シタルトキ但シ其ノ後ノ寄港地ニ於テ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シ其ノ證明書ヲ所持スル船舶ヲ除ク

二 關東州外ヨリ來航シタル船舶ニシテ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シテヨリ六月ヲ經過シタルトキ  
第九條第二項第三號、前條第一項第三號及前項第一號ノ傳染病流行地ハ別ニ之ヲ告示ス

第二十八條 船舶及物件ノ消毒費、鼠族、昆蟲等ノ驅除費  
停留人ノ食費、患者死者ニ關スル費用及船舶夜間檢査手数料ハ船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ヨリ之ヲ徵收ス

第二十九條 船舶ハ健全證書ノ交付ヲ海務局長ニ申請スル



コトヲ得

前項ノ申請アリタルトキハ海務局長ハ其ノ船舶ノ健康状態ヲ檢閲シ別記第七號書式ノ健全證書ヲ交付スヘシ

第三十條 常用外ノ爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ搭載シ入港スル船舶ハ晝間ハ赤旗、夜間ハ紅燈一個ヲ前橋頭又ハ見易キ場所ニ掲ケ自由碇泊所ニ於テ海務局長ノ指揮ヲ俟ツヘシ

第三十一條 前條ノ爆發物トハ有煙火藥(EC火藥、「シユルツ」火藥、「アンペライト」ノ類) 棉火藥、各種「ダイナマイト」(「ブラスチングゼラチン」、「ゼリグナイト」、「ハアークルス」、「ゼラチスダイナマイト」、「カアーボニツト」、「ウエー、テル」、「マイト」、「ノーベルオルター」ノ類)「コルダイト」、「バリスチツト」、「ピクリン」酸、黃色火藥、「メリニツト」、「デシゲノールアベル」火藥、「ベライト」、「ロビライト」、「ノルネー」火藥、「マカリツト」、「フアーベル」、「アスファリン」、「ジエドット」、「ドナリツト」、「アンモンカアーボニツト」、「コーレンカアーボニツト」、「アンモナール」、「ナイトログリセリン」硝安火藥、雷酸鹽類(雷汞、雷、銀ノ類) 彈藥筒、實包、空包、藥筒、火藥又ハ爆發物ヲ裝填シタル彈丸又ハ水

雷、雷管、信管、爆管、門管、導火線、煙火ノ類ヲ謂ヒ容易ニ燃燒スヘキ物件トハ生石油(「アルマ」油、「ラングトン」油、「ロツク」油ヲ包含ス) 石油、「ナフター」、「テルピン」油、「エーテル」、「ベンゾル」、「石油「ベンヂン」「アセトン」、酒精及硫化炭素ノ類其ノ他華氏九十五度以下ノ熱度ニ依リ發火スヘキ氣體ヲ發スルモノヲ謂フ

第三十二條 船舶ニ備附クル大砲一門毎ニ火藥五十發分、門管又ハ爆管七十箇、小銃一挺毎ニ實包又ハ空包百發分、雷管百五十箇及積載船舶相當量ノ信號用榴彈、火箭、火箭管、救命焰等ニシテ適當ニ格納シタルモノヲ除クノ外爆發物ノ物件ハ總テ之ヲ常用外ト看做ス

第三十三條 港内ニ於テ常用外ノ爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ積卸セムトスル船舶ハ其ノ品名、數量ヲ海務局長ニ届出テ海務局長所定ノ場所ニ於テ積卸ヲ爲スヘシ前項ノ船舶ハ在港中晝間ハ赤旗、夜間ハ紅燈一箇ヲ前橋頭又ハ見易キ場所ニ掲ケヘシ

第三十四條 火氣ヲ有スル汽艇又ハ端船ニシテ赤旗又ハ紅燈一箇ヲ掲ケル船舶ノ近傍ヲ運航スルトキハ安全ナル距離ヲ保チ成ルヘク風下側ヲ運航スヘシ、風上側ヲ運航スルトキハ己ムヲ得サル場合ニ於テハ特ニ安全ナル距離ヲ保ツヘシ

第三十五條 船舶港内ニ於テ曳船ヲ爲シ又ハ竹木、筏其ノ他ノ物件ヲ曳クトキハ左ノ制限ニ從フヘシ但シ海務局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 曳船ノ船尾ヨリ船、竹木、筏其ノ他ノ物件ノ後端ニ至ル迄ノ距離ハ百米以内トスルコト

二 並列シテ船又ハ端船ヲ曳ク場合ニ在リテハ前號ノ距離ヲ超エサル限リニ隻トスルコト

三 船及端船以外ノ船ヲ曳ク場合ハ一隻トスルコト

第三十六條 港内(西港以外ノ第三區ヲ除ク)ニ碇泊中ノ船舶ハ其ノ後端ニ船、端船、竹木其ノ他ノ物件ヲ繫留シ水路ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第三十七條 港内ニ於テ船舶其ノ搭載セル多數ノ竹木ヲ水上ニ卸サムトスルトキ及筏又ハ多數ノ竹木ヲ繫留シ運上セムトスルトキハ海務局長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十八條 船舶港内ニ碇泊スルトキハ棧橋、繫船壁又ハ浮標ニ繫留スル場合ヲ除クノ外雙碇泊ヲ爲スヘシ但シ海務局長ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

旅順港取締規則(關東州)

第三十九條 港内ニ碇泊スル船舶ハ碇ニ浮標ヲ附スヘカラス

第四十條 汽艇、發動機艇、船、端船、支那形船其ノ他棧橋ヲ以テ運航スル船舶ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第四十一條 前條ノ船舶ニシテ埠頭、棧橋、岬角、護岸ノ突端又ハ繫留船ノ一端ヲ回航スル場合ニ於テ之ヲ右ニ見テ航行スルトキハ小廻リ、左ニ見テ航行スルトキハ大廻リヲ爲スヘシ

第四十二條 船舶港内ヲ航行スルトキハ針路ヲ保ツニ必要ナル速度ニ止ムヘシ

港内ニ於テ船舶並列シテ航行シ又ハ第十八條ノ航路及老虎尾水道ニ於テハ他船ノ前路ヲ横切り又ハ追越スヘカラス但シ汽艇其ノ他小廻船ニシテ危險ノ虞ナキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條 港内及其ノ沿岸ニ於ケル左ノ事項ハ關東長官ノ許可ヲ受クヘシ之ヲ變更シ又ハ撤去セムトスルトキ亦同シ

- 一 棧橋ノ架設、埠頭ノ築造
- 二 海面ノ埋立、浚渫、海岸ノ掘鑿
- 三 運河隧道ノ開通、橋梁、鐵道ノ架設



- 四 浮標、立標其ノ他航路標識ノ設置
- 五 第二區ノ沿岸(海軍用地ヲ除ク)ニシテ水面ヨリ百  
米以内ニ於ケル家屋倉庫其ノ他ノ築造物ノ新築
- 第四十四條 港内ニ於ケル左ノ事項ハ海務局長ノ許可ヲ受  
クヘシ
  - 一 海面又ハ海底ニ於ケル工作物ノ施設、變更又ハ撤去
  - 二 船舶航行ノ妨ト爲ルヘキ一切ノ作業
- 第四十五條 港内ニ於テ船舶ノ運航ノ妨ト爲ルヘキ漁撈採  
藻ヲ爲スコトヲ得ス
- 第四十六條 海務局長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ西港内ニ  
於テ水泳ヲ爲スコトヲ得ス
- 第四十七條 繫留ノ爲設置シタル浮標其ノ他ノ營造物ニ非  
サルモノニ船舶其ノ他ノ物件ヲ繫留スヘカラス
- 第四十八條 船舶カ浮標立標其ノ他ノ營造物ヲ毀損シタル  
トキハ其ノ修繕又ハ再設ノ費用ハ船長又ハ船長ノ職務ヲ  
行フ者之ヲ賠償スヘシ
- 第四十九條 第二區及西港ノ水面其ノ海岸竝之ニ注流スル  
水流ニハ塵芥、灰燼、油類其ノ他ノ物件ヲ委棄スヘカラ  
ス但シ油類ハ第三區(西港ヲ除ク)ニ於テ排洩スルコト  
ヲ得

- 港内ニ於テ荷足其ノ他土砂ノ類ヲ放棄セムトスルトキハ  
海務局長ノ指揮ヲ受クヘシ
- 船舶ニシテ塵芥、灰燼其ノ他物件ヲ處分スル爲船長ヲ要  
スルトキハ國際信號FT又ハ籠ヲ掲クヘシ
- 前項船長ニ要スル費用ハ船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ノ  
負擔トス
- 第五十條 港内ニ於テ石炭其ノ他海底ニ堆積スル虞アル物  
件ヲ積卸セムトスルトキハ水中ニ脱落スルコトヲ豫防ス  
ル爲必要ナル措置ヲ爲スヘシ
- 第五十一條 船舶ハ海務局官吏又ハ警察官吏ノ臨檢ヲ拒ム  
コトヲ得ス
- 臨檢官吏ノ要求アルトキハ船長其ノ他ノ乗組員ハ之ニ應  
ジ必要ナル便宜ヲ與フヘシ
- 第五十二條 在港中ノ船舶警察官吏ノ救援ヲ要スルトキハ  
晝間ハ國際信號STヲ掲ケ夜間ハ藍火又ハ閃火ヲ示スヘ  
シ
- 第五十三條 在港中ノ船舶火ヲ失シタルトキハ時鐘若ハ之  
ニ類似ノ振鳴器ヲ連打シ又ハ汽笛ヲ連吹シ晝間ハ國際信  
號NQヲ掲ケ夜間ハ號火、火筒等ヲ用キテ見易キ發火  
信號ヲ爲シ且斷ニス紅燈ヲ上下スヘシ船舶危急ノ場合ニ

- 遭遇シ救助ヲ要スルトキ亦同シ但シ晝間ハ國際信號ノN  
Cヲ掲クヘシ
- 第五十四條 海務局長ハ港内ニ於テ船舶ニ危害ヲ及ホスノ  
虞アル難破物、委棄物其ノ他ノ物件ハ期間ヲ定メ義務者  
ヲシテ之ヲ取除カシメ又ハ破壊セシムルコトヲ得
- 前項ノ場合ニ於テ義務者其ノ義務ヲ履行セサルトキハ海  
務局長之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ執行セシメ其ノ費用  
ハ義務者ヨリ之ヲ徵收ス
- 第五十五條 廢船其ノ他船舶ニ等シキ形體ヲ有スル工作物  
ニハ本令中船舶ニ關スル規定ヲ準用ス
- 第五十六條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ  
テ航海中特ニ危險ヲ惹起スルノ虞アリト認ムルトキハ一  
時其ノ出發ヲ差止ムルコトヲ得
  - 一 乾舷記號ヲ有スル船舶ニシテ制限吃水ヲ超エテ貨物  
ヲ搭載スルトキ
  - 二 貨物積載方不完全ニシテ傾斜甚シキトキ
  - 三 航海ニ適セサル事故アリタルトキ
- 第五十七條 港内ニ於テ倉庫船及休繫又ハ修繕セムトスル  
船舶ハ海務局長ニ届出テ碇泊位置ノ指定ヲ受クヘシ
- 第五十八條 船、端船、支那形船夜間港内ヲ航行スルト

- キハ船上見易キ所ニ白燈ヲ掲クヘシ
- 第五十九條 港内ニ於テ特設信號ヲ用キムトスル者ハ海務  
局長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第六十條 港内ニ於ケル船舶ハ海上衝突豫防法ノ規定其ノ  
他法令ニ規定アル場合ヲ除クノ外濫ニ汽笛又ハ汽角ヲ吹  
鳴スルコトヲ得ス
- 第六十一條 船舶ノ艤裝、休繫又ハ修繕ノ場合ニ於テ必要  
ト認ムルトキハ海務局長ハ相當船員ノ乗込ヲ命スルコト  
ヲ得
- 第六十二條 本令又ハ本令ニ基ク處分ニ違反シタル者ハ二  
百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 第六十三條 本令又ハ本令ニ基ク處分中船舶ニ係ルモノニ  
付テハ船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者其ノ責ニ任ス
- 船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ船舶ノ乗組員カ本令  
ニ違反シタル場合ニ於テ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ  
其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス
- 第六十四條 罰金、科料又ハ本令ニ依リ費ノ負擔ヲ命セ  
ラレタル場合ニ於テ之ヲ完納セサルトキ又ハ相當ノ擔保  
物ヲ提供セサルトキハ其ノ船舶ノ出港ヲ許サス
- 第六十五條 本令中第一條乃至第六條、第十條、第十一條



海事法令集

第十八條乃至第二十三條、第三十八條、第三十九條、第四十二條及第四十九條ノ規定ハ外國艦艇ニ之ヲ適用ス

第六十六條 外國艦艇ニシテ入港ノ際第九條第二項各號ノ

一ニ該當スル事實アルトキハ檢疫地ニ假泊シ檢疫信號ヲ掲クヘシ入港後傳染病患者發生シタルトキ亦同シ前項ノ場合ニ於テハ海務局官吏ハ艦艇長ト協議シ本令ノ規定ニ準シテ處分スヘシ

第六十七條 外國艦艇ノ乗員ハ滿州國駐劄特命全權大使ノ

許可ヲ受クルニ非サレハ武裝ノ儘上陸スルコトヲ得ス但シ准士官以上ニシテ其ノ服裝ニ帶劍ノ制アルモノニシテ帶劍ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條 本令ニ依リ大使ニ提出スヘキ書類ハ總テ海務局長ヲ經由スヘシ

附 則

本令ハ昭和二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別圖略ス) (別記)

(第一號書式)

- 一 船舶、種類及名稱
  - 二 國籍及船籍港名
  - 三 積量
- 〔總噸噸數 噸〕 〔登簿噸數 噸〕 國 船 積石數 石 丸 港

五九六

四 長及吃水……………長呎  
〔現在船尾吃水 呎吋〕

五 船舶所有者……………

六 代理店……………

內 譯

七 船客員數……………名  
〔船客ノ乗船地、等級、國籍、住所、身分、職業、男女、氏名、年齢別、別表トシテ記載スヘシ〕

區分	一 等			二 等			三 等			其ノ他ノ船客	合計	上陸客
	男	女	男女	男	女	男女	男	女	男女			
計												
外國人												
支那人												
日本人												
八 乘組員ノ員數												
上級員												
甲板部												
機關部												
事務員												
賄部												
其ノ他												
合計												

九 發航地及發航年月日……

十 寄港地及著發年月日……

十一 爆發物若ハ容易ニ燃燒スヘキ物件搭載ノ有無若アラハ其ノ品名數量

十二 航海中ニ於ケル海難又ハ危險物發見等ノ有無

十三 航海中出生、犯罪者ノ有無

十四 航海中、寄港中及現在船中ニ「ペスト」、「コレラ」、痘瘡、猩紅熱、黃熱、發疹「チフス」又ハ該病疑似症患者及其ノ他病者ノ有無若アラハ其ノ病名

十五 航海中、寄港中第十四號ニ掲ケル患者アリタル船舶又ハ疑ハシキ船舶ト交通ノ有無

十六 航海中、寄港中及現在船中ニ鼯鼠ノ有無

十七 他港ニ於テ検査、消毒、停船ノ有無

十八 飲料水ヲ汲入レ又ハ食料ヲ積入レタル地名

十九 牛、羊其ノ他ノ獸類又ハ其ノ屍體、肉、皮、毛骨類搭載ノ有無若アラハ其ノ種類、數量及搭載地名

二十 航海中、寄港中及現在船中ニ病獸又ハ鼯鼠ノ有無

二十一 航海中、寄港中家畜傳染病發生シタル船舶又ハ疑ハシキ船舶ト交通ノ有無

二十二 積荷中襪、古綿、古著、古皮、古羽毛、古敷

旅順港取締規則(關東州)

物、古麻袋、古紙等ノ有無若アラハ其ノ搭載地名  
二十三 揚荷ノ種類噸數(別表ノ通)  
昭和 年 月 日 時 分 著港候間及御届候也  
昭和 年 月 日

關東海務局 御中

船 長  
船 醫

(第一號書式別表ノ一)

船 丸	著港年月日		昭 和 年 月 日 午 前 後 時		船長氏名	船客明細書
	船長氏名	船醫	船長	船醫		
等 國 縣府	等 國 縣府	乘船地等級	國籍	族籍	住 所	職業
男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	別 名	年 齡
男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	年 齡	年 齡

五九七



(第一號書別表ノ二)

輸入貨物表  
Import Cargo List.

大連 昭和 年 月 日  
Dairen ..... 192.....  
國籍 船種  
Flag, Rig .....  
船 名  
Vessel's Name.....

品名	噸數	船積港	摘要
Articles.	Tonnage.	Where shipped.	Remarks.
穀類			
Crain.			
食料品			
provision.			
機械類			
Machinery.			
木材			
Timber.			
セメント			
Cement.			
建築橋梁等ノ材料			
Materials for Building & Bridge Consturction, etc.			
綿糸			
Cottonyarn.			
綿布			
Cotton Tissue.			
綿花			
Cotton.			
燃料			
Fuel.			
雜品			
Miscellaneous.			
合計			
Total.			

(第二號書式)

關東海務局



Marine Office, Kwantung Government.

交通許可證  
Communication permit.

交付年月日  
Date Delivered.....  
國籍 船種 船名  
Flag, Rig, Name of Vessel.....  
船長氏名  
Name of Master.....  
許可港  
port permitted.....  
臨檢官吏  
Inspecting Officers.....

(第三號書式)

- 一 船舶、國籍、種類及名稱
- 二 仕向港
- 三 寄港地
- 四 船客員數  
名 (船客上陸地、等級、國籍、住所、身分、職業、男女、氏名、年齡別、別表トシテ記載ス)
- 五 積荷ノ種類、噸數 (別表ノ通)

旅順港取締規則(關東州)

輸出貨物表  
Export Cargo List.

大連 昭和 年 月 日  
Dairen, ..... 192.....  
國籍 船種  
Flag, Rig.....  
船 名  
Vessel's Name.....

品名	噸數	陸揚港	摘要
Articles.	Tonnage	Where Landing	Remarks.
豆類			
Bean.			
穀類種子			
Grain. Seed.			
豆油			
Bean Oil.			
豆粕			
Bean Cake.			
石炭			
Coal.			
雜品			
Miscellaneous.			
合計			
Total.			

右昭和 年 月 日午前 時  
屆候也  
昭 和 年 月 日  
關東海務局御中  
船長

(第三號書式別表ノ一)



(第三號書式別表ノ二)

船丸		出港年月日	昭和	年	月	日	午後	前	時
船客明細書		船長氏名							
上陸地等級	國籍	住	所	職業	別	氏名	年齡		
等	國	身	族	男	女	氏	年		
等	國	分	籍	男	女	名	齡		
等	國	住	所	男	女	年	齡		
等	國	職	業	男	女	齡			
等	國	別	男	女	年	齡			
等	國	氏	名	年	齡				
等	國	年	齡						
等	國	歲							

(第四號書式)

關東海務局  
Marine Office, Kwantung Government.

出港許可證  
port Clearance.

番 號  
No. ....

交付年月日  
Date Delivered. ....

國籍 船種 船名  
Flag, Rig, Name of Vessel. ....

船長氏名  
Name of Master. ....

仕 向 地  
port of Destination. ....

寄 港 地  
Intermediate port of Call. ....

發 航 地  
port of Departure. ....

(第五號書式)  
單第 號 帆船著港届 發航港(所發航港)  
一 船名 船員數 届出人 代理店 氏名  
積石數 入港日時 昭和 年 月 日 午時  
關東海務局御中

(第六號書式)

輸入貨物品目	箇數或數量	備考

單第 號 帆船出港届 仕向港(所到著港)

届出人 代理店 氏名

一 船名 船員數 積石數 出港日時 昭和 年 月 日 午時

關東海務局御中

輸出貨物品目	箇數或數量	備考

(第七號書式)

健全證書

現時當港ニハ傳染病ノ流行無之且本日出港(船名)ノ健全

大連港規則(關東州)

康狀良好ナルコトヲ證明ス  
昭和 年 月 日

關東海務局長

大連港規則

(大正十四年四月  
關東廳令第二十二號)

改正  
昭和十五年十一月  
關東局令第百十號

第一條 黃白嘴ヨリ東嘴子ニ至ル一線以內ノ水域ヲ大連港トス

第二條 港內ヲ分チテ左ノ八區トス

放泊區 黃白嘴ヨリ北長山頂ニ至ル線ト同線カ北長山

南東岸ニ達シタル點ヨリ東嘴子ニ至ル線ト大連港境界

線トニ依リ圍マレタル水域

寺兒溝區 黃白嘴ヨリ北長山頂ニ至ル線ト防波堤東入口

兩燈臺ヲ連結スル線トニ依リ圍マレタル水域

埠頭區 東防波堤、北防波堤及西防波堤ニ依リ圍マレ

タル水域



露西亞町區 北防波堤北口紅燈臺ヨリ周家屯紅嘴ニ至ル線ト西防波堤トニ依リ圍マレタル水域

甘井子區 黃白嘴ヨリ北長山頂ニ至ル線以西ノ水域中寺兒溝區、埠頭區及露西亞町區ヲ除キタル水域

柳樹屯第一區 老龍頭ヨリ棉花島角ニ至ル線以西ノ水域  
柳樹屯第二區 棉花島角ヨリ紅浪子角ニ至ル線以北ノ水域

柳樹屯第三區 放泊區北境界線以北ノ水域中柳樹屯第一區及柳樹屯第二區ヲ除キタル水域

第三條 削除

第四條 船舶ノ碇泊所ヲ左ノ通定ム

一 寺兒溝區寺兒溝第一棧橋及第二棧橋附近ヲ危險物搭載船ノ碇泊所トス

二 防波堤東入口紅燈臺ヨリ第十九條ニ定ムル甘井子航路第三浮標ニ至ル線、同燈臺ヨリ南七十度東ノ線、寺兒溝導燈二燈ヲ一直線ニ視ル線及第十九條ニ定ムル甘井子航路第一浮標ト第三浮標トヲ一直線ニ視ル線トニ圍マレタル水域ヲ檢疫ヲ受クヘキ船舶ノ碇泊所（以下檢疫鋪地ト稱ス）トス  
三 放泊區中第十九條ニ定ムル大連航路、甘井子航路及

前號檢疫鋪地ヲ除ク水域ヲ船舶ノ自由碇泊所トス

第五條 海務局長必要ト認ムルトキハ船舶ノ碇泊所ヲ指定シ若ハ變更ヲ命シ又ハ運航ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第六條 港内ニ在ル船舶ハ海務局長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其ノ碇泊所ヲ變更スルコトヲ得ス但シ風波災害其ノ他已ムヲ得サル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス  
前項但書ノ場合ニ於テハ運滞ナク其ノ事由及碇泊所ヲ海務局長ニ届出ツヘシ

第七條 柳樹屯第一區、柳樹屯第二區及柳樹屯第三區ニ進航セムトスル船舶ハ豫メ海務局長ニ届出ツヘシ

第八條 船舶入港ノ場合ハ港外ヨリ碇泊所ニ就ク迄出港ノ場合ハ碇泊所ヲ離ルトキヨリ、港外ニ出ツル迄晝間ハ國旗及信號符字ヲ表示シ晝間ハ所定ノ燈火ヲ掲クヘシ港内運航ノトキ亦同シ

第九條 關東州外ヨリ入港スル船舶ハ檢疫鋪地ニ假泊シ傳染病豫防ノ爲檢疫ヲ受クヘシ但シ檢疫鋪地ニ於テ檢疫ヲ受ケ難キ場合ニ於テハ海務局長ノ指示シタル場所ニ於テ檢疫ヲ受クルコトヲ得  
前項ノ船舶ハ入港前ヨリ檢疫信號ヲ掲クヘシ  
檢疫信號ハ第十條ニ規定スル交通許可證ヲ受クル迄引卸

スコトヲ得ス

檢疫信號ハ晝間ハ前橋頭又ハ見易キ場所ニ黃旗ヲ掲ケ夜間ハ同所ニ紅白二燈ヲ上下ニ連掲スルモノトス

定期郵便船又ハ特ニ緊急ヲ要スル船舶ニシテ夜間入港セムトスルトキハ成規ノ檢疫信號ヲ掲クルノ外汽笛長三聲ヲ發シ海務局官吏ノ臨檢ヲ求ムヘシ

前項ノ船舶ハ豫メ船主又ハ代理店ヨリ其ノ旨海務局ニ届出ツヘシ

第十條 前條ノ船舶ハ海務局官吏ノ臨檢ヲ受ケ左ノ書類ヲ提出シ別記第三號様式ノ交通許可證ヲ受クルニ非サレハ陸地又ハ他船トノ交通、船客及船員ノ上陸及物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

一 著港届（別記第一號様式）

二 船客名簿（別記第二號様式）

三 船員名簿

四 船舶積荷目録

支那形船、帆船、發動機漁船其ノ他雜種船ニ在リテハ別記第七號様式、第八號様式及第九號様式ノ書類ヲ提出シテ前項ノ書類ニ代フルコトヲ得

第十一條 關東州沿岸ノミテ航行スル船舶入港シタルトキ

大連港規則（關東州）

二 航海中傳染病若ハ其ノ疑アル患者又ハ死者アリタルモノ

三 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ若ハ傳染病毒ニ汚染シタル疑アルモノ

第十二條 總噸數一千噸以上ノ船舶ハ水先人ノ水者導アラルニ非サレハ左ノ場所ニ著發スルコトヲ得ス但シ海務局長ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス  
寺兒溝區寺兒溝各棧橋、埠頭區各埠頭、甘井子區甘井子各埠頭  
前項水路嚮導ノ區間ハ港内ニ於ケル船舶ノ碇地ト前項ニ掲クル繫留所トノ間及繫留所相互間トス但シ出港ノ場合碇泊セサルトキハ繫留所ヨリ放泊區迄トス



海務局長必要ト認ムルトキハ總噸數一千噸未満ノ船舶ト雖前項ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

第十三條 水先人船舶ニ乗込ミタル場合ト雖船舶ノ指揮ハ船長ノ責任トス

第十四條 船舶入港シタルトキハ著港後二十四時間内ニ海務局ニ船舶國籍證書又ハ之ニ代ルヘキ證書及最近發航地ノ出港免狀ヲ預クヘシ但シ船客、貨物ノ積卸ヲ爲サスシテ著港後二十四時間内ニ出港スル場合ハ此ノ限ニ在ラス前項ニ依リ預リタル書類ハ出港許可ト同時ニ還付ス

第十五條 船舶ハ左ノ書類ヲ提出シ別記第六號様式ノ出港許可證ヲ受クルニ非サレハ出港スルコトヲ得ス

- 一 出港届(別記第四號様式)
- 二 船客名簿(別記第五號様式)
- 三 輸出貨物目錄

支那形船、帆船、發動機漁船其ノ他雜種船ニ在リテハ別記第十號様式及第十一號様式ノ書類ヲ提出シテ前項ノ書類ニ代フルコトヲ得

船舶ハ出港十二時間前ヨリ出帆旗ヲ前掲頭ニ掲クヘシ但シ支那形船、帆船、發動機漁船其ノ他雜種船ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 出港許可證ヲ受ケタル後二十四時間以上碇泊スル船舶ハ更ニ前二條ノ手續ヲ爲スニ非サレハ出港スルコトヲ得ス但シ荷役ヲ爲ササル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 出港シタル船舶避難、修繕其ノ他ノ事故ノ爲出港後十二時間内ニ歸航シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル届書ヲ海務局ニ提出シ第十條又ハ第十一條ノ規定ニ依ル書類ニ代フルコトヲ得

第十八條 左ニ掲クル以外ノ場所ニ於テ貨物ノ積卸又ハ船客及船員ノ上陸若ハ乗船ヲ爲スコトヲ得ス但シ海務局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一 寺兒溝區寺兒溝各棧橋及其ノ附近
- 二 埠頭區各埠頭
- 三 露西亞町區沿岸
- 四 甘井子區甘井子各埠頭
- 五 柳樹屯第二區沿岸

危險物ハ寺兒溝區寺兒溝第一棧橋、第二棧橋及甘井子區甘井子石油埠頭並其ノ附近以外ノ場所ニ於テ積卸ヲ爲スコトヲ得ス但シ海務局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス

第十九條 船舶ノ航路ヲ左ノ通定ム

大連航路 防波堤東入口兩燈臺ヨリ南七十度東二海里及北八十度西四鏈ニ走ル並行線内

甘井子航路 甘井子防波堤燈臺ヨリ第四浮標ヲ通シ第二浮標ニ至ル線ト第五浮標ヨリ第三浮標ヲ通シ第一浮標ニ至ル線内

第二十條 入港船埠頭區内又ハ甘井子各埠頭ニ進航セムトスルトキハ大連航路ニ在リテハ防波堤外ノ航路外ニ甘井子航路ニ在リテハ其ノ航路外ニ出港船ノ航路ヲ避クヘシ船舶ハ前條ノ航路ニ投錨シ又ハ被曳船ヲ放チ其ノ他航路ノ妨害ヲ爲スヘカラス

帆船ハ前條ノ航路ニ於テ縫航スヘカラス

第二十一條 船舶ハ大連埠頭第一信號所又ハ甘井子埠頭第二信號所ヨリ特定信號ヲ以テ指定スル繫留所又ハ碇泊所ニ非サレハ繫留又ハ碇泊スルコトヲ得ス前項ノ特定信號ヲ受ケタル船舶ハ運航中同一ノ信號ヲ掲クヘシ

第一項ノ特定信號ハ別ニ之ヲ告示ス

第二十二條 船舶埠頭區内ニ進航シ又ハ投錨セムトスルトキハ海務局長ノ指示ニ從フヘシ埠頭區内ニ出入スル帆船ハ防波堤北口又ハ西口ニ由ルヘシ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ海務局長ノ許可ヲ受テ防波堤東口ニ由ルコトヲ得

大連港規則(關東州)

第二十二條 船舶ハ埠頭又ハ棧橋ニ著發スル場合ヲ除クノ外其ノ周圍六百尺以内ニ停留スヘカラス

第二十三條 船舶防波堤ノ入口ヲ通過セムトスルトキハ錨ヲ捲揚ケ海底電線ニ對スル危害ヲ豫防スヘシ

第二十四條 本令ニ於テ傳染病ト稱スルハ「コレラ」、痘瘡、猩紅熱、「ペスト」、黃熱、發疹「チフス」ヲ謂フ傳染病源體保有者ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ傳染病患者ト看做ス

第二十五條 在港中ノ船舶傳染病、赤痢、腸「チフス」、「バチフス」、「ヂフテリア」、流行性腦脊髓膜炎若ハ其ノ疑アル患者發生シタルトキハ檢疫信號ヲ掲ケ海務局官吏ノ指揮ヲ受ケ更ニ別記第三號様式ノ交通許可證ヲ受クルニ非サレハ陸地又ハ他船トノ交通、船客若ハ船員ノ上陸及物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス前項ノ病源ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル事實ヲ發見シタルトキ亦同シ

第二十六條 海務局長必要ト認ムルトキハ船舶ニ臨檢シ船客及船員ノ健康診斷ヲ行フコトヲ得

第二十七條 海務局長ハ牛羊其ノ他ノ獸類又ハ其ノ屍體、肉、皮、毛骨類等ヲ搭載セル船舶ニ臨檢シ家畜傳染病豫



防上必要ト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 船舶ノ消毒ヲ爲スコト
  - 二 家畜又ハ其ノ屍體、肉、皮、毛骨類ニ對シテハ隔離撲殺、消毒等ノ處分ヲ爲スコト
- 前項ノ船舶入港シタルトキハ海務局官吏ノ臨檢ヲ終ル迄國際信號ニ依リ第三代表旗ノ下ニI旗ヲ掲揚スヘシ
- 第二十八條** 海務局長ハ船舶又ハ物件ニ對シ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 現ニ傳染病患者若ハ死者アルモノハ停船ヲ命シ患者死者又ハ物件ノ處分ヲ指示シ船舶其ノ他ノ消毒方法若ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シ且必要ト認ムルトキハ一定ノ期間船客、船員ヲ檢疫所又ハ船内ニ停留スルコト
- 二 航海中傳染病患者若ハ死者アリタルモノハ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト
- 三 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ其ノ他傳染病ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルモノハ必要ト認ムルトキハ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト
- 四 停船中傳染病患者若ハ死者又ハ傳染病ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルコトヲ發見シタルトキハ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

- 五 傳染病ノ疑アル患者アルトキハ二日ヨリ多カラサル期間停船ヲ命スルコト
- 六 發航地若ハ寄港地ノ狀況又ハ船舶ノ狀態若ハ船長ノ請求ニ依リ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シ若ハ傳染病源體保有者ノ檢索ヲ爲スコト
- 七 別記第一號様式第二十一號ニ掲クル物件ニ對シテハ消毒、燒棄其ノ他ノ處分ヲ爲スコト
- 八 必要ト認ムルトキハ消毒ノ爲所定ノ場所ニ廻航セシムルコト

前項第一號ノ停船期間ハ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ「ベスト」ハ十日以内、「コレラ」、黃熱ハ五日以内トス但シ前項第三號ノ場合ニ於テハ傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經過シ若ハ傳染病ニ汚染シタルト疑フヘキ事實アリタル時ヨリ起算ス

**第二十八條ノ二** 船舶左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ヨリ海務局長ニ申告シ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ受クヘシ但シ海務局長ハ積荷ノ種類其ノ他船舶ノ狀況ニ依リ之ヲ免除スルコトヲ得

一 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シタルト

キ但シ其ノ後ノ寄港地ニ於テ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シ其ノ證明書ヲ所持スル船舶ヲ除ク

二 關東州外ヨリ來航シタル船舶ニシテ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シテヨリ六月ヲ經過シタルトキ

**第二十九條** 船舶及物件ノ消毒費、鼠族、昆蟲等ノ驅除費、停留人ノ食費、患者死者ニ關スル費用及船舶夜間檢疫手數料ハ船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ヨリ之ヲ徵收ス

**第三十條** 船舶ハ健全證書ノ交付ヲ海務局長ニ申請スルコトヲ得

前項ノ申請アリタルトキハ海務局長ハ其ノ船舶ノ健康狀態ヲ檢閲シ別記第十二號様式ノ健全證書ヲ交付スヘシ

**第三十一條** 常用外ノ危險物ヲ搭載シ入港スル船舶ハ晝間ハ赤旗、夜間ハ紅燈一箇ヲ前橋頭又ハ見易キ場所ニ掲ケ放泊區ニ在リテ海務局官吏ノ指揮ヲ俟ツヘシ

危險物ノ種類ハ別ニ之ヲ告示ス

**第三十二條** 削除

**第三十三條** 危險物ニシテ船舶備附ノ大砲一門毎ニ火藥五十發分門管又ハ爆管七十箇、小銃一挺毎ニ實包又ハ空包

大連港規則(關東州)

百發分雷管百五十箇及信號用榴彈、火箭、焰管、救命燈等ニシテ適當ニ格納シ且船舶ノ用品タルコトヲ證シ得ルモノヲ除ク外總テ之ヲ常用外ト看做ス

**第三十四條** 常用外ノ危險物ヲ積卸セムトスル船舶ハ其ノ品名、數量ヲ海務局長ニ届出テ所定ノ場所ニ於テ積卸ヲ爲スヘシ

**第三十五條** 火氣ヲ有スル汽艇又ハ端船ニシテ赤旗又ハ紅燈一箇ヲ掲ケル船舶ノ近傍ヲ運航スルトキハ安全ナル距離ヲ保チ成ルヘク風下側ヲ運航スヘシ風上側ヲ運航スルノ已ムヲ得サル場合ニ於テハ十分安全ナル距離ヲ保ツヘシ

**第三十六條** 海務局長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ港内ニ於テ火器又ハ爆發物ノ發射發火ヲ爲スコトヲ得ス

**第三十七條** 船舶港内ニ於テ曳船ヲ爲シ又ハ竹木、筏其ノ他ノ物件ヲ曳クトキハ海務局長ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除ク外左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 曳船ノ船尾ヨリ舳船、端船、竹木、筏其ノ他ノ物件ノ後端ニ至ルマテノ距離ハ六十間ヲ超ユヘカラス
- 二 舳船及端船ハ前號ノ距離ヲ超ユサル限リ二隻並列シテ曳クコトヲ得



三 舢舨及端船以外ノ船ヲ曳ク場合ハ一隻ヲ超ユヘカラ

第三十八條 碇泊中ノ船舶ハ其ノ後端ニ舢舨、端船、竹木

第三十九條 港内ニ於テ多數ノ竹木、筏其ノ他ノ物件ヲ水

第四十條 船舶港内ニ碇泊スルトキハ棧橋又ハ浮標ニ繫留

第四十一條 港内ニ碇泊スル船舶ハ諸ニ浮標ヲ附スヘカラ

第四十二條 港内ニ於テ汽艇、發動機艇、舢舨、端船、支

第四十三條 前條ノ船舶ニシテ埠頭、棧橋、防波堤ノ突端

第四十四條 船舶港内ヲ航行スルトキハ針路ヲ保ツニ必要

第五十條 港内及其ノ海岸並之ニ注入スル水溝ニハ塵芥、

第五十一條 港内ニ於テ石炭其ノ他海底ニ堆積スル虞アル

第五十二條 船舶ハ海務局官吏及警察官吏ノ臨檢ヲ拒ムコ

第五十三條 在港中ノ船舶警察官吏ノ救授ヲ要スルトキハ

第五十四條 在港中ノ船舶火ヲ失シタルトキハ時鐘若ハ之

第五十五條 海務局長ハ港内ニ於テ船舶ニ危害ヲ及ホスノ

第五十六條 廢船其ノ他船舶ニ等シキ形體ヲ有スル工作物

第五十七條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

第五十八條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

第五十九條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

第六十條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

第六十一條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

第六十二條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

第六十三條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

第六十四條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

第六十五條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

第六十六條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

第六十七條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

大連港規則(關東州)

ナル速力ニ止ムヘシ

港内ニ於テ船舶並列シテ航行シ又ハ航路及埠頭區内ニ於

第四十五條 港内ニ於ケル左ノ事項ハ(關東長官)ノ許可

第四十六條 港内ニ於ケル左ノ事項ハ海務局長ノ許可ヲ受

第四十七條 海務局長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ港内ニ於

第四十八條 繫留ノ爲設置シタル浮標其ノ他ノ營造物ニ非

第四十九條 船舶カ浮標、立標其ノ他ノ營造物ヲ毀損シタ

第五十三條 在港中ノ船舶警察官吏ノ救授ヲ要スルトキハ

第五十四條 在港中ノ船舶火ヲ失シタルトキハ時鐘若ハ之

第五十五條 海務局長ハ港内ニ於テ船舶ニ危害ヲ及ホスノ

第五十六條 廢船其ノ他船舶ニ等シキ形體ヲ有スル工作物

第五十七條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

第五十八條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

第五十九條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

第六十條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

第六十一條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

第六十二條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

第六十三條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

第六十四條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

第六十五條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

第六十六條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

第六十七條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

第六十八條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

第六十九條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

第七十條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

第七十一條 海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシ

六〇九



- 一 滿載吃水線ノ標示ヲ有スル船舶ニシテ制限吃水ヲ超エテ貨物ヲ搭載シタルトキ
- 二 滿載吃水線ノ標示ヲ有セサルモ貨物ヲ過載シタルトキ
- 三 貨物積載方不完全ニシテ傾斜甚シキトキ
- 四 航海ニ適セサル事故アリタルトキ
- 第五十八條 港内ニ於テ倉庫船及休繋又ハ修繕セムトスル船舶ハ海務局長ニ届出テ碇泊所ノ指定ヲ受クヘシ
- 第五十九條 舢艫、端船、支那形船夜間港内ヲ航行スルトキハ舷上見易キ所ニ白燈ヲ掲クヘシ
- 第六十條 港内ニ於テ特設信號ヲ用キムトスル者ハ海務局長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第六十一條 船舶ハ海上衝突豫防法ノ規定其ノ他法令ニ規定アル場合ヲ除クノ外濫ニ汽笛若ハ汽角ヲ吹鳴スルコトヲ得ス
- 第六十二條 船舶ノ修繕、休繋又ハ修繕ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ海務局長ハ相當船員ノ乗込ヲ命スルコトヲ得
- 第六十三條 本令ニ規定スル方位ハ總テ眞方位トス
- 第六十四條 本令又ハ本令ニ基ク處分ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

- 第六十五條 本令又ハ本令ニ基ク處分中船舶ニ係ルモノニ付テハ船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者其ノ責ニ任ス  
船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ船舶ノ乗組員カ本令ニ違反シタル場合ニ於テ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス
- 第六十六條 罰金、科料又ハ本令ニ依リ負擔スヘキ費用ヲ完納スルカ若ハ相當ノ擔保物ヲ提供スルニ非サレハ其ノ船舶ノ出港ヲ許サス
- 第六十七條 本令中第四條乃至第六條、第十二條、第二十条乃至第二十二條、第四十條、第四十一條、第四十四條及第五十條ヲ除クノ外ハ内外國軍艦ニ之ヲ適用セス
- 第六十八條 内外國軍艦ニシテ入港ノ際第十一條第二項各號ニ該當スル事實ナキトキハ其ノ艦長又ハ醫官ヨリ書面ヲ以テ海務局長ニ其ノ旨通告スヘシ
- 第六十九條 内外國軍艦ニシテ入港ノ際第十一條第二項各號ノ一ニ該當スル事實アルトキハ放泊區ニ假泊シ檢疫信號ヲ掲クヘシ入港後傳染病患者發生シタルトキ亦同シ  
前項ノ場合ニ於テ海務局長ハ艦長ト協議シ本令ノ規定ニ準シテ處分スヘシ

附 則 本令ハ大正十四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

大連港則ハ之ヲ廢止ス

附 則 (昭和八年廳令第六十號)

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
明治四十四年關東都督府告示第七十五號ハ之ヲ廢止ス

附 則 (改正 昭和一五、一一、關令一一〇)

本令ハ昭和十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
(第一號様式)

- 一 船種及船名
- 二 國籍及船籍港名
- 三 積 量
- 四 長及吃水
- 五 船舶所有者
- 六 代理店
- 七 乗組員ノ員數

總噸數  
登簿噸數

積石數

現在吃水  
滿載吃水

上級員	甲板部	機關部	事務員	賄 部	其ノ他	合 計

- 八 發航地及發航年月日
- 九 寄港地及著發年月日
- 十 危險物搭載ノ有無若アラハ其ノ品名及數量

大連港規則(關東州)

- 十一 航海中ニ於ケル海難又ハ危險物發見等ノ有無
- 十二 航海中出生、犯罪者ノ有無
- 十三 航海中、寄港中及現地船中ニ「ペスト」、「コレラ」、痘瘡、猩紅熱、黃熱、發疹「チフス」又ハ該病疑似症患者及其ノ他病者死者ノ有無若アラハ其ノ病名
- 十四 航海中、寄港中前號ニ掲クル患者アリタル船舶又ハ疑ハシキ船舶ト交通ノ有無
- 十五 航海中、寄港中及現在船中ニ斃鼠ノ有無
- 十六 最近ニ於ケル検査、消毒又ハ停船ノ有無若アラハ其ノ港名及年月日
- 十七 飲料水ヲ汲入レ又ハ食料ヲ積入レタル地名
- 十八 牛、羊其ノ他ノ獸類又ハ其ノ屍體、肉、皮、毛骨類搭載ノ有無若アラハ其ノ種類、數量及搭載地名
- 十九 航海中、寄港中及現在船中ニ病獸又ハ斃獸ノ有無
- 二十 航海中、寄港中家畜傳染病發生シタル船舶又ハ疑ハシキ船舶ト交通ノ有無
- 二十一 積荷中襪襪、古綿、古着、古皮革、古羽毛、古敷物、古麻袋、古紙等ノ有無若アラハ其ノ搭載地名及數量
- 二十二 積荷ノ有無



二十三 無線電信機施設の有無  
右年月日午時分著港候間及御届候也

年 月 日  
船長氏 名

(第二號樣式)

船客名簿

一 船名  
二 船客總人員  
右及御届候也

年月日  
船客內譯  
船長氏 名

計	外國人	中國人	日本人	區分		其/他	合計	以上/內 大連上陸客
				男	女			

(第三號樣式)

船客人名

乘船地	上陸地	船室等級	國籍	現住所	身分	職業	別	氏名	年齡

關東廳海務局



Marine Office, Kwantung Government.

交通許可證  
Communication Permit.

交付年月日 Date Delivered.....  
 國籍・船種・船名  
 Flag, Rig, Name of Vessel.....  
 船長氏名  
 Name of Master.....  
 許可證  
 Port Permitted..... 大連  
 大連  
 大連  
 DAIREN  
 臨檢官吏  
 Inspecting Officers.....

(第四號樣式)

出港届

一 船種及船名  
 二 仕向港地  
 三 寄港地  
 四 船客の有無  
 五 積荷の有無  
 六 出港日時  
 右及御届候也

年月日

船長氏 名

(第五號樣式)

船客名簿

一 船名  
 一 大連港乗客人員  
 右及御届候也

年月日

船長氏 名

大連港規則(關東州)

大連港乗客內譯

計	外國人	中國人	日本人	區分		其/他	合計
				男	女		

大連港乗客人名

上陸地	船室等級	國籍	現住所	身分	職業	男女別	氏名	年齡



(第六號樣式)

關東廳海務局



Marine Office, Kwantung Government.

出港許可證  
Port Clearance.

番號 No. ....  
 交付年月日 Date Delivered. ....  
 國籍・船種・船名 Flag, Rig, Name of Vessel. ....  
 船長氏名 Name of Master. ....  
 仕向地 Port of Destination. ....  
 寄港地 Intermediate Port of Call. ....  
 發航地 大連 Port of Departure. DAIREN

(第七號樣式)

著港屆

- 一 船種及船名
- 二 仕出港
- 三 積量噸數又ハ石數
- 四 船主本籍及氏名
- 右 年月日午時 分著港候間及御届候也

乘船地上陸地	本籍	職業	男女別	氏名	年齢

(第十號樣式)

出港屆

- 一 船種及船名
  - 二 仕出港
  - 三 出港日時
  - 右 及御届候也
- 年月日
- 船長氏名
- (關東廳)海務局宛

輸出貨物目錄箇數又ハ數量	見積價格	備考

大連港規則(關東州)

船長氏名

(關東廳)海務局宛

輸入貨物目錄箇數又ハ數量	見積價格	備考

(第八號樣式)

船員名簿

本籍	職名	氏名	年齢

(第九號樣式)

船客名簿

上陸地	本籍	職業	男女別	氏名	年齢

(第十一號樣式)

船客名簿


(第十二號樣式)

健全證書

現時當港ニハ傳染病ノ流行無之且本日出港(船名)ノ健康状態良好ナルコトヲ證明ス

年月日

(關東廳)海務局長 氏名



### 普蘭店港規則

(昭和八年九月)  
關東廳令第四十八號

第一條 蕎麥山ノ山頂ヨリ西中島ノ南端ニ引キタル一線及西中島ノ北端ヨリ交流島ノ北端ヲ經テ對岸ニ引キタル一線以內ノ水域ヲ普蘭店港トス

第二條 港内ヲ分チテ左ノ四區トス

第一區 黑嘴ヨリ兔島東北端ヲ經ル一線以西ノ水域

第二區 西嘴子ヨリ復州臺子山頂ニ引キタル線ト第一區境界線トニ依リ圍マレタル水域

第三區 大砵子ノ西南端ト犯狗礁ノ南端トノ連結線ヲ西岸ニ延長シタル線ト第二區境界線トニ依リ圍マレタル水域

第四區 第三區境界線以內ノ水域

第三條 關東廳海務局長ハ入出港船舶ニ對シ西中島信號所又ハ後三道灣信號所ヨリ特定信號ヲ以テ入出港ニ關スル指示ヲ爲シ又ハ其ノ碇泊所ヲ指定ス

前項ノ特定信號ハ別ニ之ヲ告示ス

同 一千噸以上二千噸未満 六十圓  
二千噸以上一千噸未満ヲ増ス毎ニ二十圓ヲ加フ  
局部消毒費ハ各其ノ四分ノ一トス

積荷消毒費 一箇ニ付キ 三十錢

船客船員ノ衣服手荷物所持品ノ消毒費

一等船客及之ニ準スヘキ船員 一人分ニ付 二圓

二等船客及之ニ準スヘキ船員 一人分ニ付 一圓

三等船客及之ニ準スヘキ船員 一人分ニ付 二十錢

鼠族、昆蟲等ノ驅除費

硫黃燻蒸ヲ施行シタル船體各部ノ總容積千五百立方

「メートル」未満 十五圓

千五百立方「メートル」以上ハ千五百立方「メートル」又

ハ其ノ未滿ヲ増ス毎ニ五圓ヲ加フ

船舶ノ必要ニ依リ特ニ嚴重ナル鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ

請求シタルトキハ倍額ノ驅除費ヲ徵收ス

檢疫所ニ移轉セシメタル者ノ食費

一等船客及之ニ準スヘキ船員 一人一日 三圓

分ニ付 三圓

洋食 六圓

同 圓

二等船客及之ニ準スヘキ船員 一人一日 一圓五十錢

分ニ付 一圓五十錢

普蘭店港規則(關東州)・旅順港取締規則、大連港規則及普蘭店港規則ニ依ル船舶

物件ノ消毒費、停留人ノ食費、患者、死者其ノ他ニ關スル費用及手数料(關東州) 六一七

第四條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外船舶ノ出入其ノ他ニ關シテハ大連港規則ヲ準用ス

附 則

本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

旅順港取締規則、大連港規則及普蘭店港規則ニ依ル船舶物件ノ消毒費、停留人ノ食費、患者、死者其ノ他ニ關スル費用及手数料

(明治四十三年十月)  
關東都督府令第三十五號

改正 昭和九年  
關東廳令第二十三號

船舶消毒費

登陸噸數百噸未満 二十圓  
同百噸以上一千噸未満 四十圓

三等船客及之ニ準スヘキ船員 一人一日 九十錢

同 支那人 六十錢

一日ニ充タサルトキハ一日分ノ三分ノ一ヲ以テ一食トシテ計算ス

患者、死者ニ關スル費用 一人一日分ニ付 五十錢

患者 同 實費

患者ニ關スル費用 同 實費

畜類ノ隔離停留其ノ他ノ費用 實費

輸入物件(襪、古綿、古麻袋等)ノ消毒手数料 一箇ニ付 五錢

消毒物品 一通ニ付 五圓

健全證明書交付手数料 一通ニ付 五圓

船舶夜間檢疫手数料 一回ニ付 二十五圓

旅客 同 十五圓

其ノ他ノ船舶 同 十五圓

船舶發著證明及其ノ他ノ手数料 一通ニ付 五十錢

健全證書交付手数料 同 五圓

附 則

本令ハ明治四十三年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

普蘭店港規則(關東州) 六一七



### 南洋群島ニ於テ開港ト爲スヘキ場所及其ノ開港ニ於テ輸出又ハ輸入スヘキ貨物ノ種類ニ關スル件

(大正十一年六月) (南洋廳令第十三號)

改正 昭和七年 南洋廳令第十四號

第一條 大正十一年勅令第二百九十五號第三條ニ依リ左ノ

諸港ヲ開港トス

- サイパン
- バラオ
- アンガウル
- ヤル
- トラ
- ポナ

第二條 アンガウル港ニ於テハ關稅定率法別表輸入稅表第一類貨物ノ輸入ヲ爲スコトヲ得ス

附則 本令ハ大正十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 南洋群島交通港取締規則

(昭和十一年十一月) (南洋廳令第七號)

改正 昭和十一年 南洋廳令第七號

第一條 左ノ諸港ヲ交通港トス

- サイパン港
- テニアン港
- ロタ港
- ヤップ港
- バラオ港

境域

サイパン支廳埠頭起部天測點標ヲ中心トスル半徑二哩半ノ圓圈内

テニアン島カオリナス塔ヨリ同島ニアニス、サン、パバ塔ニ引キタル線以東ニシテ同島ソクソク南洋興發株式會社工場煙突ヨリ正面ノ線以南ノ海面

北西側ハ天測點標ヲ中心トスル半徑一哩四分ノ一ノ圓圈内南側ハボリニヤ角西端トハ一ノム塔南端トヲ連結スル線内

港口西側セントランス岩(高一・二米)ヨリ正東ノ線及マタデ山頂ヨリ正東ノ線ヲ境トスル環礁内

コロール島(高三〇・五米)、アラカバ

アンガウル港

サン島(高九九・七米)、同島西端高地、アドウリアス角、ケアベンスカス角、ウルクダアル島(高一七七・七米)、アウラプシエカル(高一七五・三米)、コロール島(高三〇・五米)ヲ連結スル線内

トラツク港

竹島(高六〇・七米)、秋島(高一七三・一米)ヲ連結スル線、夏島東端ヨリ正南ノ線及同端ヨリ西南西ノ線内

ボナペ港

ランガール島頂(高七七米)ヨリ北西及南々東ノ線、トレノツト(高九一米)ヨリ北東及南南西ノ線、タカテイック島東端ヨリ南西微南及北西ノ線ニテ圍マレタル環礁内

クサイ港

レレ島東側無名島島頂(高二・四米)ト其ノ對岸クサイ島山頂(高一六五米)ヲ連結スル線内

ヤル

ヤルト支廳ノ旗竿ヲ中心トスル半徑一哩半ノ圓圈環礁内

第二條

左ノ交通港ニ出入スル船舶ハ下記水道ニ依ルヘシ但シ特ニ南洋廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

南洋群島ニ於テ開港ト爲スヘキ場所及其ノ開港ニ於テ輸出又ハ輸入スヘキ貨物ノ種類ニ關スル件(南洋廳)・南洋群島交通港取締規則(南洋廳)

港名 水道

バラオ港

マラカル水道

トラツク港

北東水道

ヤル

南東水道

第三條

船舶ハ交通港ヲ出入スルニ當リ日出ヨリ日没迄ハ其ノ所屬國旗及信號符字ヲ掲揚シ日没ヨリ日出迄ハ前橋上碇泊燈ヲ掲ケル場所ニ白紅白ノ三燈ヲ掲揚スヘシ但シ定期郵便船ニ在リテハ船主旗ヲ以テ信號符字ニ代ユルコトヲ得

船舶ハ入港届ヲ提出シタル後ニ非サレハ前項ノ國旗及信號符字若ハ船主旗又ハ船燈ヲ引下クヘカラス

出港届ヲ提出シタル船舶ハ出帆旗ヲ掲揚スヘシ

第四條

入港届ハ別記第一號様式ニ依リ入港後速ニ出港届ハ第二號様式ニ依リ出港一時間前ニ之ヲ所轄支廳長ニ提出スヘシ

總噸數二十噸又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ノ入港及出港ニ關スル届出ハ前項ノ様式ニ依ラサルコトヲ得

第五條

出港シタル船舶ガ避難、修繕其ノ他ノ事故ノ爲出港後十二時間以内ニ歸港シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シ



タル届書ヲ所轄支廳長ニ提出シ入港届ニ代ユルコトヲ得  
第六條 所轄支廳長ハ當該吏員ヲシテ入港シタル船舶ニ臨  
檢セシメ又ハ乗客、乗組員ノ健康診斷ヲ行ハシム

第七條 入港シタル船舶、船長ハ當該吏員ノ許可ヲ受ケタ  
ル後ニ非サレハ他船又ハ陸地ト交通シ若ハ交通セシムヘ  
カラス

第八條 所轄支廳長必要アリト認ムルトキハ港内ニ在ル船  
舶ノ碇泊所ヲ指定シ又ハ碇泊所ノ變更ヲ命ズルコトヲ得  
前項ニ依リ指定ヲ受ケ又ハ變更ヲ命セラレタル船舶ハ所  
轄支廳長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ碇泊所ヲ變更ス  
ルコトヲ得ス但シ天災其ノ他已ムヲ得サル場合ハ此ノ限  
ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ在リテハ遲滞ナク其ノ事由ヲ所轄支廳  
長ニ届出ツヘシ

第九條 港内又ハ其ノ附近ニ碇泊シ又ハ運航スル船舶ハ日  
没ヨリ日出迄海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定スル各種  
ノ船燈ヲ掲クヘシ但シ櫓樞ヲ以テ運航スル船舶ニ在リテ  
ハ所轄支廳長ニ於テ特ニ定ムル場合ノ外此ノ限ニ在ラス  
第十條 如何ナル船舶ト雖航路ニ投錨シ又ハ他船ノ運航ヲ  
妨害スヘカラス

二 難破物又ハ沈没物ノ引揚ニ關スル船舶

三 遭難船舶ノ救助ニ關スル船舶

四 運航ノ自由ヲ有セサル船舶

五 前各號ノ外特ニ所轄支廳長ノ許可ヲ受ケタル船舶  
前項ノ船舶航路内ニ碇泊又ハ停船中ハ海上衝突豫防ニ關  
スル法令ノ規定スル船燈若ハ形象ヲ掲ケ又ハ所轄支廳長  
ノ指示ニ後ヒ標示ヲ爲スヘシ

第十八條 所轄支廳長ハ修繕又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ休繋  
スル船舶ニ對シ碇泊所ヲ指定スルコトヲ得

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ所轄支廳長ノ許  
可ヲ受クヘシ

一 爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ運搬セムトスル  
トキ

二 難破物又ハ沈没物ノ引揚ヲ爲サムトスルトキ

三 港内又ハ其ノ附近ニ於テ特設信號ヲ用キムトスルト  
キ

第二十條 爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ノ常用ヲ超過  
シテ積載シ入港スル船舶ハ橋頭其ノ他觀得易キ場所ニ日  
出ヨリ日没迄ハ萬國信號ノ赤旗日没ヨリ日出迄ハ紅燈一  
箇ヲ掲ケ所轄支廳長ノ指揮ヲ待ツヘシ

南洋群島交通港取締規則(南洋廳)

第十一條 港内ニ於テハ汽艇、發動機艇又ハ櫓樞ヲ以テ運  
航スル船舶ハ航路ヲ避クヘシ

第十二條 港内ニ在ル船舶ハ暴風雨ノ來ラムトスルトキ又  
ハ警報ヲ受ケタルトキハ直ニ豫備錨ヲ投下スルノ準備ヲ  
爲シ汽船ニ在リテハ仍別ニ蒸氣ヲ發生セシムヘシ

繫船浮標ニ繫留スル船舶豫備錨ヲ投下セムトスルトキハ  
浮標ニ結著セル繫鎖ヲ適宜延長シタル後之ヲ投下スヘシ

第十三條 曳船ハ航路内ニ於テ濫ニ被曳船ヲ放ツヘカラス

第十四條 船舶ハ二隻以上並列シテ運航シ又ハ航路内ニ於  
テ濫ニ他船ノ前路ヲ横切り若ハ他船ヲ追越スヘカラス

入港セムトスル船舶交通港ニ通スル水道ニ於テ航洋船ニ  
出會スル虞アルトキハ水道外ニ於テ待避スヘシ

第十五條 岬角、埠頭、棧橋ノ突端又ハ碇泊船ノ一端ヲ廻  
航スル船舶ハ之ヲ右舷ニ見ルトキハ小廻リ左舷ニ見ルト  
キハ大廻リヲ爲スヘシ

第十六條 所轄支廳長必要アリト認ムルトキハ港内ニ在ル  
總噸數五百噸以上ノ船舶ニ對シ雙錨泊ヲ命スルコトヲ得

第十七條 船舶ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノノ外航路内  
ニ碇泊又ハ停船スルコトヲ得ス

一 港内ノ工事ニ從事スル船舶

第二十一條 前二條ニ於テ爆發物ト稱スルハ南洋群島銃砲  
火藥類取締規則第一條第一項ニ規定スル火藥類及壓縮又  
ハ液化瓦斯類ヲ謂ヒ船舶ニ設備スル大砲一門毎ニ火藥五  
十發分雷管七十箇小銃一挺毎ニ火藥百發分雷管百五十箇  
及信號用ノ榴彈、火箭、焰管、救命焰以外ノモノヲ常用  
外爆發物ト看做シ容易ニ燃燒スヘキ物件ト稱スルハ生石  
油(「コアルマ」油、「ラングーン」油、及「ロック」油ヲ含  
ム)、石油、「ナフタ」、「テレピンテン」油、「エーテル」、  
「ペンツオール」、石油「ベンゼン」、「アセトン」、酒精及  
硫化炭素ノ類其ノ他華氏九十五度以下ノ熱度ニ依リ發火  
スヘキ氣體ヲ發スルモノヲ謂ヒ船舶所用ノ目的ヲ證明シ  
得サルモノヲ常用外ト看做ス

第二十二條 常用外ナル爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件  
ノ積入又ハ荷卸ヲ爲サムトスル船舶ハ其ノ品名、數量ヲ  
所轄支廳長ニ届出テ其ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ爲ス  
ヘシ

前項ノ船舶ハ第二十條ノ規定ニ從ヒ赤旗又ハ紅燈ヲ掲グ  
ヘシ

所轄支廳長ハ港内ニ於テ第一項ノ場所ヲ指定シ難キトキ  
ハ港外ニ於テ適當ノ場所ヲ指定スルコトヲ得



前項ニ依リ指定シタル場所ハ港内ト看做ス

第二十三條 港内又ハ其ノ附近ニ於テ海難其ノ他變災發生シタル船舶ハ其ノ旨速ニ所轄支廳長ニ届出ツヘシ

第二十四條 港内ニ在ル船舶他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スルトキハ間斷ナク汽笛、汽角又ハ霧中號角ヲ吹鳴シ且晝間ハ萬國信號ノNC旗ヲ掲ケ夜間ハ星火ヲ發スル榴彈、火箭其他發火信號ヲ爲スヘシ但シ火災ノ場合ニ在リテハ救援ニ來ル迄號鐘ヲ打鳴シ且晝間ハ萬國信號ノNM旗ヲ掲ケ夜間ハ絶エス紅燈ヲ上下スヘシ

第二十五條 港内ニ在ル船舶警察官吏ノ救援ヲ要スルトキハ晝間ハ萬國信號ノC旗ヲ掲ケ夜間ハ藍火又ハ閃光ヲ示スヘシ

第二十六條 前二條ノ信號ニ用ウル場合ノ外所轄支廳長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ港内ニ於テ銃砲又ハ火箭ヲ發シ其ノ他爆發物ヲ使用スルコトヲ得ス

船舶ハ本令若ハ海上衝突豫防ニ關スル法令其ノ他特別ノ規定アル場合又ハ慣例ニ依リ用ウル場合ヲ除クノ外港内又ハ其ノ附近ニ於テ濫ニ汽笛、汽角若ハ霧中號角ヲ吹鳴スルコトヲ得ス

第二十七條 船舶ニ積載スル多數ノ竹木ヲ港内ノ水上ニ卸

シ又ハ長大ノ物件ヲ港内ニ繫留シ又ハ運搬セムトスルトキハ豫メ所轄支廳長ニ届出ツヘシ

第二十八條 港内ニ於テ濫ニ動物ノ屍體、塵芥等ヲ投棄スヘカラス

港内ニ於テ濫ニ他ノ船舶ニ船舶其ノ他ノ物件ヲ繫留スヘカラス

石炭、荷足其ノ他之ニ類スル物件ヲ積卸ストキハ其ノ海中ニ墜落セサル様注意スヘシ

第二十九條 所管支廳長ハ港内又ハ其ノ附近ニ於テ船舶ノ運航ヲ妨ケ若ハ其ノ虞アル難破物、沈没物其ノ他ノ物件ヲ所有者又ハ投棄若ハ脱落セシメタル者ヲシテ取除カシムルコトヲ得

前項ニ依リ取除ヲ命セラレタル場合直ニ之ヲ履行シ難キトキハ所轄支廳長ハ一時義務者ヲシテ相當ノ標識ヲ設ケシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ義務者其ノ義務ヲ履行セサルトキハ所轄支廳長ハ自ラ之ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得

第三十條 浮標、立標、埠頭其ノ他ノ營造物ヲ毀損シタル者ハ其ノ修繕又ハ再設費用ヲ支辨スヘシ

第三十一條 繫船浮標ヲ使用セムトスル船舶ハ豫メ所轄支廳長ノ許可ヲ受クヘシ

繫船浮標ノ使用料ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十二條 所轄支廳長ハ港内ニ於ケル運航又ハ曳船ニ關スル制限其ノ他取締上必要ナル指示命令ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 第二條乃至第四條、第七條、第八條第二項、

第三項、第九條乃至第十五條、第十七條、第十九條、第十條、第二十二條第一項、第二項、第二十三條乃至第二十八條ノ規定ニ違反シ若ハ第六條ノ臨檢、健康診斷ヲ拒ミ又ハ第八條第一項、第十六條、第十八條、第二十二條第三項、第三十二條ノ指示命令ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十四條 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニシテ船舶ニ係ル規定ニ付テハ船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者其ノ責ニ任ス

船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ船舶乗組員カ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル場合ニ於テ自己ノ指揮ニ出サルトキト雖仍其ノ責ニ任ス

第三十五條 本令ニ依リ罰金若ハ科料ニ處セラレ又ハ費用ノ支辨ヲ命セラレタル者ノ乗組メル船舶ハ其ノ之ヲ完納

南洋群島交通港取締規則(南洋廳)

若ハ假納シ相當ノ擔保物ヲ提供スル迄所轄支廳長其ノ出港ヲ差止ムルコトヲ得

第三十六條 廢船其ノ他船舶ニ等シキ形態ヲ有スル工作物ハ本令中船舶ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十七條 第二條、第八條、第十條、第二十八條ノ規定ハ内外國軍艦ニ之ヲ準用ス

第三十八條 第三條、第十二條、第二十四條、第二十五條ノ規定ハ總噸數二十噸若ハ積石數二百石未滿ノ船舶及櫓櫂ヲ以テ運航スル舟艇ニハ之ヲ適用セス

第三十九條 第四條乃至第七條ノ規定ハ同一支廳ノ管内ノミヲ運航スル船舶ニ之ヲ適用セス

第四十條 第九條乃至第十一條、第十三條、第十四條、第十七條、第二十七條乃至第三十條、第三十二條ノ適用ニ付テハ交通港ニ通スル水道ハ之ヲ港内ト看做ス

第四十一條 支廳所在地外ノ交通港ニ於テハ本令中所轄支廳長ノ職務ハ其ノ地ニ勤務スル警察官吏之ヲ行フ

(別記)  
第一號様式

入 港 届  
一 船舶ノ種類



- 二 船名及信號符字
- 三 船主
- 四 國籍及船籍港
- 五 總噸數及登簿噸數
- 六 取扱店
- 七 原發航地及直近發航地並發航年月日
- 八 入港日時
- 九 出港豫定日時
- 十 直近仕向地並最終仕向地
- 十一 船客並乘組員(別紙名簿ノ通)
- 十二 爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件ノ有無及有ラバ其ノ品名、數量

- 三 直近仕向地並最終仕向地
- 右御届候也
- 年 月 日
- 支廳長殿
- 船名 船長 氏 名印

第二號様式

支廳長殿 船名 船長 氏 名印

一 船名 出港 届

二 出港日時

年 月 日

第二章 棧橋、繫船浮標及曳船

税關棧橋及繫船岸壁使用

規則

(大正六年十二月 大藏省令第三十四號)

第一條 税關所屬ノ棧橋又ハ繫船岸壁ニ船舶ヲ繫留セムトスル者ハ附録様式ノ申請書ヲ税關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

第二條 前條ノ許可ヲ受ケタル者ハ左ノ使用料ヲ納付スヘシ但シ一噸未滿ノ端數ハ之ヲ計算セス

- 一 繫留二十四時以内ノトキ 登簿噸數一噸ニ付 二錢
- 二 繫留二十四時ヲ超ユルトキ 同 三錢
- 三 繫留九十六時ヲ超ユルトキ 同 前號ノ金額ニ超過時間二十四時間迄 每二一錢ヲ加フ

前項ノ繫留時間ニハ税關ノ休日及税關長ノ命令ニ依リ一

税關棧橋及繫船岸壁使用規則

時棧橋又ハ繫船岸壁ヲ離レタル時間ヲ算入セス但シ税關ノ休日ガ船舶ヲ繫留ノ初日又ハ解纜シタル日ナルトキ又ハ貨物積卸ノ特許ヲ受ケタル日ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條 許可ヲ受ケタル繫船期間滿了後尙引續キ繫留セムトスル者ハ附録様式ノ申請書ヲ税關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テ納付スヘキ使用料ハ最初繫留ノ時ヨリ通算シタル繫留時間ニ相當スル使用料額ヨリ既納ノ分ヲ控除シタル金額トス

第四條 繫留ノ許可ヲ受ケタル船舶ハ税關ノ指定スル場所ニ繫留スヘシ

税關長ハ必要ト認ムル場合ニ於テ繫留場所ヲ變更シ若ハ一時之ヨリ離レシムルコトアルヘシ

第五條 税關長ハ必要ト認ムル場合ニ於テ繫留ノ許可ヲ取消スコトヲ得此ノ場合ニ於テ既納ノ使用料ハ之ヲ還付ス

第六條 既納ノ使用料ハ前條ノ場合ヲ除クノ外之ヲ還付ス



ルコトナシ

**第七條** 爆發質若ハ燃燒質ノ物品、石炭、荷足又ハ他物ヲ汚瀆スヘキ物品ハ棧橋又ハ繫船岸壁ニ於テ陸揚若ハ船積スルコトヲ得ズ但シ税關長ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

税關長ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ前項以外ノ物品ト雖尙棧橋又ハ繫船岸壁ニ於テ之ガ陸揚若ハ船積ヲ禁スルコトヲ得

**第八條** 繫留中ノ船舶、棧橋又ハ繫船岸壁ニ於テ「ピッチ」  
「タール」其ノ他燃燒質ノ物品ヲ煖ムルコトヲ得ス

**第九條** 繫留中ノ船舶ハ塵芥、灰燼、荷足等ヲ棧橋又ハ繫船岸壁ニ投棄スルコトヲ得ス

**第十條** 繫留中ノ船舶本令ノ規定又ハ税關長ノ命令ニ違反スルトキハ税關長ハ直ニ其ノ繫留場所ヨリ離レシムルコトアルヘシ

**第十一條** 税關長ハ必要ト認ムル場合ニ於テ棧橋又ハ繫船岸壁ニ立入ルコトヲ禁止シ若ハ之ヲ制限スルコトヲ得

**第十二條** 税關長ハ大藏大臣ノ認可ヲ得テ定期航海船又ハ常時棧橋又ハ繫船岸壁ヲ使用スル船舶業者ニ對シ期間ヲ定メテ使用料減額ノ特約ヲ爲スコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
横濱税關棧橋使用規則、明治四十二年大藏省令第八號及大正二年大藏省令第二十七號ハ之ヲ廢止ス

繫船岸壁 No. ....

船名	船主又ハ備船者
船籍	船國
航路	航路
全長	全長
入港吃水	入港吃水
總噸數	總噸數
登簿噸數	登簿噸數
繫船期間	繫船期間
使用料	使用料
申請者	申請者
申請年月日	申請年月日

繫船岸壁 No. ....

船名	船主又ハ備船者
船籍	船國
航路	航路
全長	全長
入港吃水	入港吃水
總噸數	總噸數
登簿噸數	登簿噸數
繫船期間	繫船期間
使用料	使用料
申請者	申請者
申請年月日	申請年月日



### 繫船浮標使用料ニ關スル規程

(昭和二年四月) 遞信省告示第九百四十號

開港港則施行規則第七條第三項ノ規定ニ依リ繫船浮標使用料ニ關スル規程左ノ通定メ昭和二年四月二十日ヨリ之ヲ施行ス

- 明治三十一年十月遞信省告示第二百六十六號及大正十年六月兵庫縣告示第四百九號ハ同日ヨリ之ヲ廢止ス
- 第一條 稅關港務部所屬繫船浮標ノ使用料ハ使用時間二十四時間ニ付左ノ區別ニ依リ之ヲ徵收ス但シ二十四時間未満ノ端數ハ二十四時間トシテ計算ス
- 一、總噸數五千噸未満ノ船舶 十 圓
  - 二、總噸數一萬噸未満ノ船舶 十五 圓
  - 三、總噸數一萬五千噸未満ノ船舶 二十 圓
  - 四、總噸數一萬五千噸以上ノ船舶 三十 圓
- 第二條 前條ノ使用時間ハ港長ニ於テ使用指定ノ時ヨリ起

算ス  
第三條 既納ノ使用料ハ使用者ニ於テ繫船浮標ヲ使用セザル場合ト雖之ヲ還付セズ

### 橫濱稅關所屬繫船岸壁使用料

(昭和十三年九月) 大藏省令第五十六號

橫濱市神奈川區瑞穗町所在橫濱稅關所屬繫船岸壁ノ使用料ハ當分ノ内大正六年大藏省令第三十四號第二條第一項第一號乃至第三號ノ規定ニ依ラズ左記ニ依ル

- 一、繫留二十四時 純噸數 一 錢
  - 以內ノトキ 一噸ニ付
  - 二、繫留二十四時 同 一錢五厘
  - ヲ超ユルトキ
  - 三、繫留九十六時 同 前號ノ金額ニ超過時間二十四時迄毎ニ五厘ヲ加フ
  - ヲ超ユルトキ
- 附 則 前號ノ金額ニ超過時間二十四時迄毎ニ五厘ヲ加フ
- 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 門司稅關繫船岸壁使用料

(昭和七年十月) 大藏省令第二十五號

門司稅關繫船岸壁ノ使用料ハ當分ノ内大正六年大藏省令第三十四號第二條第一項第一號乃至第三號ニ依ラス左記ニ依ル

- 一、繫留十二時以內ノトキ 登簿噸數 五 厘
  - 二、繫留二十四時以內ノトキ 同 一 錢
  - 三、繫留二十四時ヲ超ユルトキ 同 一錢五厘
  - 四、繫留九十六時ヲ超ユルトキ 同 前號ノ金額ニ超過時間二十四時迄毎ニ五厘ヲ加フ
- 附 則 本令ハ昭和七年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 神戸鐵道棧橋使用規則

(大正十四年八月) 鐵道省告示第五十二號  
改正 昭和十一年 鐵道省告示第二百二號

- 第一條 神戸鐵道棧橋ハ鐵道ニ跨リ運送セラルル貨物及省用品ヲ陸揚若ハ船積スル船舶ヲ繫留セシムルモノトス但シ必要ニ依リ其ノ他ノ船舶ヲ繫留セシムルコトヲ得
- 第二條 棧橋ニ船舶ヲ繫留セントスル者ハ別記第一號様式ノ繫船申込書ヲ棧橋長ニ提出シ之カ承認ヲ受クヘシ棧橋長ハ前項ノ申込書ヲ調査シ差支ナシト認ムルトキハ別記第二號様式ノ承認證ヲ交付スヘシ
- 第三條 繫船承認證ハ料金收入ノ證ニ之ヲ兼用シ甲片ハ申込者ニ交付シ乙片ハ所屬鐵道局經理課(調査掛)ニ送付シ丙片ハ控トシテ發行者ニ於テ保管スルモノトス繫船料ノ還付ヲ爲ス場合ハ別ニ定ムル荷物貸訂正通知書ヲ發行スルモノトス
- 第四條 繫船料金ハ左ノ通トス
- 一、噸數又ハ石數ヲ以テ積量ヲ表示ス 每一日 金四錢
  - 一、船舶ハ純噸數壹噸又ハ積石數 每一日 金四錢
  - 一、其ノ他ノ船舶ハ其ノ全長三〇三耗 每一日 金參錢
  - ニ付

繫船浮標使用料ニ關スル規程・橫濱稅關所屬繫船岸壁使用料・門司稅關繫船岸壁使用料・神戸鐵道棧橋使用規則



前項ノ繫船日數ハ二十四時間ヲ以テ一日トス但シ二十四時間未滿ノ端數ハ一日トシテ計算ス

第一項ノ料金計算ニ關シ一噸、十石又ハ三〇三耗未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ算入セス

第五條 繫船時間ヲ延長セントスル者ハ期間滿了三時間前ニ其ノ日時ヲ棧橋長ニ申出テ之カ承認ヲ受クヘシ

棧橋長ニ於テ前項ノ申出ヲ承認シタルトキハ繫船承認證ニ延期期間ヲ記入スヘシ

第六條 繫船申込者ニ於テ繫船又ハ其ノ延期ノ承認ヲ受ケタル時ハ直ニ繫船料ヲ納付スヘシ

第七條 繫船ノ承認ヲ受ケタル船舶ハ棧橋長ノ指定スル箇所ニ繫留スヘシ

棧橋長ハ必要ニ應ジ繫留箇所ヲ變更シ又ハ一時棧橋ヲ離レシムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於ケル費用ハ棧橋使用者ノ負擔トス

前項ニ依リ棧橋ヲ離レタル時間ハ第四條ノ繫船時間中ニ算入セス

第八條 棧橋長ハ必要ニ應ジ繫留ノ承認ヲ取消スコトヲ得前項ノ場合ヲ除クノ外既納繫船料ハ之ヲ還付セス

第九條 船舶カ棧橋ヲ離レントスルトキハ船長ハ其ノ旨棧橋長ニ届出ツルコトヲ要ス

第十條 棧橋ニ於テハ一平方米ニ付三、六四五越以上負荷スル重量品、爆發質若ハ燃燒質ノ物品又ハ他物ヲ汚染スル虞アル物品ノ陸揚、船積ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

但シ棧橋長ノ承認ヲ得タル場合ハ此ノ限りニアラス

棧橋長ハ必要ニ應ジ前項以外ノ物品ト雖モ陸揚若ハ船積ヲ禁止スルコトヲ得

第十一條 繫留中ノ船舶ハ棧橋及其附近ニ於テ塵芥、灰燼、荷足等ヲ投棄スルコトヲ得ス

第十二條 繫留中ノ船舶ハ棧橋又ハ船舶ノ甲板上ニ於テ火氣ヲ使用シ又ハ「ピツチ」「タール」其ノ他ノ燃燒性ノ物ヲ暖ムルコトヲ得ス

第十三條 繫留中ノ船舶ニ傳染病患者者又ハ失火アリタルトキハ船長ハ直ニ之ヲ棧橋長ニ報告スヘシ

第十四條 故意又ハ過失ニ依リ棧橋ヲ毀損シタルトキハ棧橋長ハ繫留申込者ヲシテ之カ修繕ヲ爲サシムルモノトス

前項ノ場合ニ於テ繫船申込者カ遲滞ナク之カ修繕ヲ爲ササルトキハ省ニ於テ施工シ其ノ費用ヲ徵收スルモノトス

第十五條 本規定ニ違背シ又ハ棧橋長ノ指揮ニ従ハサル船舶ハ棧橋ヨリ退去セシムルコトアルヘシ

第十六條 神戸鐵道棧橋繫船規約ハ之ヲ廢止ス

第十七條 本規則ハ大正十四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

(第一號様式)

一九七粘

繫 船 申 込 書

船種名	船名	國籍	船主又ハ貸借人若ハ船積者	籍
純又ハ積石噸數	噸數	船長氏名	入港吃水	總噸數
船ノ全長	自至	自至	自至	陸揚又ハ船積品名及數量
繫船期間	自至	自至	自至	
繫船延期期間	自至	自至	自至	
摘 要	鐵道棧橋使用規則承知ノ上申込候也			
	大正 年 月 日			
	申込者 印			
	鐵道省 御 中			

上部左方ニ繫船承認證番號ヲ記入ノ上驛ニ保存スルモノトス

本書ハ省ニ於テ之ヲ設備シ申込者ノ請求ニ依リ交付スルモノトス

神戸鐵道棧橋使用規則



(第二號樣式)

一八粘

二〇九粘

甲

乙

鐵道省 繫船承認證

丙No.15

純噸數  
又ハ積石數

船ノ全長

船種 船名	自	月	日	時刻	至	月	日	時刻	計算期間	割合	繫船料	記	事
				午前午後									
繫船期間													
繫船延期々間													
摘要									計算期間 合計 退キ ノ要 ス 金				

大正 年 月 日

鐵道局

棧橋長印

甲片ハ洋紙 乙・丙片ハ海葉紙トス  
甲・乙片ハ丙片ト同トス但シ甲乙片ハ綴目ニ切斷線ヲ設ク

一三六粘

(黒色刷)

炭酸紙用

### 敦賀鐵道棧橋使用規則

(大正十四年十一月)  
鐵道省告示第二百二十七號

改正 昭和十一年  
鐵道省告示第一百號

第一條 敦賀鐵道棧橋ニ船舶ヲ繫留セントスルモノハ別記

第一號樣式ノ繫船申込書ヲ棧橋長ニ提出シ之カ承認ヲ受  
クヘシ

棧橋長ハ前項ノ申込書ヲ調査シ差支ナシト認ムル時ハ別  
記第二號樣式ノ承認證ヲ交付スヘシ

第二條 繫船承認證ハ料金收入ノ證ニ之ヲ兼用シ甲片ハ申  
込者ニ交付シ乙片ハ所屬鐵道局經理課(調査掛)ニ送付  
シ丙片ハ控トシテ發行者ニ於テ保管スルモノトス

繫船料ノ還付ヲ爲ス場合ハ別ニ定ムル荷物貨訂正通知書  
ヲ發行スルモノトス

第三條 繫船料金ハ左ノ通トス

一 船舶所屬國ノ積量測定方法ニ依ル  
純噸數一噸ニ付 每一日 金二錢

前項ノ繫船日數ハ二十四時間ヲ以テ一日トス但シ二十四

敦賀鐵道棧橋使用規則

時間未滿ノ端數ハ一日トシテ計算ス

第一項ノ料金計算ニ關シ一噸未滿ノ端數ヲ生シタルトキ  
ハ之ヲ算入セス

第四條 繫船時間ヲ延長セントスル者ハ期間滿了三時間前  
ニ其ノ日時ヲ棧橋長ニ申出テ之カ承認ヲ受クヘシ

棧橋長ニ於テ前項ノ申出ヲ承認シタルトキハ繫船承認證  
ニ延期期間ヲ記入スヘシ

第五條 繫船申込者ニ於テ繫船又ハ其ノ延期ノ承認ヲ受ケ  
タルトキハ直ニ繫船料ヲ納付スヘシ

第六條 繫船ノ承認ヲ受ケタル船舶ハ棧橋長ノ指定スル箇  
所ニ繫留スヘシ

棧橋長ハ必要ニ應シ繫留箇所ヲ變更シ又ハ一時棧橋ヲ離  
レシムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於ケル費用ハ棧橋使用  
者ノ負擔トス

前項ニ依リ棧橋ヲ離レタル時間ハ第三條ノ繫船時間中ニ  
算入セス

第七條 棧橋長ハ必要ニ應シ繫留ノ承認ヲ取消スコトヲ得  
前項ノ場合ヲ除クノ外既納繫船料ハ之ヲ還付セス

第八條 船舶カ棧橋ヲ離レントスルトキハ船長ハ其ノ旨棧  
橋長ニ届出ツルコトヲ要ス



第九條

棧橋ニ於テハ一平方米ニ一九五三疋以上負荷スル重量品、爆發質若ハ可燃質ノ物品又ハ他物ヲ汚染スル虞アル物品ノ陸揚船積ヲ爲スコトヲ得サルモノトス但シ棧橋長ノ承認ヲ得タル場合ハ此ノ限ニアラス

棧橋長ハ必要ニ應シ前項以外ノ物品ト雖モ陸揚若ハ船積ヲ禁止スルコトヲ得

第十條 繫留中ノ船舶ハ棧橋及其ノ附近ニ於テ塵芥、灰燼荷足等ヲ投棄スルコトヲ得ス

第十一條 繫留中ノ船舶ハ棧橋又ハ船舶ノ甲板上ニ於テ火氣ヲ使用シ又ハ「ピッチ」「タール」其ノ他可燃性ノ物ヲ煖ムルコトヲ得ス

第十二條 船舶繫留ニ要スル機具人夫及棧橋ヨリ陸揚シ又ハ船積スル貨物ノ運搬ニ要スル車輛等ハ使用者ニ於テ準備スヘシ但シ棧橋ヲ毀損スル虞アルモノヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條 繫留中ノ船舶ニ傳染病患者又ハ失火アリタルトキハ船長ハ直ニ之ヲ棧橋長ニ報告スヘシ

第十四條 故意又ハ過失ニ依リ棧橋ヲ毀損シタルトキハ棧橋長ハ繫船申込者ヲシテ之カ修繕ヲナサシムルモノトス前項ノ場合ニ於テ繫船申込者カ運搬ナク之カ修繕ヲ爲サ

サルトキハ省ニ於テ施工シ其ノ費用ヲ徴收スルモノトス

第十五條 本規定ニ違背シ又ハ棧橋長ノ指揮ニ従ハサル船舶ハ棧橋ヨリ退去セシムルコトアルヘシ

附 則

第十六條 大正二年十二月鐵道院告示第二百二十五號敦賀鐵道棧橋使用規則ハ之ヲ廢止ス

第十七條 本規則ハ大正十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(第一號様式)

一九七耗

繫 船 申 込 書

船種	船名	籍	船主又ハ貸借人若ハ船長	國
噸數		船長	氏名	
船ノ全長		入港吃水	噸數	
繫船期間	自至 月 日 午 時 時間	總噸數		
繫船延期期間	自至 月 日 午 時 時間	陸揚又ハ船積品名及噸數		
摘要				

鐵道棧橋使用規則承知ノ上申込候也  
大正 年 月 日 申込者

鐵道省御中

上部左方ニ繫船承認證番號ヲ記入ノ上驛ニ保存スルモノトス  
本書ハ省ニ於テ之ヲ設備シ申込者ノ請求ニ依リ交付スルモノトス  
敦賀鐵道棧橋使用規則



鐵道省 繫船承認證

鐵道局 棧橋長 印

丙 No. 15

甲 乙

二〇九粘

一八粘

(黑色別)

炭酸紙用

船種 船名	純噸數		船ノ全長		割合	繫船料	記	事
	自	至	日	時				
繫船延期々間	月	日	日	時	計算期日	日	時	計算期日
	刻	午前午後	午前午後	午前午後				
摘要	計算期間合計 トスルトキハ稅關ノ許可ヲ受ケヘシ ヲ要ス トスルトキハ稅關ノ許可ヲ受ケヘシ トスルトキハ稅關ノ許可ヲ受ケヘシ							

大正 年 月 日

甲片ハ洋紙 乙・丙片ハ薄葉紙トス  
甲・乙片ハ丙片ト同一トス但シ甲乙片ニハ線目ニ切斷線ヲ設ク

### 稅關棧橋、繫船壁及船渠 使用規則

(大正十一年四月)  
朝鮮總督府令第四十七號  
改正 昭和十五年  
朝鮮總督府令第五百一十一號

**第一條** 本令ニ於テ棧橋トハ釜山稅關所屬ノ第一埠頭及第二埠頭ノ南北兩側棧橋並ニ群山稅關支署及木浦稅關支署所屬ノ浮棧橋ヲ、繫船壁トハ元山稅關支署及清津稅關支署所屬ノ繫船壁ヲ、船渠トハ仁川稅關及鎮南浦稅關支署所屬ノ船渠ヲ謂ヒ、稅關又ハ稅關長トアルハ第六條ニ規定スル場合ヲ除クノ外稅關支署所屬ノ棧橋、繫船壁又ハ船渠ニ付テハ稅關支署又ハ稅關支署長トス

**第二條** 棧橋、繫船壁又ハ船渠ヲ使用セントスル者ハ其ノ前日迄ニ第一號樣式ノ申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受ケヘシ但シ稅關ノ承認ヲ受ケタルトキハ使用開始前三時迄ニ申請書ヲ提出スルコトヲ得

定期航行船舶及當時棧橋、繫船壁又ハ船渠ヲ使用スル船舶

稅關棧橋、繫船壁及船渠及使用規則 (朝鮮)

船ニ付テハ第二號樣式ノ申請書ヲ稅關ニ提出シ豫メ期間ヲ定メ使用ノ許可ヲ受ケタルコトヲ得

**第三條** 前條ノ許可ヲ受ケタル者其ノ使用時間ヲ變更セんとスルトキハ稅關ノ許可ヲ受ケヘシ

**第四條** 使用時間經過後引續キ棧橋、繫船壁又ハ船渠ヲ使用セムトスル者ハ時間終了前三時迄ニ第一號樣式ノ申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受ケヘシ

**第五條** 棧橋、繫船壁又ハ船渠ノ使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ船舶ノ登簿噸數一噸ニ付使用十二時迄毎ニ一錢ノ割合ヲ以テ使用料ヲ前納スヘシ但シ一噸未滿ノ端數ハ之ヲ計算セス

前條ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テ納付スヘキ使用料ハ最初使用ノ時ヨリ通算シタル使用時間ニ相當スル使用料額ヨリ既納ノ分ヲ控除シタル金額トス

**第五條ノ二** 使用料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ使用料ヲ納付セントスル者ハ納付書又ハ第一號樣式ノ申請書ニ收入印紙ヲ貼付シテ提出スヘシ

**第六條** 稅關長ハ定期航行船舶又ハ當時棧橋、繫船壁又ハ船渠ヲ使用スル船舶ニ付テハ期間ヲ定メ使用料ヲ減額シ



又ハ納付方法ヲ定ムルコトヲ得  
戰時軍用ノ船舶ニ付テハ稅關長ハ使用料ヲ免除スルコトヲ得

第七條 既納ノ使用料ハ之ヲ還付セス但シ使用ノ許可ヲ取消シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 稅關長ハ必要ト認ムルトキハ棧橋、繫船壁若ハ船渠ノ使用ヲ停止シ、使用ノ許可ヲ取消シ、繫留ノ場所ヲ變更シ又ハ一時棧橋、繫船壁若ハ船渠ヨリ離退セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ棧橋、繫船壁又ハ船渠ヲ使用セサル時間ハ之ヲ使用時間ニ算入セス此ノ場合ニ於テハ使用時間終了後之ニ相當スル時間其ノ使用ヲ繼續スルコトヲ得

第九條 棧橋、繫船壁又ハ船渠ノ使用中ハ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス但シ第一號及第二號ノ行爲ハ稅關長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一 船舶ノ修繕ヲ爲スコト
  - 二 爆發質若ハ引火質ノ物品、石炭、荷足又ハ他物ヲ汚損スヘキ貨物ノ積卸ヲ爲スコト
  - 三 荷足、灰燼、塵芥、汚物等ヲ水中ニ投棄スルコト
- 第十條 棧橋ノ使用ニ付テハ左ノ制限ニ依ルヘシ

シムルコトヲ得

第十五條 棧橋、繫船壁又ハ船渠ヲ使用スル者本令ノ規定又ハ稅關長ノ命令ニ違反シタルトキハ稅關長ハ棧橋、繫船壁又ハ船渠ヨリ其ノ船舶ヲ離脱セシムルコトヲ得

第十六條 第二條第二項ノ許可ヲ受ケタル者臨時代船ヲ使用セムトスルトキハ豫メ稅關ニ届出ツヘシ

前項ノ臨時代船ノ使用料ハ本船ノ使用料ト同額トス

第十七條 仁川稅關船渠内ニ於テ貨物積卸ノ爲船舶ヲ使用セムトスル者ハ第三號様式ノ申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受ケヘシ

前項ノ船舶ニ對シテハ使用料ヲ徵收セス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ繫船壁ハ大正十一年五月一日ヨリ之カ使用ヲ開始ス

釜山稅關棧橋使用規則及仁川船渠使用規則ハ之ヲ廢止ス  
本令施行前棧橋又ハ船渠ノ使用ノ許可ヲ受ケタル者及本令施行ノ際現ニ船渠ヲ使用スル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附 則

（昭和七年）  
朝鮮總督府令第八十二號  
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ許可書及申請書ノ用紙

稅關棧橋、繫船壁及船渠及使用規則（朝鮮）

- 一 荷重ハ面積一平方メートルニ付千二百キログラムヲ超ユルコトヲ得ス但シ第一埠頭南側棧橋ニ在リテハ基部ヨリ延長百六十三メートルニ至ル海面沿幅九メートルヲ除ク外ハ三百キログラム迄トシ浮棧橋ニ在リテハ八百キログラム迄トス
- 二 第一埠頭及第二埠頭北側棧橋ノ軌道上ニハ稅關長ノ許可ヲ受ケ手押ニ依ル貨車一輛自重共三十噸以下ノモノ一回ニ付六輛迄ヲ限リ通スルコトヲ得
- 三 浮棧橋ニハ車輪ヲ通スルコトヲ得ス

第十一條 仁川稅關船渠閘門ノ開閉時ハ稅關長ノ定ムル所ニ依ル

第十二條 本令ニ規定スルモノノ外稅關長ニ於テ必要ト認ムルトキハ棧橋、繫船壁又ハ船渠ノ使用ニ關シ制限ヲ設クルコトヲ得

第十三條 故意又ハ過失ニ因リ棧橋、繫船壁又ハ船渠ヲ毀損シタルトキハ稅關長ハ其ノ毀損者ヲシテ之ヲ修繕セシムルコトヲ得

第十四條 漂流物又ハ沈没品ニシテ棧橋、繫船壁又ハ船渠ノ使用ニ障害アリト認ムルトキハ稅關長ハ其ノ物件ノ所有者又ハ之ヲ投棄シ若ハ脫落セシメタル者ヲシテ除去セ

寸法ニ付テハ當分ノ内從前ノ例ニ依ルコトヲ得



棧橋船塢使用許可書

船種	船名	船主 船名	登簿噸數	繫留場所	使用時間	使用料	申請者姓名	申請所	年	月	日
船種	船名										

棧橋船塢使用許可申請書告知番號

船種	船名	船主 船名	登簿噸數	繫留場所	吃水	船ノ長及幅	申請年月日	申請者住所	收入印紙貼附欄	稅務課	監視票
船種	船名										

第一號樣式 備考 用紙寸法縱七寸輪廓寸法許可書縱五寸申請書縱五寸

備考 用紙寸法縱七尺一寸輪廓寸法許可書申請書共各縱五寸橫四寸

棧橋船塢使用許可申請書

船種	船名	船主又ハ船者	總噸數	登簿噸數	船ノ長及幅	吃水	繫留場所	使用料							
使用時間	日	時	分	ヨリ	時	分	日	時	分	ヨリ	時	分			
	日	時	分	マテ	日	時	分	ヨリ	時	分	マテ	日	時	分	
	日	時	分	ヨリ	日	時	分	ヨリ	日	時	分	マテ	日	時	分
	日	時	分	マテ	日	時	分	ヨリ	日	時	分	マテ	日	時	分
	日	時	分	ヨリ	日	時	分	ヨリ	日	時	分	マテ	日	時	分
	日	時	分	マテ	日	時	分	ヨリ	日	時	分	マテ	日	時	分
	日	時	分	ヨリ	日	時	分	ヨリ	日	時	分	マテ	日	時	分
申請年月日								申請者住所		申請者姓名		氏名捺印			

稅關棧橋、繫船壁及船渠及使用規則（朝鮮）



橋壁船 棧繫船 使用許可書

番號 \_\_\_\_\_

船種	船名	
船主又ハ備船者		
登簿噸數		
繫留場所		
使用料 _____ 円		
使 用 時 間	日 時 分 ヨリ 時 分	日 時 分 ヨリ 時 分
	日 時 分 ヨテ 時 分	日 時 分 ヨリ 時 分
	日 時 分 マテ 時 分	日 時 分 マテ 時 分
	日 時 分 ヨリ 時 分	日 時 分 ヨリ 時 分
	日 時 分 マテ 時 分	日 時 分 マテ 時 分
	日 時 分 ヨリ 時 分	日 時 分 ヨリ 時 分
	日 時 分 マテ 時 分	日 時 分 マテ 時 分
	日 時 分 ヨリ 時 分	日 時 分 ヨリ 時 分
申請者住所氏名 _____		
年 月 日		
税 關		

船舶使用許可書

番號 _____	
船種	船名
船備主又ハ者	ハ者
總積噸又ハ數	噸又ハ數
使用ノ目的	
使用期間	
申請者住所氏名	
年 月 日	
七 川 税 關	

船舶使用許可申請書

番號 _____	
船種	船名
船備主又ハ者	ハ者
總積噸又ハ數	噸又ハ數
船ノ長及幅	
使用ノ目的	
使用期間	
申請年月日	
申請者住所氏名	

第三號樣式 備考 用紙寸法 縱七寸 輪廓寸法 許可申請書 各 橫四寸



### 税關所屬曳船使用規則

(大正七年五月) 朝鮮總督府令第四十八號

改正 昭和七年一月 朝鮮總督府令第八號

第一條 税關所屬ノ曳船ヲ使用セントスル者ハ別記様式ノ申請書ヲ税關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

第二條 曳船使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ曳船一隻ニ付一時迄毎ニ四圓ノ割合ヲ以テ使用料ヲ税關ニ納付スヘシ

第二條ノ二 使用料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ使用料ヲ納付セムトスル者ハ納付書又ハ第一號様式ノ申請書ニ收入印紙ヲ貼付シテ提出スヘシ

第三條 税關長ハ必要アリト認ムルトキハ曳船使用ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコトヲ得

第四條 曳船カ船舶ノ曳船作業ニ從事中其ノ船舶ニ生ゼシメタル損害ニ付テハ税關ハ其ノ責ニ任セス

第五條 税關棧橋、繫船壁及船渠使用規則第三條、第四條、第五條、第六條、第七條及第十三條ノ規定ハ曳船ノ使用

ニ付之ヲ準用ス

第六條 本令ニ於テ税關又ハ税關長トアルハ税關棧橋、繫船壁及船渠使用規則第六條ノ規定ヲ準用スル場合ヲ除クノ外税關支署所在地ニ在リテハ税關支署又ハ税關支署長トス

附 則 (昭和七年) 朝鮮總督府令第八號

本令ハ昭和七年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第一號様式

備考 用紙寸法 縦七寸 輪廓寸法 許可書 縦三寸五分 申請書 縦五寸五分 横五寸

番號	曳船使用許可申請書	告知番號
船種	船名	收入印紙貼附欄
船主又ハ傭船者		
曳船使用隻數		調定
曳船使用時間	日 時 分 ヲリ 時 分	
使用料		年 月 日
申請年月日		收入
申請者姓名		監視課
申請所住		年 月 日

使用時間満了後引續キ使用ノ申請ヲ爲ス場合ハ「繼續使用」ト欄外ニ朱書スヘシ

番號	曳船使用許可書
船種	船名
船主又ハ傭船者	
曳船使用隻數	
曳船使用時間	日 時 分 ヲリ 時 分
使用料	
申請者姓名	
申請所住	
年 月 日	



番號 \_\_\_\_\_ 曳船使用許可書

船種船名		
船主又ハ傭船者		
曳船使用隻數		
使用料 <span style="float:right">円</span>		
曳船使用時間	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ
	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ
	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ
	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ
	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ
	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ
	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ
	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ
申請者住所氏名		
年 月 日		
税 關		

税關所屬曳船使用規則(朝鮮)

番號 \_\_\_\_\_ 曳船使用許可申請書

船種船名		
船主又ハ傭船者		
曳船使用隻數		
使用料 <span style="float:right">円</span>		
曳船使用時間	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ
	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ
	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ
	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ
	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ
	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ
	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ
	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ	日 時 分ヨリ 時 分 日 時 分マテ
申請年月日		
申請者住所		
氏名捺印		

第二號様式  
海事法令集

備考 用紙寸法横縦一尺七寸輪廓寸法許可書申請書共各横縦四寸



### 基隆及高雄上家使用規則

(昭和三年十一月)  
臺灣總督府令第六十一號  
改正 昭和十一年  
臺灣總督府令第五十二號

- 第一條 本令ニ於テ上家ト稱スルハ基隆及高雄埠頭ニ於ケル上家ニシテ交通局總長ノ指定シタルモノヲ謂フ
- 第二條 上家ハ交通局總長之ヲ管理ス
- 第三條 上家ハ基隆及高雄港出入ノ船舶積卸ノ貨物ヲ入ルル爲一般ニ之ヲ使用スルコトヲ得但シ左ノ貨物ハ此ノ限ニ在ラス
  - 一 危險品
  - 二 他ノ貨物ヲ汚損スル虞アルモノ
  - 三 燃料、木材、石材、鐵材其ノ他粗雜品及瀾大物
- 第四條 上家ノ使用ハ申込ノ順序ニ依ル申込ハ貨物ノ現實ノ提供ヲ要ス
- 第五條 上家ニ入レタル貨物ヲ引取ルトキハ交通局ニ之ヲ届出テ其ノ承認ヲ受ケヘシ
- 第六條 上家内ノ貨物ニ付テハ交通局ハ其ノ保管ノ責ニ任

- 第七條 貨物ノ變質、損傷等ニ因リ上家其ノ他ノ設備ニ損害ヲ及ボシタルトキハ貨主ハ之ヲ賠償スヘシ
- 第八條 貨物ノ置場ハ交通局ニ於テ之ヲ指定ス
- 第九條 貨物ニ於テ必要ト認ムルトキハ置場ノ變更ヲ爲スコトアルヘシ此ノ場合ノ荷費ハ貨主ノ負擔トス
- 第十條 上家内ニ於ケル作業時間ハ日出ヨリ日没迄トス但シ交通局ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第十一條 上家内ノ「エレベーター」其ノ他ノ荷役機械ハ交通局總長ノ指定スルモノヲシテ之ヲ取扱ハシム
- 第十二條 「エレベーター」其ノ他ノ荷役機械使用料ハ交通局總長ノ認可ヲ受ケ前項ノ規定ニ依ル取扱者之ヲ定ム
- 第十三條 上家ニ入レタル貨物ハ其ノ當日ヨリ起算シ左ノ期間内ニ之ヲ引取ルヘシ
  - 一階上家 五日以内
  - 二階上家 七日以内
- 第十四條 上家貨物ヲ一階ヨリ二階ニ荷繰シタルトキハ前項ノ引取期間ニ付テハ當初ヨリ二階上家ニ入レタルモノト看做ス
- 第十五條 第一項ノ引取期間ハ天災事變其ノ他不可抗力ニ因リ貨物ノ引取困難ナル場合又ハ入庫貨物ノ狀況ニ依リ引續キ貨

物ヲ留置スルモ支障ナシト認ムル場合ニ限り交通局總長ニ於テ相當期間之ヲ延長スルコトヲ得

第十條 前條ノ期間内ニ貨物ヲ引取ラサルトキハ交通局ハ貨主ノ費用ヲ以テ之ヲ倉庫業者ニ寄託スルコトアルヘシ貨物ヲ寄託シタルトキハ直ニ其ノ旨貨主ニ通知ス

第十一條 第九條ノ期間ヲ經過シタル貨物ニ對シテハ左ノ上家使用料ヲ徵收ス

一階上家 期間滿了ノ日ノ翌日ハ 金三十錢  
一越ニ付

二階上家 期間滿了ノ日ヨリ二日 金十錢  
目以後ハ一日一越ニ付

第十二條 上家ニ入レタル貨物ヲ貨主ノ都合ニヨリ船積セサルトキ、濫ニ貨物ヲ上家ニ入レタルトキ又ハ引取承認

期日迄ニ貨物ヲ搬出セサルトキハ貨物ヲ上家ニ入レタル日ヨリ一日一越ニ付金十錢ノ上家使用料ヲ徵收ス此ノ場合ニ於テハ前條ノ上家使用料ヲ徵收セス

第十三條 前二條ノ越ノ計算ニ付テハ一立方メートル重量一越以上ノモノハ重量ニ依リ、一越未滿ノモノハ一立方メートル一越トシ換算重量ニ依リ、一越未滿ハ之ヲ切上ゲ計算ス

第十四條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外上家ノ取締、荷役作業其ノ他上家ノ使用ニ關シ必要ナル事項ハ交通局總長之ヲ定ム

附 則

本令ハ昭和三年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際上家ニ現存スル貨物ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

大正九年府令第九號基隆上家使用規則ハ之ヲ廢止ス

### 臺灣總督府港務所々屬曳船使用規則

(大正十一年二月)  
臺灣總督府令第十二號

第一條 基隆港出入ノ爲又ハ岸壁、浮標、棧橋若ハ船渠ニ於ケル繫離用ノ爲港務所所屬曳船ノ使用ヲ許可ス

第二條 曳船使用ノ許可ヲ得ムトスル者ハ別記ノ申請書ヲ前日迄ニ港務所ニ提出スヘシ

第三條 曳船使用料ハ一隻一回ニ付左記ノ區別ニ依リ港務



本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

ニ所納付スヘシ

- 一 汽船登簿噸數 六千噸以上 三十圓
- 二 汽船登簿噸數 六千噸未滿 二十圓
- 三 汽船登簿噸數 三千噸未滿 十五圓
- 四 西洋形帆船 十五圓以内
- 五 其ノ他ノ帆船 十圓以内

前項第四號、第五號ノ料金ハ距離ノ遠近、風向、潮流等ノ關係ニ依リ港務所長之ヲ定ム

曳船ノ使用開始申請時ヨリ二時間以上ヲ經過シタルトキハ爾後經過一時間迄毎ニ一圓ニ付金二圓ヲ港務所ニ納付スヘシ

第四條 内外國軍艦ニ對シテハ使用料ヲ徵收セズ港務所ノ必要ニ依リ又ハ特別ノ事由アル場合曳船ニ從事シタルトキ亦同シ

第五條 曳船カ曳船作業ニ從事中其ノ船舶ニ生セシメタル損害ニ付テハ賠償ノ責ニ任セス

曳船使用者ニ於テ曳船ニ損害ヲ生セシメタルトキハ賠償ノ責ニ任スヘシ

第六條 曳船作業準備後使用ノ取消ヲ願出ツルトキハ燃料其ノ他消耗品ノ實費ヲ徵收ス

別記書式

曳船使用許可申請書  
口 申請者住所氏名

基隆港務所 所長 宛

下記船舶ニ對シ曳船使用許可相成度申請候也

No	船名	船種	國籍	登簿噸數	使用目的	使用日時	延長時間	使用料金
							月 日 午 時	時間

取 締  
切 曳 船 使 用 許 可 書  
年 月 日 基 隆 港 務 所 長

下記船舶ニ對シ曳船使用ヲ許可ス

No	船名	船種	國籍	登簿噸數	使用目的	使用日時	申請者
						月 日 午 時	

臺灣總督府港務所々屬曳船使用規則(臺灣)



第三章 海港檢疫

海港檢疫法

(明治三十二年二月) 法律第十九號

改正 大正十一年四月 法律第三十三號

第一條 海外諸港ヨリ來ル船舶ニ對シテハ傳染病豫防ノ爲 檢疫ヲ施行ス

檢疫ヲ施行スヘキ海港及傳染病ノ種類ハ内務大臣之ヲ指 定ス

第一條ノ二 傳染病ノ病原體保有者ハ此ノ法律ノ適用ニ付 テハ之ヲ傳染病患者ト看做ス

第二條 海外諸港ヨリ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ハ其ノ 入港前ニ於テ此ノ法律ニ依リ檢疫ヲ受ケ許可證ヲ得タル 後ニ非サレハ其ノ港ニ入港シ陸地又ハ他船ト交通シ船客 乗組員ノ上陸物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス但シ港外ニ於 テ檢疫ヲ受ケ難キ事由アル場合ニ於テハ檢疫官吏ノ指示

海港檢疫法

シタル場所ニ於テ檢疫ヲ受ケルコトヲ得 前項ノ船舶ニシテ入港後傳染病患者若ハ死者又ハ傳染病 毒ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルコトヲ發見シタルモノ ハ檢疫官吏ノ指定ニ從ヒ更ニ檢疫ヲ受ケ許可證ヲ得ルニ 非サレハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ船客乗組員 ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 船長其ノ他ノ乗組員及船客ハ檢疫官吏ノ尋問ニ對 シテ之ニ應答シ又船長其ノ他ノ乗組員ハ檢疫官吏ノ請求 アルトキハ所定ノ式紙ニ事實ヲ記入シ其ノ氏名ヲ署シタ ル明告書ヲ差出スヘシ

船長ハ檢疫官吏ノ請求ニ應シテ航海日誌ヲ示シ且船内ノ 各部ヲ開キ検査ヲ受クヘシ但シ船ハ航海中船客又ハ乗組 員ニテ占居シタルトキ又ハ他ノ事故ニ依リテ傳染病毒ニ 汚染シタル疑アルトキニ限り其ノ検査ヲ受クヘシ

第四條 海外諸港ヨリ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ニシテ 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ其ノ入港前ヨリ許可證ヲ 得ルマテ檢疫信號ヲ掲クヘシ



一 現ニ傳染病患者若ハ死者アルモノ  
 二 航海中傳染病患者若ハ死者アリタルモノ  
 三 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ若ハ傳染病ニ汚染シタル船舶ト交通シ其ノ他傳染病ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルモノ

第二條 第二項ノ船舶ハ傳染病患者若ハ死者又ハ傳染病ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルコトヲ發見シタル時ヨリ許可證ヲ得ルマテ檢疫信號ヲ掲クヘシ  
 檢疫信號ハ晝間ハ前橋頭ニ黃旗ヲ掲ゲ夜間ハ同所ニ紅白二燈ヲ連掲スルモノトス

第五條 海外諸港ヨリ檢疫ヲセサル港ニ來ル船舶ニシテ第四條第一項ノ各號ノ一ニ該當スルモノ又ハ其ノ港内ニ碇泊中傳染病患者若ハ死者又ハ傳染病ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルコトヲ發見シタルモノハ前條ノ規定ニ從ヒ檢疫信號ヲ掲ヘ其ノ地ノ警察官吏ニ届出テ指揮ヲ待ツケシ

前項ノ場合ニ於テ警察官吏ノ命アルトキハ直ニ檢疫ヲ施行スル港ニ回航シ檢疫ヲ受クヘシ  
 第一項ノ場合ニ於テ警察官吏ノ指揮アルマテハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ船客乗組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

命スルコト

六 發航地若ハ寄港地ノ狀況又ハ船舶ノ狀態ニ依リ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行スルコト  
 檢疫官吏ハ船舶ヲシテ前項ノ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行セシムコトヲ得

第七條 停船ヲ命セラレタル船舶ハ檢疫官吏ノ指示シタル場所ニ碇泊シ其ノ許可ヲ得ルニ非サレハ他ニ移轉スルコトヲ得ス

入港後前條第一項第五號ノ規定ニ依リ停船ヲ命セラレタル船舶ハ檢疫官吏ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ陸地又ハ他船ト交通シ船客乗組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 檢疫所ニ移轉セシメラレタル船客乗組員ハ檢疫官吏ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本船其ノ他ト交通シ若ハ物件ヲ搬出スルコトヲ得ス

第九條 船舶及物件ノ消毒又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ檢疫官吏カ施行スル場合ニ於テハ船長其ノ他ノ乗組員ハ其ノ施行上ニ關シ之ヲ補助スルノ義務アリ  
 前項ノ消毒又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ニ關スル費用ハ船主船長若ハ其ノ代理人ヨリ徴收ス

海港檢疫法

揚ヲ爲スコトヲ得ス  
 警察官吏ニ於テ第一項ノ事實アリト認メ其ノ旨ヲ通告シタル場合亦前二項ニ同シ

第六條 檢疫官吏ハ第一條ノ船舶ニ對シ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 現ニ傳染病患者若ハ死者アルモノハ停船ヲ命シ患者死者又ハ物件ノ處分ヲ指示シ船舶其ノ他ノ消毒方法若ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シ且必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル期間船客乗組員ヲ檢疫所又ハ船中ニ停留スルコト

二 航海中傳染病患者若ハ死者アリタルモノハ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

三 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ其ノ他傳染病ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルモノハ必要アリト認ムルトキ第一號ノ規定ニ準ジテ處分スルコト

四 停船中傳染病患者若ハ死者又ハ傳染病ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルコトヲ發見シタルトキハ更ニ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

第五 傳染病ノ疑アル患者アルトキ又ハ傳染病ノ病原検査上必要アルトキニ限リ二日ヨリ多カラサル期間停船ヲ

第十條 檢疫所ニ移轉セシメラレタル者ノ食費及患者死者ニ關スル費用ハ其ノ乗組員ニ屬スルモノハ船長若ハ其ノ代理人ヨリ其ノ船客ニ屬スルモノハ本人ヨリ之ヲ徴收ス  
 本條及第九條第二項ノ費額及其ノ徴收ニ關シ必要ノ規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 此ノ法律ノ執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨害シ又ハ檢疫官吏ノ尋問ニ對シテ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ事實ヲ答辯シ又ハ其ノ命令ニ從ハサル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 此ノ法律ハ朝鮮臺灣又ハ樺太ヨリ來ル船舶ノ檢疫ニ關シ之ヲ準用ス

第十三條 朝鮮、臺灣又ハ樺太ヨリ來ル船舶、内務大臣ノ指定スル海外諸港ヨリ來ル船舶及此ノ法律ヲ適用シ難キ船舶ニ關スル檢疫ニ關シテハ命令ヲ以テ別段ノ規定

第十四條 此ノ法律ハ朝鮮臺灣又ハ樺太ヨリ來ル船舶ノ檢疫ニ關シ之ヲ準用ス



ヲ爲スコトヲ得

附 則

第十三條 内外國ノ軍艦ニシテ檢疫ヲ施行セル港ニ來航スルニ當リ第四條第一項各號ニ該當スル事實ナキトキハ其ノ艦長及醫官ヨリ書面ヲ以テ檢疫官吏ニ其ノ旨ヲ明告スヘシ

内外國ノ軍艦ニシテ第二條第二項、第四條第一項各號ノ一ニ該當スル事實アルモノハ檢疫官吏ニ於テ其ノ艦ト陸地又ハ他船トノ交通乗組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ制限スルコトヲ得又同上ノ軍艦ニシテ第五條ノ規定ニ該當スル場合ハ其ノ地ノ警察官吏ニ於テ以上ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二條第二項及第五條ニ該當スル事實アルトキハ艦長及醫官ヨリ其ノ旨ヲ檢疫官吏又ハ警察官吏ニ通知スヘシ

前第三項ノ外軍艦ニ對スル檢疫ハ檢疫官吏ニ於テ艦長ト協議シ此ノ法律ノ規定ニ準ジテ執行スルモノトス

第十四條 此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(明治三十二年七月六日勅令第三百二十六號ヲ以テ同年八月四日ヨリ施行)

第十五條 明治十二年第二十九號布告、明治十五年第三十

一號布告、明治二十四年勅令第六十五號、明治二十七年勅令第五十六號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

附 則

(大正十一年四月法律第三十三號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年九月勅令第四百二十號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

### 海港檢疫法施行規則

(明治四十年六月內務省令第十三號)

改正 昭和十五年六月厚生省令第二十八號

#### 第一條

檢疫ヲ施行スル海港ハ東京港、大阪港、橫濱港、神戸港、長崎港、關門港、敦賀港、若松港、三池港、口ノ津港、長崎縣松島港、崎戶港、相ノ浦港及佐々港トス其ノ他ノ海港ニ於テ臨時ニ檢疫ヲ施行スルトキハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

東京港ニ來ル船舶ハ橫濱港ニ於ケル檢疫所、相ノ浦港及佐々港ニ來ル船舶ハ崎戶港ニ於ケル檢疫所ノ檢疫ヲ受クヘシ

算シコベストレハ六日以内、コレラ、黃熱ハ五日以内トス但シ傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航スル船舶其ノ他傳染病ニ汚染シタル疑アル船舶ニ付テハ傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經過シ若ハ傳染病ニ汚染シタリト疑フヘキ事實アリタル時ヨリ起算ス

停船中ト雖モ檢疫官吏ハ一定ノ條件ニ該當スル場合ニ於テ停留ノ必要ナシト認ムル船客乗組員ノ上陸又ハ物件ノ陸揚ヲ許可スルコトヲ得

第四條 海港檢疫法第六條第一項第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ停留ノ必要アル船客乗組員ヲ檢疫所ニ移轉セシメタルトキハ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シタル船舶ノ停船ヲ解除スルコトヲ得

消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シタル船舶ニシテ相當設備アルトキハ停留ノ必要アル船客乗組員ヲ船内ニ隔離シ條件ヲ附シテ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五條 海港檢疫法第六條ノ處分ニ關シ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シタル場合ニ於テ檢疫官吏ハ消毒方法ヲ施行セサル貨物ニ對シ條件ヲ附シテ陸揚ヲ許可スルコトヲ得

第六條 海港檢疫法第三條第一項ノ申告書ハ附錄様式ニ據ルヘシ

### 海港檢疫法施行規則

檢疫官吏海港檢疫法第六條第一項ノ處分ヲ爲ス爲必要アリト認ムルトキハ大阪港ニ於テ檢疫ヲ受ケタル船舶ヲ兵庫縣和田岬ニ、橫濱港ニ於テ檢疫ヲ受ケタル船舶ヲ長濱ニ、若松港ニ於テ檢疫ヲ受ケタル船舶ヲ山口縣彦島ニ、三池港、口ノ津港、長崎縣松島港及崎戶港ニ於テ檢疫ヲ受ケタル船舶ヲ長崎縣女神ニ回航セシムルコトヲ得

檢疫所ニ於テ海港檢疫法第六條第一項ノ處分ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ厚生大臣ハ處分ノ必要アル船舶ヲ他ノ檢疫所ニ回航セシムルコトアルヘシ

第二條 檢疫ヲ施行スル傳染病ハ「コレラ」、痘瘡、發疹「チブス」、「ペスト」、黃熱トス其ノ他ノ傳染病ニ對シ臨時檢疫ヲ施行スルトキハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

第二條ノ二 海港檢疫法ニ依ル檢疫ヲ受ケタル船舶ニシテ同一航海中檢疫ヲ施行スル他ノ港ニ來ルモノニ對シテハ檢疫官吏ニ於テ海港檢疫法第三條第一項ノ明告書及船舶ノ状態ニ依リ船客乗組員ノ檢診其ノ他檢査ノ必要ナシト認ムルトキハ直ニ海港檢疫法第二條ノ許可證ヲ交付スヘシ

第三條 海港檢疫法第六條第一項第一號ノ停留期間ハ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起



第七條 傳染病及其ノ疑アル患者ハ檢疫所所屬ノ病院ニ入ラシムヘシ但シ痘瘡又ハ發疹「チブス」ナルトキハ本人ノ請求ニ依リ相當ノ設備アル他ノ病院ニ入ラシムルコトヲ得

第八條 檢疫所ノ停留所ニ移轉セシメタル船客乗組員ニ傳染病ヲ發生シタルトキハ其ノ全部若ハ一部ノ人員ニ對シ更ニ第三條第一項ノ期間停留ヲ繼續ス

第九條 海港檢疫法第四條第一項第二號又ハ第三號ニ該當スル船舶ニシテ海外ノ港ニ於テ消毒ノ處分ヲ受ケタルモノト雖モ其ノ消毒ヲ受ケタル時ヨリ起算シ二週日以上ヲ經過セサルモノニ對シテハ同法第六條第一項第三號ニ依リ處分スルコトヲ得

第十條 死體ハ所定ノ場所ニ於テ火葬シ其ノ遺骨ハ引取人又ハ船長若ハ其ノ代理人ニ引渡スヘシ若シ引取人ナク船長若ハ其ノ代理人ニ在ラサルカ又ハ引取ヲ拒ムトキハ行路病人及行路死亡人取扱法ニ依リ處分スヘシ  
親族又ハ縁故アル者ヨリ死體引渡ヲ願出シタルトキハ病毒傳播ノ虞ナシト認ムル場合ニ限り之ヲ許可スルコトヲ得

第十一條 海港檢疫法第五條ノ場合ニ於テハ警察官吏ハ最

第十五條 消毒費ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ徵收ス但シ内外國軍艦及帝國陸軍部隊ニ關スルモノハ此ノ限ニ在ラス

船舶消毒費

總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿

同百噸未滿又ハ積石數五百石未滿

同百噸以上千噸未滿

同千噸以上二千噸未滿

二千噸以上一千噸未滿ヲ増ス毎ニ貳拾圓ヲ加フ

局部消毒費ハ各其ノ四分ノ一トス

積荷消毒費

一箇ニ付

船客乗組員ノ衣服、手荷物、所持品ノ消毒費

一等二等船客及之ニ準スヘキ乗組員一人分ニ付 貳圓

三等船客及之ニ準スヘキ乗組員 同 貳拾錢

第十六條 檢疫所ニ移轉セシメタル者ノ食費、患者死者ニ關スル費用及鼠族、昆蟲等ノ驅除費ノ徵收額ハ稅關長

(臨時海港檢疫所ニアリテハ地方長官)之ヲ定ム

第十七條 内外國ノ病院船ニ關スル檢疫ハ軍艦ニ準シ之ヲ

施行ス

第十八條 海港檢疫法第十二條ノ三ニ依リ海外諸港ヲ指定

スルコト左ノ如シ

一 他ノ港ニ回航セシムルトキ  
二 帝國内他港ニ進航スル船舶内ニ傳染病ノ疑アル患者又ハ「ベスト」ノ疑アル鼠アリテ特ニ乗船調査ヲ必要ト認メタルトキ  
三 前條第二項ノ進航ヲ許可シタルトキ  
四 第二十條ニ依リ航海中檢疫ヲ施行セシムルトキ  
第十四條 傳染病流行地及海港檢疫法第六條第一項第六號ノ發航地又ハ寄港地ニ該當スヘキ地方ハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス  
前項後段ノ指定地方ヨリ別ニ告示ヲ以テ指定セル港ニ來航スル船舶ニ對シテハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ行フモノトス但シ積荷ノ種類等ニ依リ檢疫官吏ニ於テ必要ナシト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
前項以外ノ船舶ト雖モ積荷ノ種類其ノ他船内ノ狀況等ニ依リ必要ト認ムルトキハ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ行フヘシ  
前二項ノ處分ヲ爲シタルトキハ船長又ハ其ノ代理人ノ請求ニ依リ其ノ證ヲ交付スヘシ  
本條ノ處分ヲ受ケタル船舶ニ對シテハ同一航海中再ヒ同一ノ處分ヲ行フコトナシ

海港檢疫法施行細則



海事法令集

關東州諸港

前項以外ノ海外諸港ニ付必要アルトキハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

第十九條

朝鮮、臺灣、樺太及關東州ヨリ來ル船舶ニ對シテハ海港檢疫法第四條各號ノ一ニ該當スルモノ及關東州以外ノ海外諸港ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航スルモノヲ除クノ外檢疫官吏ハ入港後檢疫ヲ施行スルコトヲ得

第二十條

厚生大臣必要アリト認ムルトキハ朝鮮、臺灣、樺太、關東州及第十八條第二項ニ依リ告示ヲ以テ指定スル

海外諸港ヨリ來ル船舶ニ付檢疫官吏ヲ乗込マシメ航海中檢疫ヲ施行セシムルコトアルヘシ

第二十一條

總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニ對シテハ傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航スル場合ニ限リ海港檢疫法ヲ適用ス

附錄様式  
一、船舶 告 告 書  
船種 書 船名

六六〇

登簿噸數

二、總噸數	
三、船主又ハ其ノ代理人	
四、發航地名	發航
五、寄港地名	發著
六、船客	客
一 等 船	客
二 等 船	客
三 等 船	客
其ノ他ノ船	客
計	
七、乘組員事務員以上ノ船員	女男
水夫雜役夫	名名
八、飲料水ヲ汲入レ若ハ食料ヲ積入レタル地名	名名
九、積荷ノ種類及搭載セシ地名	名名
十、積荷中櫛櫛、古綿等ノ有無若アラハ其ノ搭載地名	名名
十一、出向地	名名
十二、航海中寄港中及現在船中ニ「ベスト」、「コレラ」、 黃熱、痘瘡、發疹「チブス」又ハ該病疑似症ノ有無	名名
十三、航海中寄港中及現在船中ニ「ベスト」、「コレラ」、	名名

省令第三十四號海港檢疫法施行規則第一條ニ依リ明治三十三年二月十一日ヨリ左ノ諸港ニ於テ臨時海港檢疫ヲ施行ス

北海道 函館港  
北海道 函館港  
佐賀縣 唐津港

唐津港ニ來航スル船舶ニシテ消毒ヲ要スルモノハ長崎縣下女神又ハ山口縣下彦島ニ當該吏員ニ於テ回航セシムルコトアルヘシ

臨時海港檢疫施行ノ件

(明治四十年八月)

改正 大正十五年九月  
內務省告示第百三十九號

明治三十二年法律第十九號海港檢疫法第一條並明治四十年內務省令第十三號海港檢疫法施行規則第一條ニ依リ明治四十年八月二十四日ヨリ佐賀縣住ノ江港ニ於テ臨時海港檢疫ヲ施行ス

住ノ江港ニ來ル船舶ハ當分ノ内口ノ津港又ハ三池港ニ於ケル檢疫所ノ檢疫ヲ受クヘシ

六六一

臨時海港檢疫施行ノ件

(明治三十三年二月)

改正 明治三十四年  
內務省告示第六十一號

明治三十二年法律第十九號海港檢疫法第一條並同年內務省令第十三號海港檢疫法施行規則第一條ニ依リ臨時海港檢疫ヲ施行ス

黃熱、痘瘡、發疹「チブス」ノ外病者ノ有無若アラハ其ノ病名

十四、航海中寄港中及現在船中ニ死者ノ有無若アラハ其ノ病名

十五、航海中寄港中「ベスト」、「コレラ」、黃熱、痘瘡、發疹「チブス」アリタル船及疑ハシキ船トノ交通ノ有無

十六、航海中寄港中及現在船中ニ「ベスト」鼠又ハ鼯鼠ノ有無

十七、他港ニ於テ検査消毒停船ノ有無

右之通相違無之候也

船長 某印  
船醫 某印

臨時海港檢疫施行ノ件



### 臨時海港檢疫施行ノ件

(大正五年十二月)  
(內務省告示第七十四號)

明治三十二年法律第十九號海港檢疫法第一條並明治四十年  
內務省令第十三號海港檢疫法施行規則第一條ニ依リ大正六  
年一月一日ヨリ三重縣四日市港ニ於テ臨時海港檢疫ヲ施行  
ス  
四日市港ニ來ル船舶ニシテ消毒ヲ要スルモノハ當該官吏ニ  
於テ神奈川縣下長濱又ハ兵庫縣下和田岬ニ回航セシムルコ  
トアルヘシ

### 臨時海港檢疫施行ノ件

(大正五年十二月)  
(內務省告示第七十六號)

改正 大正十年  
內務省令第十九號

明治三十二年法律第十九號海港檢疫法第一條並明治四十年  
內務省令第十三號海港檢疫法施行規則第一條ニ依リ大正六  
年一月一日ヨリ愛知縣名古屋港ニ於テ臨時海港檢疫ヲ施行

名古屋港ニ來ル船舶ニシテ消毒ヲ要スルモノハ當該吏員ニ  
於テ神奈川縣下長濱又ハ兵庫縣下和田岬ニ回航セシムルコ  
トアルヘシ

### 臨時海港檢疫施行ノ件

(大正八年八月)  
(內務省告示第六十號)

改正 大正十年  
內務省告示第三十四號

明治三十二年法律第十九號海港檢疫法第一條並明治四十年  
內務省令第十三號海港檢疫法施行規則第一條ニ依リ大正八  
年八月七日ヨリ左ノ港ニ於テ臨時海港檢疫ヲ施行ス  
鹿兒島縣下 鹿兒島港  
鹿兒島港ニ來ル船舶ニシテ消毒ヲ要スルモノハ當該吏員ニ  
於テ長崎縣下女神又ハ山口縣下彦島ニ回航セシムルコトア  
ルヘシ

### 日没後檢疫請求ノ件

(明治三十二年十月)  
(內務省告示第三百三號)

海外諸港及臺灣ヨリ海港檢疫ヲ施行スル港ニ來ル郵便船又

ハ火急入港ヲ要スル船舶ニシテ日没後檢疫ヲ受ケントスル  
モノハ檢疫番船又ハ見張所附近ニ於テ長汽笛三聲ヲ發シ臨  
檢ヲ求ムヘシ

### 夜間檢疫信號

(明治二十一年九月)  
(內務省告示第十一號)

改正 明治三十三年  
內務省告示第一號

夜間檢疫信號左ノ通相定ム但晝間檢疫信號ハ萬國船舶信號  
ニ依ル

- 一 檢疫船前橋(船首碇泊燈ノ位置ヨリ凡ソ五尺以上ノ  
高サニ於ル)ニ於テ綠色球燈一箇赤色球燈一箇各三呎  
ヲ距テ縱ニ連掲シ檢疫船ノ信號トス
- 一 船舶ノ進航ヲ止メントスルトキハ其入船ヲ見掛ケタ  
ル時大砲ヲ一發シ船ヲ止ムルノ信號トス
- 一 檢疫碇泊ノ時ハ船首船尾ニ各一箇ノ碇泊燈ヲ掲ク

臨時海港檢疫施行ノ件・日没後檢疫請求ノ件・夜間檢疫信號・健全證書交附手續

### 健全證書交附手續

(明治三十五年三月)  
(內務省令第九號)

改正 大正十五年  
內務省令第四十二號

- 第一條 外國通ヒノ船舶出港セントスルトキハ海港檢疫ヲ  
施行スル地ニ於テハ其ノ地ノ稅關長ニ臨時海港檢疫ヲ施行  
スル地其ノ他ノ地ニ於テハ其地ノ地方長官ニ健全證書ノ交  
附ヲ申請スルコトヲ得
- 第二條 前條ノ申請ハ稅關支署又ハ稅關監視署ニ於テ海港  
檢疫ヲ施行スル場合ニ於テハ稅關支署長又ハ稅關監視署  
長ニ臨時海港檢疫所ノ設ケアル港ニ於テハ臨時海港檢疫  
所長ニ差出スヘシ
- 第三條 健全證書ノ交附ヲ申請スルモノハ手数料トシテ金  
五圓ヲ納ムヘシ
- 第四條 健全證書ハ左ノ書式ニ依ル

### 健全證書

現時何港ニハ傳染病(虎列刺、赤痢、腸窒扶斯、痘瘡、  
發疹窒扶斯、猩紅熱、實布埤利亞(格魯布ヲ含ム)「ベ



スト)ノ流行之レナク且本日出港(船名)ノ健全ナル  
コトヲ證明スル爲メ此證書ヲ船長某ニ附與ス

年 月 日

地方長官印  
税關長印

附 則

第五條 本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス  
明治二十七年内務省令第三號健全證書交附ノ件及明治三十  
二年内務省令第四十號健全證書交附手續ハ本令施行ノ日ヨ  
リ廢止ス

### 海港檢疫ニ關スル件

(明治四十四年一月  
制令第一一號)

第一條 外國並内地、臺灣及樺太ヨリ來ル船舶ニ對シ檢疫  
官吏ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ若ハ其  
ノ船舶ニ傳染病毒ノ汚染シタル疑アルモノハ必要アリ  
ト認ムルトキハ停船ヲ命シ船舶其ノ他ノ消毒方法若ハ

金ニ處ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 海港檢疫手續

(明治四十四年一月  
朝鮮總督府訓令第六號)

改正 明治四十五年  
朝鮮總督府訓令第五十四號

第一條 檢疫ヲ施行スル傳染病ハ 虎列刺、猩紅熱、ペス  
ト、黃熱トス其ノ他ノ傳染病ニ對シ臨時檢疫ヲ施行ス  
ルトキハ更ニ之ヲ指定ス

第二條 船舶其ノ他ノ消毒ヲ要スル場合ニ於テ其ノ港ニ消  
毒ノ設備ナキカ又ハ他ノ事故ニ依リ之ヲ施行シ能ハサル  
トキハ檢疫官吏ハ消毒ノ爲其ノ船舶ヲ他ノ港ニ回港セシ  
ムヘシ

第三條 航海中傳染病患者若ハ死者アリタルトキ又ハ現ニ  
傳染病患者若ハ死者アルトキハ消毒方法又ハ鼠族驅除ノ  
施行ヲ了シタル時ヨリ起算シ船客及乗組員停留ノ期間ハ

海港檢疫ニ關スル件・海港檢疫手續(朝鮮)

鼠族ノ驅除ヲ施行シ且十日ヲ超ヘサル期間船客乗組員  
ヲ檢疫所又ハ船中ニ停留スルコト

二 發航地若ハ寄港地ノ狀況又ハ船舶ノ狀態ニ依リ消毒  
方法又ハ鼠族ノ驅除ヲ施行スルコト

第二條 檢疫官吏ニ於テ船舶其ノ他ノ消毒又ハ鼠族ノ驅除  
ヲ施行スルトキハ船長其ノ他ノ乗組員ハ之ヲ補助スルノ  
義務アルモノトス

第三條 船舶其ノ他ノ消毒又ハ鼠族驅除ニ關スル實費ハ船  
主船長若ハ其ノ代理人ヨリ之ヲ徵收ス

檢疫所ニ移轉セシメラレタル者ノ食費及患者死者ニ關ス  
ル實費ハ其ノ乗組員ニ屬スルモノハ船長若ハ其ノ代理人  
ヨリ其ノ船客ニ屬スルモノハ本人ヨリ之ヲ徵收ス

第四條 傳染病豫防ノ爲必要ト認ムルトキハ朝鮮總督ハ物  
件ノ種類ヲ限リ輸入ヲ禁止スルコトヲ得

第五條 檢疫官吏ノ職務執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨害シ又ハ檢  
疫官吏ノ尋問ニ對シテ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ事實ヲ答  
辯シ又ハ其ノ命令ニ從ハサル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處  
ス

船長若ハ船長ノ職務ヲ行フ者前項ノ罪ヲ犯シ又ハ船客乗  
組員ノ之ヲ犯スヲ知テ制止セサルトキハ五十圓以下ノ罰  
金ニ處ス

「ペスト」ハ十日間、虎列刺、黃熱ハ五日間トス  
前項以外ノ場合ニ於テハ傳染病流行地ヲ發シ若ハ其ノ地  
ヲ經過シ又ハ傳染病毒ニ汚染シタルト認ムベキ事實アリ  
タル時ヨリ起算シ前項ノ期間ニ充ツル迄其ノ船客及乗組  
員ヲ停留セシムヘシ

停船中ト雖消毒方法ヲ施行シタル後ニ於テハ檢疫官吏ハ  
停船ノ必要ナシト認ムル船客及乗組員ノ上陸又ハ物件ノ  
陸揚ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ檢疫官吏ハ防疫ノ必要上相當ノ條件ヲ  
附スルコトヲ得

第四條 停船中ト雖鼠族ノ驅除ヲ施行シタル後ニ於テハ檢  
疫官吏ハ病毒傳播ノ虞ナキ貨物ニ對シ消毒方法ヲ施行セ  
スシテ相當ノ條件ヲ附シ其ノ陸揚ヲ許可スルコトヲ得

第五條 傳染病及其ノ疑アル患者ハ檢疫所ノ病院ニ入ラシ  
ムヘシ但シ猩紅熱患者ハ其ノ請求ニ依リ相當ノ設備アル  
他ノ病院ニ入ラシムルコトヲ得

第六條 檢疫所ニ停留セシメタル船客及乗組員ニ傳染病ヲ  
發生シタルトキハ其ノ全部若ハ一部ノ人員ニ對シ更ニ第  
三條第一項ノ期間停留ヲ繼續スヘシ

第七條 死體ハ病毒傳播ノ虞ナキ方法ニ依リ火葬又ハ埋葬



スヘシ其ノ火葬ニ付シタルトキハ遺骨ハ引取人又ハ船長若ハ其ノ代理人ニ引渡シ若引取人、船長、若ハ其ノ代理人アラサルトキ又ハ引取ヲ拒ムトキハ適當ノ場所ニ埋葬スヘシ

親族又ハ縁故アル者ヨリ死體引渡ヲ願出タルトキハ病毒傳播ノ虞ナシト認ムル場合ニ限り之ヲ許可スルコトヲ得

第八條 停船中ノ船舶ニシテ特別ノ事情ニ依リ外國ニ航行スルコトヲ船長又ハ其ノ代理人ヨリ請求アリタルトキハ消毒方法又ハ鼠族ノ驅除ヲ施行シタル後相當ノ設備アル船舶ニ限り検査官吏ハ相當ノ條件ヲ附シテ之ヲ許可スルコトヲ得

検査ヲ施行スル帝國内ノ他港ニ進航セムコトヲ請求スル場合ニ於テ其ノ到着前停船期間ヲ滿了スヘキトキ亦前項ニ同シ

第九條 明治四十四年制令第一號第一條第二號ノ處分ヲ受ケタル船舶ニ對シテハ同一航海中再ヒ同一ノ處分ヲ行ハサルモノトス

前項ノ船舶ニ對シテハ船長又ハ其ノ代理人ノ請求ニ依リ處分濟ノ證ヲ交付スヘシ

第十條 本令ニ定ムルモノノ外海港検査ノ施行ニ付必要ナルコトヲ證明スル爲此證書ヲ船長某ニ附與ス

年 月 日

某警察署長印

### 海港檢疫法施行規則

(大正十二年一月)  
臺灣總督府令第十四號

改正 昭和十一年六月  
臺灣總督府令第五十一號

第一條 検査ヲ施行スル海港ハ基隆港、淡水港、高雄港及花蓮港トス其ノ他ノ海港ニ於テ臨時ニ検査ヲ施行スルトキハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

淡水港ニ於テ検査ヲ受ケタル船舶ニシテ消毒ヲ要スルトキハ基隆ニ回航セシム但シ検査官吏ニ於テ基隆ニ回航シ難シト認ムル場合ニ於テハ第十二條第二項、第三項ニ準シ處置スルコトヲ得

第二條 検査ヲ施行スル傳染病ハ「コレラ」、痘瘡、發疹「チフス」、「ペスト」、黃熱トス其ノ他ノ傳染病ニ對シ臨時検査ヲ施行スルトキハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

第三條 海港檢疫法ニ依ル検査ヲ受ケタル船舶ニシテ同一健全證書交付手續(朝鮮)・海港檢疫法施行規則(臺灣)

ル事項ハ(警務總長)ノ定ムル所ニ依ル

### 健全證書交付手續

(明治四十五年四月)  
朝鮮總督府令第八十七號

第一條 外國通航ノ船舶出港セムトスルトキハ其ノ地ノ警察署長(警察分署長及警察署長ノ職務ヲ行フモノヲ含ム以下同シ)ニ健全證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

第二條 健全證書ノ交付ヲ申請スル者ハ手数料トシテ參照ヲ納付スヘシ

前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ

第三條 健全證書ハ別記書式ニ依ル

附 則

### 健全證書

現時當港ニハ傳染病(虎列刺、赤痢、腸室扶斯、痘瘡、發疹室扶斯、猩紅熱、實布の里亞(格魯布ヲ含ム)、「ペスト」、「バラチフス」)ノ流行之ナク且日本日出港(船名)ノ健全ナルコトヲ證明スル爲此證書ヲ船長某ニ附與ス

航海中検査ヲ施行スル他ノ港ニ來ルモノニ對シテハ検査官吏ニ於テ海港檢疫法第三條第一項ノ明告書及船舶ノ狀態ニ依リ船客、乗組員ノ検査ノ他検査ノ必要ナシト認ムルトキハ直ニ海港檢疫法第二條ノ許可證ヲ交付スヘシ

第四條 海港檢疫法第六條第一號ノ停留期間ハ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ノ施行ヲ終リタル時ヨリ起算シ「ペスト」ハ六日內、「コレラ」、黃熱ハ五日內、痘瘡ハ十四日內トス但シ傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航スル船舶其ノ他傳染病毒ニ汚染シタル疑アル船舶ニ付テハ傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經過シ若ハ傳染病毒ニ汚染シタリト疑フヘキ事實アリタル時ヨリ起算ス

停船中ト雖モ検査官吏ハ停留ノ必要ナシト認ムル船客、乗組員ノ上陸又ハ物件ノ陸揚ヲ許可スルコトヲ得

第五條 海港檢疫法第六條第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ停留ノ必要アル船客、乗組員ヲ検査所ニ移轉セシメタルトキハ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シタル船舶ノ停船ヲ解除スルコトヲ得

消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シタル船舶ニシテ相當設備アルトキハ停留ノ必要アル船客、乗組員ヲ船



内ニ隔離シ條件ヲ附シテ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第六條 海港檢疫法第六條ノ處分ニ關シ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シタル場合ニ於テ檢疫官吏ハ消毒方法ヲ施行セサル貨物ニ對シ條件ヲ附シテ陸揚ヲ許可スルコトヲ得

第七條 海港檢疫法第三條第一項ノ明告書ハ附録様式ニ據ルヘシ

第八條 傳染病及其ノ疑アル患者ハ檢疫所所屬ノ病院ニ入ラシムヘシ但シ痘瘡、又ハ發疹「チブス」ナルトキハ本人ノ請求ニ依リ相當ノ設備アル他ノ病院ニ入ラシムルコトヲ得

第九條 檢疫所ノ停留所ニ移轉セシメタル船客、乗組員ニ傳染病ヲ發生シタルトキハ其ノ全部若ハ一部ノ人員ニ對シ更ニ第四條第一項ノ期間停留ヲ繼續ス

第十條 海航檢疫法第四條第一項第二項又ハ第三號ニ該當スル船舶ニシテ海外ノ港ニ於テ消毒ノ處分ヲ受ケタルモノト雖モ其ノ消毒ヲ受ケタル時ヨリ起算シ二週目以上ヲ經過セサルモノニ對シテハ同法第六條第一項第三號ニ依リ處分スルコトヲ得

第十一條 死體ハ所定ノ場所ニ於テ火葬シ其ノ遺骨ハ引取人又ハ船長若ハ其ノ代理人ニ引渡スヘシ若シ引取人ナク

檢疫ヲ施行スル帝國内他港ニ進航セムコトヲ請求スル場合ニ於テ其ノ到着前停留期間ヲ滿了スヘキトキ亦前項ニ同シ

第十四條 海港檢疫法第十條ノ二ニ依リ檢疫官吏ノ乗船スルハ左ノ各號ノ場合ニ限ル

- 一 他ノ港ニ回航セシムルトキ
- 二 帝國内他港ニ進航スル船舶内ニ傳染病ノ疑アル患者又ハ「ペスト」ノ疑アル鼠アリテ特ニ乗船調査ヲ必要ト認メタルトキ
- 三 前條第二項ノ進航ヲ許可シタルトキ
- 四 第二十一條ニヨリ航海中檢疫ヲ施行セシムルトキ

第十五條 傳染病流行地及海港檢疫法第六條第一項第六號ノ發航地又ハ寄港地ニ該當スヘキ地方ハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

前項後段ノ指定地方ヨリ別ニ告示ヲ以テ指定セル港ニ來航スル船舶ニ對シテハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シ必要アリト認ムルトキハ消毒方法ヲ行フヘシ但シ積荷ノ種類等ニ依リ檢疫官吏ニ於テ必要ナシト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項以外ノ船舶ト雖モ發航地又ハ寄港地ノ衛生狀態及積

海港檢疫法施行規則(臺灣)

船長若ハ其ノ代理人在ラサルカ又ハ引取ヲ拒ムトキハ行旅病人及行旅死亡人取扱法ニ依リ處分スヘシ

親族又ハ縁故アル者ヨリ死體引渡ヲ願出タルトキハ病毒傳播ノ虞ナシト認ムル場合ニ限り之ヲ許可スルコトヲ得

第十二條 海港檢疫法第五條ノ場合ニ於テハ警察官吏ハ檢疫所ニ回航セシムヘシ但シ船長若ハ其ノ代理人ノ請求アルトキハ本條第二項第三項ニ依リ處分スルコトヲ得

警察官吏若シ其ノ船舶ノ檢疫ヲ施行スル海港ニ回航シ難シト認ムル場合又ハ相當ノ處置ヲ爲シ得ヘシト認ムル場合ニ於テハ檢疫所ニ回航セシメス船長及其ノ他ノ乗組員ヲシテ相當ノ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル費用ハ船主、船長若ハ其ノ代理人ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テ患者ヲ隔離スルノ必要アリト認メタルトキハ本人又ハ船主、船長若ハ其ノ代理人ヲシテ實費ヲ任拂ハシメ所定ノ場所ニ收容スルコトヲ得

第十三條 停船中ノ船舶ニシテ特別ノ事情ニ因リ船長若ハ其ノ代理人ニ於テ海外諸港ニ進航セムコトヲ請求シタルトキハ檢疫官吏ハ相當ノ設備アル船舶ニ限り條件ヲ附シテ之ヲ許可スルコトヲ得

荷ノ種類其ノ他船内ノ狀況等ニ依リ必要ト認ムルトキハ前項ノ規定ニ準シ處分スヘシ

前二項ノ處分ヲ爲シタルトキハ船長又ハ其ノ代理人ノ請求ニ依リ其ノ證ヲ交付スヘシ

第二項第三項ノ處分ヲ受ケタル船舶ニ對シテハ防鼠裝置ヲ除クノ外臺灣ニ於ケル同一航海中再ヒ同一ノ處分ヲ行フコトナシ

第十六條 消毒費ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ徵收ス但シ内外國軍艦及帝國陸軍部隊ニ關スルモノハ此ノ限ニ在ラス

船舶消毒費	
登簿噸數百噸未滿	十圓乃至二十圓
同百噸以上千噸未滿	二十圓乃至四十圓
同千噸以上二千噸未滿	四十圓乃至六十圓
二千噸以上一千噸未滿ヲ増ス毎二十圓ヲ加フ	一圓乃至十圓
日本形船、支那形船及漁船	一圓乃至十圓
局部消毒費ハ各其ノ四分ノ一内トス	
積荷消毒費	一箇ニ付 十錢乃至一圓
船客、乗組員ノ衣服、手荷物、所持品ノ消毒費	
一等二等船客及之ニ準スヘキ乗組員	一人分ニ付 一圓乃至三圓



三等船客及之ニ準スヘキ乗組員

一人分ニ付 十錢乃至五十錢

第十七條 檢疫所ニ移轉セシメタル者ノ食費、患者死者ニ關スル費用及鼠族、昆蟲等ノ驅除費ノ徵收額ハ州知事又ハ廳長之ヲ定ム

第十八條 内外國ノ病院船ニ對スル檢疫ハ軍艦ニ準シ之ヲ施行ス

第十九條 海港檢疫法第十二條ノ三ニ依リ海外諸港ヲ指定スルコト左ノ如シ

關東州諸港

前項以外ノ海外諸港ニ付必要アルトキハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

第二十條

内地、朝鮮、樺太及關東州ヨリ來ル船舶ニ對シテハ海港檢疫法第四條各號ノ一ニ該當スルモノ及關東州以外ノ海外諸港ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航スルモノヲ除クノ外檢疫官吏ハ入港後檢疫ヲ施行スルコトヲ得前項ニ依リ入港後檢疫ヲ施行スル場合ニ於テハ第三條ノ規定ヲ準用ス

第二十一條 臺灣總督必要アリト認ムルトキハ内地、朝鮮、樺太、關東州及第十九條第二項ニ依リ告示ヲ以テ指定ス

ル海外諸港ヨリ來ル船舶ニ付檢疫官吏ヲ乘組マシメ航海中檢疫ヲ施行セシムルコトアルヘシ

附則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年府令第七十二號及同年府令第七十三號ハ之ヲ廢止ス

附錄樣式

明告書

- 一 船籍、船種、船名
- 二 總噸數、登簿噸數
- 三 船主又ハ其ノ代理人
- 四 發航地名、發航月日
- 五 寄港地名、發著月日

六 船客	一等船客	男	女	名	名
	二等船客	男	女	名	名
計	三等船客	男	女	名	名
	其ノ他ノ客	男	女	名	名

船長 某印  
船醫 某印

臺灣海港檢疫施行港へ入來ノ船舶夜間檢疫請求方

(明治三十三年十二月) 臺灣總督府告示第百十二號

臺灣外ノ諸港ヨリ海港檢疫ヲ施行スル港ニ來ル郵便船又ハ火急入港ヲ要スル船舶ニシテ日没後檢疫ヲ受ケントスルモノハ基隆港ニ於テハ基隆燈臺所淡水港ニ於テハ淡水燈臺所附近ニ於テ長汽笛三聲ヲ發シ臨檢ヲ求ムヘシ

船舶檢疫消毒ノ件

(明治三十五年三月) 臺灣總督府令第二十二號

〔臺灣總督府臨時海港檢疫所〕ニ於テ檢疫ヲ受ケタル船舶ニシテ消毒ヲ要スルトキハ基隆へ回航セシムヘシ但シ回航

臺灣海港檢疫施行港へ入來ノ船舶夜間檢疫請求方(臺灣)

七 乗組員 事務員以上ノ船員 名

水火夫雜役夫 名

八 飲料水ヲ汲入若ハ食料ヲ積入レタル地名

九 積荷ノ種類及搭載セシ地名

十 積荷中樞樓、古綿等ノ有無若アラハ其ノ搭載地名

十一 出向地

十二 航海中寄港中及現在船中ニ「ペスト」、「コレラ」、

黃熱、痘瘡、發疹「チブス」又ハ該病疑似症ノ有無

十三 航海中寄港中現在船中ニ「ペスト」、「コレラ」、黃熱、痘瘡、發疹「チブス」ノ外病者ノ有無若アラハ其ノ

病名

十四 航海中寄港中及現在船中ニ死者ノ有無若アラハ其ノ病名

十五 航海中寄港中「ペスト」、「コレラ」、黃熱、痘瘡

發疹「チブス」アリタル船及疑ハシキ船トノ交通ノ有無

十六 航海中寄港中及現在船中ニ「ペスト」鼠又ハ鼯鼠

ノ有無

十七 他港ニ於テ検査消毒停船ノ有無

右之通相違無之候也

年 月 日



シ難シト認ムル場合ハ「臨時海港檢疫所」ニ於テ消毒ヲ施行スルコトヲ得

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

### 臺灣航洋船舶健全證書發給規則

#### 給規則

(大正十年六月) 臺灣總督府令第百十七號

改正 (大正十三年) 臺灣總督府令第九十五號

第一條 航洋船舶健全證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ知事又ハ廳長ニ申請スヘシ

申請者ハ別記第一號様式ニ依ルヘシ

第二條 港務部ノ設ケアル港灣ニ於テハ前條ノ申請書ハ港務部長ニ差出スヘシ

第三條 削除

第四條 健全證書ノ交付ヲ受ケルトキハ手数料金十圓ヲ納

七 積荷種類

八 一箇月以内船内傳染病ノ有無

右之通ニ付船内御検査ノ上健全證書交付相成度此段申請候也

年 月 日

右 船長 氏 名 印

知事(廳長)宛

別記第二號様式

健全證書

現時何港ニハ傳染病(ペスト、コレラ、赤痢、腸チブス、(「バラチブス」ヲ含ム)痘瘡、發疹チブス、猩紅熱、チフテリア、流行性腦脊髄膜炎)ノ流行ナク且ツ本日出港(船名)ノ健全ナルコトヲ證明スル爲此ノ證書ヲ船長(氏名)ニ付與ス

年 月 日

知事(廳長) 印

(裏面) 英譯文

臺灣航洋船舶健全證書發給規則(臺灣)・健全證書交付規則(南洋)・健全證書交付規則(樺太)

付スヘシ

第五條 健全證書ハ別記第二號様式ニ依ルヘシ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十五年府令第四十五號 健全證書交付手續ハ之ヲ廢止ス

別記第一號様式

健全證書交付申請書

- 一 船籍船種船名
- 二 總噸數登簿噸數
- 三 出港年月日時
- 四 行先地
- 五 船客 (何) 人
  - 一等船客 男 人 女 人
  - 二等船客 男 人 女 人
  - 三等船客 男 人 女 人
  - 其ノ他ノ船客 男 人 女 人
- 六 船員 人内
  - 事務員以上 人
  - 水夫以下 人

### 健全證書交付規程

(大正十二年九月) 南洋廳令第二十一號

改正 (昭和八年) 南洋廳令第一號

第一條 南洋群島外へ通航ノ船舶出港セムトスルトキハ其ノ地ヲ管轄スル支廳長ニ健全證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

第二條 健全證書ノ交付ヲ申請スル者ハ手数料トシテ五圓ヲ納付スベシ

第三條 健全證書ハ別記様式ニ係ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記様式略ス)



健全證書交付規則

(昭和十五年六月  
樺太廳令第六十六號)

第一條 航洋船舶ニシテ健全證書ノ交付ヲ受ケントスル者

ハ別記第一號様式ニ依リ樺太廳長官ニ申請スベシ

第二條 健全證書ノ交付ヲ申請スル者ハ手数料トシテ金五  
圓ヲ納付スベシ

第三條 健全證書ハ別記第二號様式ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記様式省略)

第四章 噸

稅

噸 稅 法

(明治三十二年三月  
法律第八十八號)

改正 昭和四年三月  
法律第三十一號

第一條 外國貿易ノ爲外國ニ往來スル船舶開港ニ入港シタ

ルトキハ其ノ入港毎ニ登簿噸數一噸又ハ積量十石ニ付七

錢ノ噸稅ヲ課ス但シ登簿噸數一噸又ハ積量十石ニ付二十

一錢ヲ一時ニ納付スルトキハ其ノ港ニ於テハ滿一箇年間

噸稅ヲ納ムルヲ要セス

帝國ト測度法ヲ異ニスル國ノ船舶ノ登簿噸數ハ帝國ニ於

テ定ムル測度法ニ依リ換算ス

第二條 噸稅ハ船舶入港シタルトキ船長ヨリ稅關ニ納付ス

ヘシ

第三條 海難其ノ他止ムヲ得サル事故ニ由リ入港シタル船

船ニハ噸稅ヲ課セス但シ本條ノ事故ニ由ルニアラスシテ

噸 稅 法

貨物ノ積卸ヲ爲ストキハ此ノ限リニアラス

第四條 稅關長ニ於テ必要ト認ムルトキハ船舶ノ測度ヲ爲  
スコトヲ得

第五條 噸稅ノ逋脫ヲ圖リ又ハ噸稅ヲ納付セスシテ出發シ

タルトキハ船長ヲ其ノ逋脫ヲ圖リ若ハ納付セザリシ税金

ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

第六條 犯則事件ノ調査及處分ニ關シテハ關稅法ヲ準用ス

但シ通告履行ノ期間ハ通告ヲ受ケタル時ヨリ四十八時間

以內トス

第七條 噸稅ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法ヲ適用セス

附 則

第八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則 (昭和四年三月法律第三十一號)

本法ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス本法施行前噸稅法

第一條第一項但書ノ規定ニ依リ一時ニ納付シタル噸稅ニ付

テハ仍從前ノ例ニ依ル



### 關稅法、關稅定率法及噸稅法ヲ樺太ニ施行スルノ件

(明治四十二年三月 勅令第二十三號)

關稅法、關稅定率法及噸稅法ハ之ヲ樺太ニ施行ス

附 則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 噸稅法施行規則

(明治三十二年六月 勅令第三百二十號)

改正 大正十一年 勅令第七十四號

第一條 噸稅法第一條但書ニ依リ一時ニ噸稅ヲ納付セントスル者ハ其ノ旨稅關又ハ稅關支署ニ申告スヘシ

第二條 稅關又ハ稅關支署ニ於テ噸稅ヲ徵收セントスルト

キハ其ノ稅金額及納付スヘキ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ヲ指定シテ納稅人ニ告知スヘシ

第三條 海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ開港ニ入港シタル外國貿易船ハ其ノ事由ヲ稅關又ハ稅關支署ニ證明スヘシ但シ噸稅ヲ納付スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 噸稅納付濟ノ證明又ハ噸稅法第四條ニ依リ測度ヲ受ケタル場合ニ於テ船舶測度證ヲ受ケントスル者ハ稅關又ハ稅關支署ニ申請シ證書一通ニ付手数料壹圓五拾錢ヲ納付スヘシ

前項ノ手数料ハ申請書ニ收入印紙ヲ貼付シテ之ヲ納付スルコトヲ得

第五條 犯罪ノ調査及處分ノ手續ニ關シテハ關稅法施行規則ヲ準用ス

附 則

本令ハ噸稅法施行ノ日ヨリ施行ス

### 朝鮮噸稅令

(大正九年八月 勅令第十八號)

外國貿易ノ爲外國ニ往來スル船舶開港ニ入港シタルトキハ噸稅ヲ課ス

噸稅ニ關シテハ噸稅法ニ依ル但シ同法中國稅徵收法トアルハ國稅徵收令トス

附 則

本令ハ大正九年八月廿九日ヨリ之ヲ施行ス

舊令ニ依リ噸稅ヲ納付シタル船舶ニハ其ノ噸稅納付ノ日ヨリ四月間噸稅ヲ課セス

本令施行前舊令ニ依リ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

### 朝鮮噸稅令施行規則

(大正九年八月 朝鮮總督府令第一百十八號)

改正 大正十一年 朝鮮總督府令第四十六號

第一條 噸稅法第一條但書ニ依リ一時ニ噸稅ヲ納付セムトスル者ハ其ノ旨稅關ニ申告スヘシ

第二條 噸稅ヲ徵收セムトスルトキハ納付スヘキ日本銀行本店、支店又ハ代理店ヲ指定シタル納稅告知書ヲ發スヘシ但シ日本銀行ニ納付セシムル場合ノ外告知書ヲ要セス

前項ノ規定ハ朝鮮總督府遞信官署現金受拂規則ニ依リ噸稅ヲ徵收スル場合ニ之ヲ適用セス

第三條 海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ開港ニ入港シタル外國貿易船ハ其ノ事由ヲ稅關ニ證明スヘシ

但シ噸稅ヲ納付スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 噸稅納付濟ノ證明又ハ噸稅法第四條ニ依リ測度ヲ受ケタル場合ニ於テ船舶測度證ヲ受ケムトスル者ハ稅關ニ申請シ證書一通ニ付手数料一圓五十錢ヲ納付スヘシ

前項ノ手数料ハ申請書ニ收入印紙ヲ貼附シテ之ヲ納付ス

關稅法、關稅定率法及噸稅ヲ樺太ニ施行スルノ件(樺太)・朝鮮噸稅令・朝鮮噸稅令施行規則(朝鮮)

六七七



ルコトヲ得

第五條 犯則ノ調査及處分ノ手續ニ關シテハ關稅法及大正九年法律第五十三號施行規則ヲ準用ス

第六條 本令ニ於テ稅關トアルハ稅關支署ノ管轄内ニ在リテハ稅關支署、稅關出張所所在地ニ在リテハ稅關出張所トス

附 則

本令ハ大正九年八月廿九日ヨリ之ヲ施行ス

### 臺灣噸稅規則

(明治三十二年七月 律令第二十二號)

改正 大正九年 律令第三十二號

第一條 外國貿易ノ爲外國ニ往來スル西洋形船舶開港ニ入港シタルトキハ其入港毎ニ登簿噸數一噸ニ付五錢ノ噸稅ヲ課ス但シ登簿噸數一噸ニ付二十錢ヲ一時ニ納付スルトキハ其ノ港ニ於テハ滿一箇年間噸稅ヲ納ムルヲ要セス  
第一條ノ二 前條ノ船舶ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルト

キハ噸稅ヲ免ス

一 船用ニ供スル石炭、水又ハ食料品積載ノ爲基隆又ハ高雄ニ入港シタルトキ

二 郵便物又ハ仲繼貿易貨物ノ積卸ノ爲基隆又ハ高雄ニ入港シタルトキ

第二條 外國貿易ノ爲外國ニ往來スル日本形及支那形船舶開港ニ入港シタルトキハ其入港毎ニ千石以上ノモノニテハ五圓千石未滿ノモノニ在テハ三圓ノ噸稅ヲ課ス

第三條 此規則ニ規定セサル事項ハ明治三十二年法律第十八號噸稅法ヲ適用ス

附 則

第四條 此規則施行ノ期日ハ府令ヲ以テ之ヲ定ム

### 臺灣噸稅規則施行細則

(明治三十二年八月 臺灣總督府令第九十號)

改正 大正十年 臺灣總督府令第一百五十三號

第一條 稅關又ハ稅關支署ニ於テ噸稅ヲ徵收セムトスルトキハ其ノ稅金額、期日及納付場所ヲ指定シタル納稅告知書ヲ發スヘシ但シ收入官吏ニ即納セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 海難其他已ムヲ得サル事故ニ依リ開港ニ入港シタル外國貿易船ハ其事由ヲ稅關又ハ稅關支署ニ證明スヘシ但噸稅ヲ納付スル場合ハ此限ニアラス

第三條 噸稅納付済ノ證明又ハ噸稅法第四條ニ依リ測度ヲ受ケタル場合ニ於テ船舶測度證ヲ受ケントスル者ハ稅關又ハ稅關支署ニ申請シ證書一通ニ付手数料金壹圓五拾錢ヲ納付スヘシ  
前項ノ手数料ハ申請書ニ收入印紙ヲ貼付シテ之ヲ納付スルコトヲ得

臺灣噸稅規則・臺灣噸稅規則施行細則(臺灣)

第四條 犯罪ノ調査及處分手續ニ關シテハ臺灣關稅規則施行細則ヲ準用ス

附 則

本令ハ臺灣噸稅規則施行ノ日ヨリ施行ス



第五章 關

稅

關稅法

(明治三十二年三月  
法律第六十一號)  
昭和十六年二月  
法律第七號  
改正

- 第一章 關稅ノ賦課及徵收
- 第二章 船 舶
- 第三章 貨 物
- 第一節 總 則
- 第二節 輸出輸入及積戻
- 第三節 運 送
- 第四節 郵便物
- 第五節 收 容
- 第四章 稅關官吏ノ職權
- 第五章 異議及訴願
- 第六章 罰 則

關稅法

第七章 犯則事件ノ調査及處分  
第八章 補 則

第一章 關稅ノ賦課及徵收

第一條 輸入貨物ニハ關稅定率法ニ依リ關稅ヲ課ス但シ條約ニ於テ特別ノ協定アル貨物ハ其ノ協定ニ依ル

第二條 輸入貨物損傷シタル爲減稅ヲ請フ者アルトキハ輸入免許前ニ限り相當ノ減稅ヲ爲スコトヲ得

第三條 關稅ハ輸入申告ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒ之ヲ課ス但シ保税倉庫ニ庫入シタル貨物ノ關稅ハ庫出ノ日藏置期限又ハ運送期限ノ經過ニ依リ關稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ其ノ期間滿了ノ日ノ翌日、收容貨物ニシテ公賣ニ付スルモノノ關稅ハ公賣ノ日第八十三條第三項ノ規定ニ依リ關稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ犯則ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒ之ヲ課ス

第四條 關稅ハ輸入申告者ヨリ之ヲ徵收ス

第五條 關稅未納ノ貨物ハ其ノ關稅ノ擔保トス  
關稅ノ徵收ハ總テ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス



第六條 擔保ヲ提供シタル場合ニ於テ徵收スヘキ關稅ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ關稅及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付ス

第七條 關稅ノ徵收權ハ之ヲ行使シ得ル日ヨリ滿二箇年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因テ消滅ス但シ連脫ヲ圖リ又ハ連脫シタル關稅ノ徵收權ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 關稅ノ過誤納ニ因テ生スル請求權ハ關稅納付ノ日ヨリ滿二箇年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因テ消滅ス

第九條 前二條ノ期限内ニ爲シタル納稅告知若ハ仕拂請求ハ時効ヲ中斷ス

第二章 船 舶

第十條 外國貿易船開港ニ入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時以内ニ稅關ニ入港届ヲ爲シ積荷目録、艙口申告書、船用品目録及旅客氏名表ヲ提出スルト同時ニ船舶國籍證書及仕出港ノ出港免狀若ハ之ニ代ルヘキ書類ヲ預クヘシ

第十一條 (削除)

第十二條 外國貨物ヲ積載セル船舶ノ稅關長ノ認許ヲ得タル場合ノ外積荷目録又ハ運送目録ヲ提出シタル後ニ非サ

レハ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ携帶品及郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 外國貿易船開港ヲ出港セントスルトキハ船長ハ稅關ニ出港届ヲ爲シ出港免許ヲ受クヘシ

第十四條 外國貿易船貨物ノ積卸ヲ爲サスシテ入港ノ時ヨリ二十四時以内ニ出港スルトキハ第十條及第十三條ノ規定ヲ適用セス

第十五條 (削除)

第十六條 船長ハ稅關長ノ認許ヲ得タル場合ノ外既ニ提出シタル積荷目録ノ改訂補足ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條 外國貨物ヲ積載セル船舶ハ日没ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニハ稅關長ノ特許ヲ受クルニ非サレハ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ携帶品及郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 外國貿易船ハ不開港ニ出入スルトヲ得ス但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故アルトキハ此ノ限ニ在ラス  
外國貿易船前項但書ノ事故ニ因リ不開港ニ入港シタルトキハ船長ハ直ニ其ノ事由ヲ稅關官吏、稅關官吏アラサルトキハ警察官吏ニ届出ツヘシ  
第十九條 (削除)

第二十條 (削除)

第二十一條 外國貿易船船用品ヲ積入レントスルトキハ船長ハ稅關、稅關ノ設置ナキ地ニ於テハ稅關官吏、稅關官吏在ラサルトキハ警察官吏ニ申告スヘシ

第二十二條 稅關官吏職務ノ爲船舶ニ乗込ムトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第二十三條 本法ニ於テ外國貿易船ト稱スルハ外國貿易ノ爲外國ニ往來スル船舶ヲ謂フ

第三章 貨 物

第一節 總 則

第二十四條 外國貨物ハ保稅地域ニ非サル場所ニ藏置スルコトヲ得ス但シ難破貨物、稅關ノ認許ヲ受ケタル貨物其ノ他法令ニ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 貨物ノ検査ヲ開始シタル後ハ貨物ニ關スル申告書ノ訂正補足ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 日没ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニ於テ貨物ヲ保稅地域ニ搬入シ又ハ保稅地域ヨリ搬出セントスルトキハ稅關長ノ特許ヲ受クヘシ但シ旅客ノ携帶品ハ此ノ限ニ在ラス  
保稅地域内ニ於テ貨物ノ取扱ヲ爲サントスルトキ亦前項

關 稅 法

第二十七條 保稅地域内ニ於ケル貨物ノ取扱ハ總テ稅關長ノ指揮ニ從フヘシ

第二十八條 貨物ノ陸揚、船積其ノ他船舶ト陸地トノ交通ハ稅關長ノ特許ヲ得タル場合ノ外稅關ニ於テ定メタル場所ニ由ルヘシ  
外國貿易船ト沿海通港船トノ交通ハ稅關長ノ特許ヲ得タル場合ノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十九條 輸出シタル貨物ハ外國貨物トシ輸入シタル貨物ハ内國貨物トス

第三十條 本法ニ於テ保稅地域ト稱スルハ稅關構内保稅倉庫、稅關假置場、稅關長方外國貨物ヲ藏置シ得ヘキ場所トシテ指定又ハ特許シタル場所ヲ謂フ

第三十一條 貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲サントスル者ハ稅關ニ申告シ貨物ノ検査ヲ經テ其ノ免許ヲ受クヘシ但シ左ニ掲クル場合ニ於テハ稅關官吏ニ、稅關官吏現場ニ在ラサルトキハ收稅官吏ニ申告シ其ノ検査及免許ヲ受クルコト

第二節 輸出、輸入及積戻

第三十一條 貨物ノ検査ヲ經テ其ノ免許ヲ受クヘシ但シ左ニ掲クル場合ニ於テハ稅關官吏ニ、稅關官吏現場ニ在ラサルトキハ收稅官吏ニ申告シ其ノ検査及免許ヲ受クルコト



ヲ得

- 一 遭難船舶ノ修繕、救授又ハ救助ノ費用其ノ他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲貨物ヲ賣却スルトキ
- 二 遭難船舶ニ積載セル損傷貨物又ハ腐敗シ易キ貨物ヲ讓渡スルトキ
- 三 遭難船舶又ハ難破貨物ヲ輸入スルトキ
- 四 遭難船舶ヨリ上陸シタル旅客ノ携帶品ヲ輸入スルトキ

**第三十二條** 輸入申告書ニハ仕入書ヲ添付スヘシ但シ當該官吏ニ於テ仕入書ヲ添付スルコト能ハサル理由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ノ外輸入申告書ニ仕入書ヲ添付セザルトキハ關稅ノ賦課ニ關シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

**第三十三條 (削除)**

**第三十四條** 輸入貨物ハ輸入免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ引取ルコトヲ得ス但シ當該官吏ノ認許ヲ得税金ノ擔保トシテ金錢ヲ提供シタルトキハ輸入貨物ノ引取ヲ爲スコトヲ得

**第三十五條 (削除)**

稅關ニ提出スヘシ

船長又ハ陸路運送人ハ運送ニ關シ職務ヲ執行スル官吏ニ對シ相當ノ便宜ヲ與フベシ

**第三十九條ノ五** 左ニ掲クル外國貨物ヲ海路又ハ陸路ニ由リ不開港ヨリ開港又ハ保税地域ニ運送セントスル場合ニ於テハ船長又ハ陸路運送人ハ稅關官吏、稅關官吏在ラサルトキハ警察官吏ノ認許ヲ受クヘシ但シ陸路ニ由ル運送ハ稅關官吏又ハ警察官吏ノ指定スル通路ニ由ルヘシ

- 一 假ニ陸揚シタル貨物
- 二 運航ノ自由ヲ失ヒタル船舶ニ積載セル貨物
- 三 難破貨物

前項ノ貨物運送先ニ到達シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ハ二十四時以内ニ認許證ヲ稅關ニ提出スヘシ

**第四十條** 內國貨物ハ外國貿易船ニ積載シ開港間ニ之ヲ運送スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ稅關ニ申告シ其ノ免許ヲ受クヘシ  
**第四十一條** 第三十九條及前條ノ運送貨物運送先ニ到達シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ハ直ニ運送目録ヲ稅關ニ提出スヘシ

第四節 郵便物

關稅法

**第三十六條 (削除)**

**第三十七條** 輸出貨物ハ輸出免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ積出スルコトヲ得ス

**第三十八條** 外國貨物ノ積戻ニハ總テ輸出ニ關スル規定ヲ準用ス但シ假ニ陸揚シタル貨物ノ積戻ハ此ノ限ニ在ラス

第三節 運送

**第三十九條** 外國貨物ハ海路又ハ陸路ニ由リ開港間、保税地域間又ハ開港ト保税地域トノ間ニ之ヲ運送スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ稅關ニ申告シ其ノ免許ヲ受クヘシ  
前項ノ場合ニ於テ稅關ハ必要ト認ムルトキハ擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

**第三十九條ノ二** 外國貨物ノ陸路ニ由ル運送ハ命令ヲ以テ定メタル通路ニ由ルヘシ

**第三十九條ノ三** 外國貨物相當ノ期間内ニ運送先ニ到着セザルトキハ運送申告者ヨリ關稅ヲ徵收ス但シ災害ニ因リ滅失シ又ハ稅關ノ認許ヲ得テ滅却シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

**第三十九條ノ四** 外國貨物ヲ運送セントスル場合ニ於テハ船長又ハ陸路運送人ハ運送先ヲ異ニスル毎ニ運送目録ヲ

**第四十二條** 郵便物中關稅ヲ課スヘキ物品アルトキハ稅關ハ其ノ稅金額ヲ郵便局ヘ通知スヘシ

**第四十三條** 關稅ヲ課スヘキ郵便物ヲ受取ラントスル者ハ郵便局ニ申出テ其ノ關稅ヲ納付スヘシ

前項ノ關稅ハ印紙ヲ以テ納付スヘシ  
**第四十四條** 郵便物ノ關稅ハ郵便物名宛人ニ交付スル場合ノ外之ヲ課セス

**第四十五條** 第二十四條、第二十六條、第三十一條乃至第三十四條第三十七條乃至第三十九條ノ五及第四十一條ノ規定ハ郵便物ニ之ヲ適用セス

第五節 收容

**第四十六條** 保税倉庫又ハ稅關假置場ヲ除クノ外保税地域ニ搬入シタル貨物ヲ搬入ノ日ヨリ七日以内ニ其ノ保税地域ヨリ搬出シ又ハ保税倉庫ニ庫入若ハ稅關假置場ニ移入セザルトキハ稅關ハ其ノ貨物ヲ收容スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ稅關ハ其ノ費用及危險ヲ負擔セス  
前項ノ貨物生活力ヲ有スル動植物ナルトキ、腐敗シ若ハ腐敗ノ虞アルトキ又ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ前項ノ期間内ト雖之ヲ收容スルコトヲ得

**第四十七條** 貨物ヲ收容シタルトキハ三日以内ニ其ノ旨ヲ



揭示スヘシ

第四十八條 貨物收容ノ解除ヲ得ントスル者ハ税關ニ申告シ其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用及敷料ヲ納メ免許ヲ受クヘシ

第四十九條 前條ノ免許ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ貨物ヲ保税地域ヨリ搬出シ又ハ保税倉庫ニ庫入若ハ税關假置場ニ移入セサルトキハ税關ハ更ニ第四十六條ノ收容ヲ爲スコトヲ得

第五十條 貨物收容ノ日ヨリ六箇月以内ニ第四十八條ノ申告ヲ爲ス者ナキトキハ税關ハ其ノ記號、番號、種類、箇數ヲ公告スヘシ

前項公告ノ日ヨリ一箇月以内ニ仍第四十八條ノ申告ヲ爲ス者ナキトキハ貨物ヲ公賣ニ付シ關稅、敷料其ノ他其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ貨主ニ交付ス

公益上必要アル場合ニ於テハ隨意契約ヲ以テ前項ノ公賣ニ代フルコトヲ得

第五十一條 收容貨物生活力ヲ有スル動植物ナルトキ、腐敗シ若ハ腐敗ノ虞アルトキ又ハ倉庫若ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ前條ノ期限ニ拘ラズ公告シテ之ヲ公賣ニ付スル事ヲ得但シ公告スルノ暇ナキトキハ公賣シタル後之ヲ公告スヘシ

ル船舶進行ヲ停止セサルトキハ海軍艦船長ハ其ノ船舶ニ對シ兵力ヲ用フルコトヲ得

第五章 異議及訴願

第六十一條 關稅ノ賦課ニ關スル税關長ノ處分ニ對シ不服アル者ハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ文書ヲ以テ税關長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ貨物ヲ引取リタル後ハ此ノ限ニ在ラス

第六十二條 前條ノ規定ニ依リ異議ノ申立アリタルトキハ税關長ハ文書ヲ以テ之ヲ判定シ異議申立人ニ之ヲ交付スヘシ但シ第六十三條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十三條 從價稅ヲ課スヘキ貨物ノ課稅價格ニ關スル異議ヲ不當ト認ムルトキハ税關長ハ申告價格ニ其ノ百分ノ五ヲ加ヘタル價格ヲ以テ其ノ貨物ヲ買上ルカ若クハ評價人ヲシテ評價セシムヘシ

評價人ノ評價額一致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ評價價格トス

第六十四條 評價人ハ四人トシ二人ハ税關長之ヲ命ジ二人ハ異議者之ヲ選定ス但シ左ニ掲クル者ハ評價人タルコトヲ得ス

一 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者及家資

關 稅 法

第五十二條 收容貨物ヲ公賣ニ付スルモ買受人ナキトキハ適宜之ヲ處分スルコトヲ得

第四章 税關官吏ノ職權

第五十三條 税關長ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ船車ノ出發ヲ差止メ又ハ進行ヲ停止スルコトヲ得

第五十四條 税關長ハ必要ト認ムルトキハ船舶若ハ貨物ニ關スル書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第五十五條 税關長ハ運送貨物ニ對シ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 税關長ハ必要ト認ムルトキハ輸出入貨物ノ見本ヲ納付セシムルコトヲ得

第五十七條 税關官吏ハ船車ニ乗込ミ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十八條 税關官吏ハ必要ト認ムルトキハ貨物ヲ検査若ハ封鎖シ又ハ船車倉庫其ノ他貨物ノ藏置場ヲ封鎖スルコトヲ得

第五十九條 税關長ハ職權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ海軍ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六十條 前條ノ請求アリタルトキハ海軍艦船長ハ船舶ニ對シ進行停止ノ命令ヲ爲スコトヲ得前項ノ命令ヲ受ケタ

分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

二 第七十四條乃至第七十六條ノ處罰ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者

三 六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ舊刑法ノ法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ復權ヲ得サル者

六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者及舊刑法ノ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終ル迄ノ者又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

四 當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者

異議者ニ於テ評價人ヲ選定シタルトキハ税關長ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條 評價人ヲシテ評價セシメタルトキハ其評價價格ヲ以テ課稅價格トス但シ評價價格申告價格ヨリ少ナキトキハ申告價格ヲ以テ課稅價格トス

第六十六條 異議者ノ選定シタル評價人ニ關スル費用ハ異議者ノ負擔トス

第六十七條 異議ノ申立ハ處分ノ執行ヲ停止セス但シ税關長ハ必要ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第六十八條 第六十二條ノ税關長ノ判定ニ對シ不服アル者



ハ大藏大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六十九條 訴願ヲ審査セシムル爲委員會ヲ設ク

第七十條 委員會ハ委員過半数出席スルニ非サレハ決議ヲ

爲スコトヲ得ス決議ハ出席委員ノ過半数ニ依リ之ヲ爲ス

可否同数ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第七十一條 委員ハ自己ノ利害ニ關スル議事ニ參與スルコ

トヲ得ス

第七十二條 委員會ニ於テ審査ヲ了シタルトキハ其ノ結果

ヲ大藏大臣ニ具申スヘシ

第七十三條 委員會ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 罰 則

第七十四條 輸入禁制品ノ輸入ヲ圖リ又ハ其ノ輸入ヲ爲シ

タル者ハ犯罪ニ係ル貨物ノ原價ニ相當スル罰金又ハ科料

ニ處シ其ノ貨物ヲ沒收ス但シ他ノ法律ニ於テ別ニ刑ヲ定

メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條 關稅ノ逋脫ヲ圖リ又ハ關稅ヲ逋脫シタル者ハ

其ノ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰

金又ハ科料ニ處シ犯罪ニ係ル貨物ヲ沒收ス但シ犯罪ニ係

ル貨物カ關稅定率別表輸入稅表第四百十二號第二項ニ

掲クル貴石ナルトキハ罰金又ハ科料ハ其ノ原價ノ三倍ニ

相當スル金額トス

第七十六條 免許ヲ受ケズシテ貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲シ

又ハ爲サントシタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

但シ第七十四條又ハ第七十五條ニ該當スルモノハ此ノ限

ニ在ラス

第七十七條 貨物ト符合セサル積荷目録又ハ運送目録ヲ提

出シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ヲ五百圓以下ノ罰金

又ハ科料ニ處ス

第七十八條 第十八條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ船

長ヲ二千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ他ノ法律ニ於

テ別ニ刑ヲメタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十九條 第十二條若ハ第十七條ノ規定ニ違反シタルト

キハ船長ヲ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八十條 第十條、第十三條、第十八條第二項、第二十一

條、第三十九條ノ四第一項、第三十九條ノ五又ハ第四十

條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ヲ二

百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八十一條 第二十六條乃至第二十八條、第三十九條第一

項、第三十九條ノ二又ハ第四十條第二項ノ規定ニ違反シ

タル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八十二條 第七十七條乃至第八十一條ノ規定ニ該當スル

者ハ不注意ニ出テタル故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第八十二條ノ二 輸出又ハ輸入ノ業ヲ營ム者ノ代理人又ハ

使用人ニシテ其ノ業務ニ關シ第七十四條、第七十五條又

ハ第七十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ營業者ヲ處罰ス

但シ營業者カ其ノ代理人又ハ使用人ノ監督ニ付相當ノ注

意ヲ爲シタルコトヲ證明スル場合又ハ稅關貨物取扱人カ

貨物ノ取扱ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

稅關貨物取扱人ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業

務ニ關シ第七十四條、第七十五條又ハ第七十六條ノ規定

ニ違反シタルトキハ稅關貨物取扱人ヲ處罰ス

第八十二條ノ三 前條ノ場合ニ於テ營業者又ハ稅關貨物取

扱人カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人

ヲ處罰ス但シ營業又ハ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ

有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

相當スル金額トス

第七十五條ノ二 前二條ノ犯罪ニ係ル貨物ノ運搬、寄藏、

收受、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ千圓以上ノ罰金又ハ

科料ニ處ス但シ犯罪ニ係ル貨物カ前項但書ニ掲クル貴石

ナルトキハ罰金ハ五千圓以下トシ其ノ原價カ五千圓ヲ超

ユルトキハ原價ニ相當スル金額以下トス

第七十六條 免許ヲ受ケズシテ貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲シ

又ハ爲サントシタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

但シ第七十四條又ハ第七十五條ニ該當スルモノハ此ノ限

ニ在ラス

第七十七條 貨物ト符合セサル積荷目録又ハ運送目録ヲ提

出シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ヲ五百圓以下ノ罰金

又ハ科料ニ處ス

第七十八條 第十八條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ船

長ヲ二千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ他ノ法律ニ於

テ別ニ刑ヲメタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十九條 第十二條若ハ第十七條ノ規定ニ違反シタルト

キハ船長ヲ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八十條 第十條、第十三條、第十八條第二項、第二十一

條、第三十九條ノ四第一項、第三十九條ノ五又ハ第四十

條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長又ハ陸路運送人ヲ二

百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八十一條 第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス

第八十三條 本法ニ依リ沒收スヘキ貨物カ犯罪者以外ノ者

ニ屬シ又ハ消費其ノ他ノ事由ニ因リ沒收スルコト能ハサ

ルトキハ其ノ價格ヨリ關稅及消費稅ニ相當スル金額ヲ控

除シタル金額ヲ犯罪者ヨリ沒收ス

第八十二條ノ二ノ營業者及稅關貨物取扱人ハ前項ノ規定

ノ適用ニ付テハ之ヲ犯罪者ト看做ス

前二項ノ追徵ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ貨物ノ關稅ハ犯罪

當時ノ貨物ノ所有者ヨリ之ヲ徵收ス但シ貨物カ所有者ノ

占有ニ歸セサル間ニ滅失シ又ハ第三者ニ歸屬シタルトキ

ハ犯罪者ヨリ之ヲ徵收ス

前項ノ規定ニ依ル關稅ノ徵收ニ付テハ國稅徵收法ヲ準用

ス

第七章 犯罪事件ノ調査及處分

第八十四條 稅關官吏ハ犯罪ノ事實發見ノ爲必要ト認ムル

トキハ船車倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ

得

第八十五條 稅關官吏ハ犯罪ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ



物件ヲ身邊ニ藏匿スル者アリト思料シタルトキハ其ノ開示ヲ求メ若之ニ從ハサルトキハ身邊ノ搜索ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 税關官吏ハ犯則事件ノ調査ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ犯則者證人參考人ヲ訊問スルコトヲ得

第八十七條 税關官吏臨檢、搜索、訊問ヲ爲ストキハ制服ヲ着用シ又ハ其ノ資格ヲ證明スル證票ヲ携帶スヘシ

第八十八條 税關官吏ハ臨檢、搜索ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第八十九條 税關官吏搜查ヲ爲ストキハ搜索スヘキ船車倉庫其ノ他ノ場所ノ所持人又ハ其ノ同居ノ親族、傭人、隣佑若其ノ在ラサルトキハ其ノ地ノ警察官吏若ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ但シ船車ニ在テハ其ノ役員ヲシテ立會ハシムルコトヲ得

前項ノ親族、傭人若ハ隣佑ハ成年者ナルヲ要ス

第九十條 税關官吏犯則事件ノ調査ニ依リ發見シタル物件犯則ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘシト思料シタルトキハ之ヲ差押ヘ差押目録ヲ作ルヘシ  
差押物件ハ便宜ニ依リ所持者若ハ市町村役場ニ保管セシムルコトヲ得

キハ税關長ハ直ニ告發スヘシ

第九十六條 犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同一事件ニ付訴ヲ受クルコトナシ

第九十七條 税關長ハ通告ヲ爲シ難シト認ムルトキ若ハ通告ノ旨ヲ履行スル資力ナシト認ムルトキハ直ニ告發スヘシ

第八章 補 則

第九十八條 船舶修繕ノ爲又ハ開港ニ於テ積卸シ難キ巨大重量ノ貨物ヲ陸揚若ハ船積スル爲必要ト認ムルトキハ税關長ハ外國貿易船ノ不開港ニ出入スル特許ヲ與フルコトヲ得開港トノ交通著シク不便ナル場所ニ於テ貨物ヲ陸揚又ハ船積スル爲必要ト認ムルトキ亦同シ

第九十九條 從來ノ開港ノ外開港トナスヘキ場所及其ノ開港ニ於テ輸出若ハ輸入スヘキ貨物ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一百條 本法ノ期間ヲ定ムルニ日時ヲ以テシタルモノハ其ノ期間中ニ税關ノ休日ヲ算入セス

日ト稱スルハ二十四時ヲ謂ヒ月ト稱スルハ三十日ヲ謂ヒ年ト稱スルハ曆ニ從フ

第一百一條 本法ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代

關稅法等ヲ朝鮮ニ施行スルノ件(朝鮮)

差押物件腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ税關長ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ代金ヲ供託スルコトヲ得

第九十一條 臨檢搜索及物件差押ハ日没ヨリ日出迄ノ間之ヲ爲スコトヲ得但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス既ニ開始シタル臨檢搜索又ハ物件差押ハ必要アル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラス之ヲ繼續スルコトヲ得

第九十二條 税關官吏ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入スルヲ禁スルコトヲ得

第九十三條 税關官吏臨檢、搜索、訊問ヲ爲シタルトキハ其ノ調査ヲ作り立會人若クハ訊問ヲ受ケタル者ニ示シ共ニ署名スヘシ  
立會人若クハ訊問ヲ受ケタル者署名セス又ハ署名スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第九十四條 税關長ハ犯則事件ノ調査ニ依リ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其ノ理由ヲ明示シ罰金若ハ科料ニ相當スル金額沒收ニ該當スル物品若ハ徵收金ニ相當スル金額ヲ税關ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ  
第九十五條 犯則者前條ノ通告ヲ受ケタルトキハ其ノ日ヨリ五日以内ニ之ヲ履行スヘシ此ノ期間内ニ履行セザルト

リテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第一百一條ノ二 税關官吏ハ關稅定率法第五條ノ二ニ規定スル不當廉賣品ノ輸入又ハ輸入品ノ不當廉賣ニ關シ必要ナル調査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第八十四條、第八十六條、第八十七條、第八十九條及第九十一條ノ規定ヲ準用ス

第一百二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (明治三十二年六月勅令第三一七號ヲ以テ同年八月四日ヨリ施行)

第一百三條 明治十六年布告第四十號、特別輸出港規則、同二十三年勅令第五十四號、稅關法、稅關規則、同二十六年法律第十三號、同二十七年法律第二號、同年法律第三號、同二十九年法律第十八號其ノ他本法ニ抵觸スル法令ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

附 則 (昭和一九、二 法律七)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關稅法等ヲ朝鮮ニ施行スルノ件

(大正九年八月 勅令第三百六號)

一、關 稅 法



- 二、關稅定率法
- 三、明治三十三年法律第八十六號
- 四、保稅倉庫法
- 五、假置場法

附 則

本令ハ大正九年八月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

### 關稅法施行規則

(明治三十二年六月 勅令第三百十九號)

改正 昭和五年四月 勅令第五十六號

#### 第一章 關稅ノ賦課徵收及擔保

- 第一條 關稅法第一條第一項但書ニ依リ特別協定ノ便益ヲ受ケントスル者ハ特別協定ノ適用ヲ受クヘキ地域内ノ產出品又ハ製造品ナルコトヲ證明スヘシ但シ郵便物及課稅價格百圓ヲ超エサル貨物ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二條 前項ノ證明ハ貨物ノ產出地、製造地、仕入地若ハ積出地ノ帝國領事館若ハ貿易事務館、帝國領事館及貿易事務館ナキトキハ其ノ地ノ稅關其ノ他ノ官廳公署又ハ商業會議所ノ證明シタル製產原地證明書ヲ以テスルヲ要ス前項ノ製產原地證明書ニハ貨物ノ記號、番號、品名、箇數、數量及產出又ハ製造ノ地域ヲ記載スヘシ
- 第二條ノ二 製產原地ノ證明ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルトキハ前二條ノ規定ニ依ラス其ノ規定ニ從フ
- 第三條 關稅ヲ徵收セントスルトキハ納金額及納付スヘキ

### 關稅法ヲ臺灣ニ施行スルノ件改正ノ件

(昭和十二年八月 勅令第四百三十六號)

關稅法ハ之ヲ臺灣ニ施行ス但シ同法中大藏大臣トアルハ臺灣總督、市町村役場トアルハ市街庄役場、市町村吏員トアルハ市ノ官吏若ハ吏員又ハ街庄ノ吏員、國稅徵收法トアルハ臺灣國稅徵收規則トシ同法第九十九條中勅令トアルハ臺灣總督府令トス

關稅法施行規則中大藏大臣トアルハ臺灣總督、市町村役場トアルハ市街庄役場、裁判所トアルハ臺灣總督府法院トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

- 日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ヲ指定シタル文書ヲ以テ納稅人ニ告知スヘシ但シ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ納付セシムル場合ノ外告知書ヲ要セス
- 第四條 納稅人前條ノ告知書ヲ受ケタルトキハ之ニ稅金ヲ添ヘ指定ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ納付スヘシ
- 第五條 旅客ノ携帶品關稅法第三十一條但書ニ掲ケタル貨物等ニ付キ貨物ヲ検査シタル官吏直ニ關稅ヲ徵收スルトキハ他ノ官吏若ハ公吏ノ立會アルヲ要ス
- 前項ニ依リ關稅ヲ徵收シタルトキハ立會官吏若ハ公吏ノ證明ヲ受ケ稅關ニ報告スヘシ
- 第六條 稅關法第四十二條ニ依リ郵便局ニ於テ稅金額ノ通知ヲ受ケタルトキハ郵便物交付前ニ之ヲ名宛人ニ通知スヘシ
- 第七條 前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ稅金ニ相當スル收入印紙ヲ通知書ニ貼付シ郵便局ニ提出スヘシ
- 第八條 郵便局ニ於テ前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ當該稅關ニ送付スヘシ
- 第九條 關稅法第二條ニ依リ減稅ヲ請ハントスル者ハ損傷貨物ノ記號、番號、品名、數量、價格及請求ノ要領ヲ記

關稅法ヲ臺灣ニ施行スルノ件改正ノ件(臺灣)・關稅法施行規則

載シタル文書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第十條 關稅ノ擔保トシテ提供スヘキモノハ金錢又ハ國債ニ限ル

第十一條 金錢又ハ無記名國債證券ヲ擔保トシテ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ稅關ニ提出スヘシ

登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ稅關ニ提出スヘシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ

第十二條 (削除)

第十三條 關稅法第六條但書ニ依リ擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ公告シ最初公告ノ日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ爲スヘシ

第十四條 前條ノ公告ハ擔保提供者ノ住所又ハ居所、氏名國債ノ種別、證券又ハ登錄ノ記號、金額、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第十五條 公賣決行前ニ關稅及費用ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ中止スヘシ

第十六條 關稅法第六條但書ニ依リ擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得



第二章 船舶ニ關スル手續

第十七條 船舶ノ入港届ハ船舶ノ名稱、國籍、登簿噸數、仕出港、入港ノ時及乗組海員ノ數ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十八條 積荷目録ニハ船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕出地仕向地、記號、番號、品名、箇數、數量及荷受人ヲ記載スヘシ

第十九條 艀口申告書ニハ艀口ノ所在、箇數、艀用品目録ニハ艀用品ノ種類、數量及見積價格、旅客氏名表ニハ旅客ノ國籍、氏名、乗込地及上陸地ヲ記載スヘシ

第二十條 外國貨物ヲ積載セル船舶、積荷目録又ハ運送目録提出前ニ於テ貨物積卸ノ認許ヲ得ントスルトキハ其ノ理由、貨物ノ種類及數量ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第二十一條 船舶ノ出港届ハ船舶ノ名稱、國籍、登簿噸數仕向港及出港ノ時ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十二條 外國貿易船出港ノ免許ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ出港ヲ免許シタルトキハ其ノ預リタル船舶國籍證書其ノ他ノ書類ヲ還付スヘシ

第二十三條 外國貨物ヲ積載セル船舶日没ヨリ日出迄ノ間又ハ稅關ノ休日ニ於テ貨物ノ積卸ヲ爲ス爲稅關長ノ特許ヲ受ケントスルトキハ其ノ理由、貨物ノ種類及數量ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第二十四條 前條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手数料ヲ納付スヘシ但シ海難其他已ムヲ得サル事故ニ因リ貨物ノ積卸ヲ爲ストキ又ハ外國貨物ヲ積載セル沿海通航船内國貨物ノ積卸ヲ爲スニ止マルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 警察官吏關稅法第十八條第二項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其地所轄ノ稅關又ハ監視署ニ急報スヘシ

第二十六條 (削除)

第二十七條 外國貨物ノ假陸揚ヲ爲サントスルトキハ其ノ記號番號、品名、箇數、數量及陸揚ノ事由ヲ記載シタル文書ヲ以テ艀長ヨリ稅關ニ、稅關ノ設置ナキ地ニアリテハ稅關官吏、稅關官吏在ラサルトキハ警察官吏ニ申告スヘシ但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ豫メ申告スル能ハサルトキハ陸揚シタル後直ニ申告スヘシ

第二十八條 關稅法第二十一條ノ申告ハ物品ノ種類、數量及價格ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條ノ二 警察官吏前二條ノ申告ヲ受ケタルトキハ

其ノ地所轄ノ稅關ニ通報スヘシ

第二十九條 沿海通航船海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ外國ニ寄港シタルトキハ歸港後其ノ地所轄ノ稅關ニ申告スヘシ

前項ノ船舶外國ニ於テ艀用品ヲ積入レタルトキハ其ノ種類、數量原價及積入地ヲ記載シタル目録ヲ歸港地所轄ノ稅關ニ提出スヘシ

第三章 貨物ニ關スル手續

第一節 總 則

第三十條 日没ヨリ日出迄ノ間又ハ稅關ノ休日ニ於テ貨物ヲ保稅地域ニ搬入シ若ハ保稅地域ヨリ搬出シ又ハ保稅地域内ニ於ケル貨物ノ取扱ヲナス爲特許ヲ受ケントスル者ハ其ノ理由、貨物ノ種類及數量ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第三十一條 前條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手数料ヲ納付スヘシ

第三十二條 稅關ニ於テ定メタル場所以外ニ於テ貨物ノ陸揚、船積其ノ他船舶ト陸地トノ交通ヲナス爲特許ヲ受ケントスル者ハ其ノ場所、期間、貨物ノ種類及數量ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

特許ノ條件ニ違反シタルトキハ稅關ハ特許ヲ取消スヘシ

第三十三條 稅關ニ於テ定メタル場所以外ニ於テ貨物ノ檢査ヲ受ケントスル者アルトキハ稅關ハ之ヲ特許スルコトアルヘシ但シ關稅法第二十四條但書ノ場合ニ於テハ特許ヲ受クルヲ要セス

前項ノ特許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ場所、期間、貨物ノ種類ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ本條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手数料ヲ納付スヘシ

第三十三條ノ二 (削除)

第二節 貨物ノ輸出及積戻手續

第三十四條 輸出申告ハ積載スヘキ船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ記號、番號、品名、箇數、數量、價格、仕向港及仕向地ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ旅客携帯品ニ關スル申告ハ文書ヲ以テスルヲ要セス

輸出貨物外國産ナルトキハ仍其ノ産地ヲ記載スヘシ

關稅定率法第七條第十七號ニ依リ關稅ノ免除ヲ得ントスル外國産貨物ノ輸出申告書ニハ仍輸出ノ目的及再輸入ノ場所ヲ記載スヘシ

前項再輸入ノ場所ヲ變更シタルトキハ文書ヲ以テ輸出手續ヲ爲シタル稅關ニ申告スヘシ



第三十五條 關稅定率法第八條又ハ第十條ニ依ル關稅免除ノ貨物ヲ法定期間内ニ輸出セントスル者ハ輸出申告ヲ爲スト同時ニ輸入免狀又ハ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ稅關ニ提出スヘシ

前項ノ貨物ニ付輸出ノ免許ヲ爲シタルトキハ輸入免狀又ハ證明書ニ輸出済ノ旨ヲ記入シ提出者ニ交付スヘシ  
第三十六條 第三十四條第一項ノ規定ハ積戻申告ニ之ヲ準用ス

第三節 貨物輸入ノ手續

第三十七條 輸入申告書ニハ積載船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕入地、積出地、産出地又ハ製造地、記號、番號、品名、箇數、數量及價格ヲ記載スヘシ

第三十七條ノ二 輸入申告書ニ添付スヘキ仕入書ハ貨物ノ仕入國ニ於テ作成シ貨物ノ賣渡人ノ署名アルモノナルコトヲ要ス

第三十八條 旅客携帶品ニ關スル申告ハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得

第三十九條 關稅定率法第七條第十七號、第十八號及第十二號ニ該當スル貨物ヲ輸入セントスル者關稅ノ免除ヲ得ントストキハ輸入申告ヲ爲スト同時ニ輸出免狀又ハ

便局ハ關稅法第四十二條ニ依リ發シタル通知書ニ其ノ理由ヲ記入シ稅關ニ還付スヘシ

第四節 貨物ノ運送

第四十六條 海路ニ由ル貨物ノ運送申告書及運送目錄ニハ船舶ノ名稱、貨物ノ運送先、内外國貨物ノ區別、記號、番號、品名、箇數及數量ヲ記載シ仍運送申告書ニハ貨物ノ價格及運送ノ目的、運送目錄ニハ荷受人ヲ記載スヘシ  
陸路ニ由ル貨物ノ運送申告書及運送目錄ニハ貨物ノ運送先、記號、番號、品名、箇數及數量ヲ記載シ仍運送申告書ニハ貨物ノ價格及運送ノ目的、運送目錄ニハ荷受人ヲ記載スヘシ

第四十六條ノ二 關稅法第三十九條ノ五ニ掲ケタル外國貨物運送ノ認許ヲ受ケントスル者ハ運送先、貨物ノ品名、箇數及數量ヲ記載シタル申告書ヲ提出スヘシ

第四十六條ノ三 關稅法第三十九條ノ五ニ依リ外國貨物ノ運送ヲ認許シタルトキハ其認許證ニ前條ノ申請書ニ記載シタル事項ノ外指定通路ヲ記載スヘシ  
警察官吏前項ノ認許ヲ爲シタルトキハ認許證ノ寫ヲ其地所轄ノ稅關ニ送付スヘシ

第四十七條 運送貨物運送先ニ到達シタルトキハ運送免狀

關稅法施行規則

之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ提出スヘシ但シ輸入貨物内國産ニシテ稅關官吏ニ於テ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ提出スル能ハサル理由アリト認ムルモノニ限り他ノ證憑書類ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第四十條 關稅定率法第八條第二號乃至第八號及第十條ニ掲ケタル貨物ノ輸入ヲ爲サントスル者ハ輸入申告書ニ仍輸入ノ目的及輸出ノ場所ヲ記載スヘシ  
輸出港ヲ變更シタルトキハ文書ヲ以テ輸入手續ヲ爲シタル稅關ニ申告スヘシ

第四十一條 (削除)

第四十二條 關稅法第三十四條但書ニ依リ輸入免許前ニ貨物引取ノ認許ヲ得ントスル者ハ其ノ理由ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ輸入申告書ニ記載シタル貨物ヲ分割シテ引取ノ認許ヲ得ントスル者ハ仍該貨物ノ記號、番號、品名、數量及輸入申告ノ年月日ヲ記載スヘシ  
第四十三條 (削除)

第四十四條 郵便局ニ於テ輸入郵便物ヲ陸揚シタルトキハ當該稅關ニ通知スヘシ  
郵便物ヲ検査スルトキハ郵便局員立會ノ上之ヲ行フヘシ  
第四十五條 郵便物ヲ名宛人ニ交付スル能ハサルトキハ郵

ヲ稅關ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ運送貨物免狀ト符合スルトキハ稅關ハ免狀ニ運送済ノ旨ヲ記入シテ之ヲ提出者ニ還付スヘシ

第五節 貨物ノ收容ニ關スル手續

第四十八條 關稅法第四十七條ノ揭示及第四十八條ノ申告書ニハ貨物ノ記號、番號、品名及箇數ヲ記載スヘシ  
第四十九條 關稅法第五十條第二項ニ依リ貨物ヲ公賣スルトキハ公告シテ之ヲ爲スヘシ  
前項及關稅法第五十一條ノ公告ニハ前條ニ掲ケタル書項ノ外公賣ノ事由、公賣ノ場所及時其他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第四十九條ノ二 關稅法第五十條第二項ニ依リ貨主ニ交付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得  
第五十條 收容貨物ノ敷料ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四章 異議

第五十一條 關稅ノ賦課ニ關スル異議ノ申立ニハ不服ノ要領、理由、要求及處分ヲ受ケタル年月日ヲ記載シ附屬書類又ハ物件アルトキハ之ヲ表示スヘシ

第五十二條 異議判定書ニハ異議者ノ住所又ハ居所、氏名異議申立ノ要領、判定ノ理由及判定主文ヲ記載スヘシ



第五十三條 判定書ノ交付ハ使丁ノ送達ニ依リテ之ヲ爲ス但シ書留郵便ヲ以テ之ヲ爲ス事ヲ得

第五十四條 判定書ヲ送達シタルトキハ受領證ヲ徵スヘシ

第五十五條 異議者ノ住所、居所不明ナルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ判定書ヲ交付スル能ハサルトキハ其ノ要領ヲ揭示スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ揭示ノ日ヨリ七日ヲ經過シタルトキヲ以テ判定書ノ交付アリタルモノト看做ス

第五十六條 關稅法第六十三條ニ依リ貨物ヲ買上ケ又ハ評價人ヲシテ評價セシメントスルトキハ之ヲ異議者ニ通知スヘシ

第五十七條 異議者前條ニ依リ貨物評價ノ通知ヲ受ケタルトキハ七日以内ニ評價人ヲ選定シ其ノ職業、住所又ハ居所、氏名ヲ申告シ稅關長ノ認可ヲ受ケヘシ但シ本條ノ期間ハ異議者ノ申請ニ依リ稅關長ニ於テ必要ナリト認メタルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得

第五十八條 稅關長ハ異議者ノ選定シタル評價人ヲ不適當ト認ムルトキハ期間ヲ指定シテ其ノ改選ヲ命スヘシ

第五十九條 稅關長評價人ヲ認可シタルトキハ評價ノ時期及場所ヲ指定シテ之ヲ異議者ニ通知スヘシ

第六十八條 關稅法第九十四條ノ處分通告ハ通告書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ

處分通告書ニハ關稅法第九十四條ニ掲ケタル事項ノ外犯則ニ關スル詳細ノ事實、物品ノ數量、納付ノ場所及期間ヲ記載スヘシ

第六十九條 第五十三條及第五十四條ノ規定ハ處分通告書ノ送達ニ之ヲ準用ス

第七十條 沒收ニ該當スル物品ニシテ市町村役場ノ保管ニ係ルモノハ保管ノ儘納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十一條 稅關長犯則事件ヲ告發シタル場合ニ於テ差押物件アルトキハ差押目録ト共ニ裁判所ニ引續クヘシ

前項ノ差押物件所持者又ハ市町村役場ノ保管ニ係ルトキハ差押物件引續ノ旨ヲ保管者ニ通知スヘシ

第七十二條 犯則ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ文字ノ挿入、削除若ハ欄外ノ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ

文字ヲ削除スルトキハ其ノ字體ヲ存シ置キ其ノ字數ヲ記載スヘシ

第六章 稅關ノ執務時間及臨時開廳

第七十三條 稅關ノ執務時間ハ休日ヲ除キ午前九時ヨリ午

關稅法施行規則

第六十條 評價人評價ヲ終リタルトキハ評價ノ理由ヲ詳記シタル評價書ヲ作り之ヲ稅關ニ提出スヘシ

第六十一條 評價終リタルトキハ稅關長ハ課稅價格ヲ異議者ニ通知スヘシ

第五章 犯則事件ノ調査及處分

第六十二條 差押物件ハ差押ヲ爲シタル官吏之ヲ封印スヘシ

第六十三條 差押目録ニハ物件ノ品名、數量、差押ノ場所及時、物件所持者ノ住所又ハ居所、氏名ヲ記載スヘシ

第六十四條 差押物件ヲ所持者若ハ市町村役場ニ保管セシメタルトキハ其ノ受領證ヲ徵シ市町村役場ニ保管セシメタルトキハ其ノ旨差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ

第六十五條 關稅法第九十條ニ依リ差押物件ヲ公賣スルトキハ之ヲ公告シテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ公告ニハ物件ノ品名、數量、公賣ノ事由、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第六十六條 臨檢、搜索及ヒ訊問調査ニハ臨檢、搜索又ハ訊問ノ事實、場所及時並供述ノ要領ヲ記載スヘシ

第六十七條 稅關官吏犯則事件ノ調査ヲ終リタルトキハ稅關長ニ報告スヘシ

後四時迄トス但シ土曜日ハ午後三時迄トス

第七十四條 稅關ノ執務時間外ニ於テ臨時開廳ノ特許ヲ請ハントスル者ハ開廳ノ期日及其ノ期間中ニ爲スヘキ事項ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

前項ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手数料ヲ納ムヘシ

第七章 雜 則

第七十五條 關稅法第九十八條ノ特許ヲ得ントスルトキハ港名、船舶ノ名稱、國籍、碇泊期間及理由、貨物ノ陸揚又ハ船積ニ係ルトキハ其ノ品名、數量ヲ記載シタル文書ヲ以テ船長ヨリ稅關長ニ申請スヘシ

前項ノ特許ヲ得タルトキハ船長ヨリ特許手数料ヲ稅關ニ納付スヘシ

第七十六條 稅關ノ證明又ハ船舶貨物ニ關スル計表ヲ請フ者ハ手数料ヲ納付スヘシ

第七十七條 大藏大臣ハ棧橋、起重機其ノ他稅關所屬ノ土地建設物又ハ備品ヲ使用スル者ヲシテ使用料ヲ納付セシムルコトヲ得

第七十八條 手数料及使用料ノ額ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七十九條 手数料、使用料、收容貨物ノ費用及敷料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得



收入印紙ヲ以テ手数料及使用料ヲ納付セントスル者ハ納付書ニ貼用シテ之ヲ提出スヘシ

第八十條 税關官吏及收税官吏ハ差押物件、沒收物件、收容貨物、關稅ノ擔保物等ニシテ當該官吏ノ賣却スルモノハ直接ト間接トヲ問ハス之ヲ買受クルコトヲ得ス

第八十一條 關稅法若ハ本規則ニ依リ當該官吏ニ於テ作ルヘキ文書ニハ官廳名若ハ官氏名及年月日ヲ記載シ之ヲ捺印スヘシ

第八十二條 申告書其ノ他ノ文書ニハ提出者ノ國籍、住所又ハ居所及提出ノ年月日ヲ記載シ提出者之ニ署名スヘシ  
第八十三條 關稅法又ハ本規則ニ依リ稅關又ハ稅關長ニ提出スヘキ文書ハ稅關支署ノ管轄内ニ在リテハ稅關支署ニ提出スヘシ

前項ノ外稅關ニ關スル規定ハ稅關支署ニ之ヲ準用ス

第八十四條 本規則ハ關稅法施行ノ日ヨリ施行ス但シ第一條及第二條ノ規定ハ關稅法施行ノ日ヨリ六箇月ヲ經テ之ヲ施行ス  
第八十五條 明治三十年第三百八十五號勅令ハ本規則全部施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

### 關稅法第三十九條ノ二ニ依ル通路ノ件

改正 昭和六年一月  
大藏省令第一號  
昭和十五年  
大藏省令第四十五號

關稅法第三十九條ノ二ニ依ル通路左ノ通定メ昭和六年一月二十日ヨリ之ヲ施行ス  
大正六年大藏省令第二十號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス  
一、國有鐵道線路並ニ國有鐵道ト連帶運輸ヲ爲ス地方鐵道及軌道ノ線路  
前項ノ通路ト連續シテ運送ヲ爲ス場合ニ於ケル關門港内水路及左ノ直航水路  
青森函館港間  
宇部高松港間  
關門釜山港間  
二、隅田川ヨリ小名木川、新川、江戸川ヲ經テ野田町ニ至ル水路

### 關稅法施行規則第五十條 ニ依ル收容貨物ノ敷料

(明治四十二年三月)  
大藏省令第五號  
改正 大正九年七月  
省令第二十三號

關稅法第四十六條又ハ第四十九條ニ依リ收容スル貨物ノ敷料左ノ如シ  
一 重量ニ依リ關稅ヲ賦 五百斤迄毎ニ 一日金三錢  
課セラルヘキ貨物  
二 前號以外ノ貨物 十立方尺迄毎ニ 一日金三錢  
前項使用料ノ徵收上便宜ト認ムルトキハ第一號ノ貨物ヲ第一號ノ定率ニ第二號ノ貨物ヲ第一號ノ定率ニ依ラシムルコトヲ得  
第一項ノ敷料ハ保稅地域ノ敷料又ハ使用料ノ外別ニ之ヲ徵收スルモノトス  
收容ノ初日ハ敷料ヲ徵收シ解除ノ日ハ徵收セス

附 則  
本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

關稅法第三十九條ノ二ニ依ル通路ノ件・關稅法施行規則第五十條ニ依ル收容貨物ノ敷料 七〇一

隅田川ヨリ荒川ヲ經テ王子町ニ至ル水路  
隅田川ヨリ小名木川又ハ野田川ニ由リ中川ヲ經テ小松川町ニ至ル水路  
前各項ノ通路ト連續シテ運送ヲ爲ス場合ニ於ケル橫濱港ヨリ隅田川ヨリ直航水路  
橫濱港ヨリ帷子川ニ由リ保土ヶ谷町ニ至ル水路  
大阪市ヨリ淀川及疏水運河ニ由リ京都市ニ至ル水路  
大阪市ヨリ新淀川及神崎川ヲ横切り尼崎市ニ至ル水路  
三、稅關長ノ承認ヲ受ケタル者貨物自動車ニ依リ運送ヲ爲ス場合ニ於ケル左ノ國道  
東京市ヨリ橫濱市ニ至ル國道  
大阪市ヨリ神戸市ニ至ル國道  
大阪市ヨリ和歌山市ニ至ル國道  
京都市ヨリ大阪市ニ至ル國道  
京都市ヨリ大阪市ヲ經テ神戸市ニ至ル國道  
神戸市ヨリ明石市ニ至ル國道



明治三十七年大藏省令第四十七號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス  
本令施行ノ際現存スル收容貨物ニ付テハ舊敷料定率表ニ依ル

### 關稅法施行規則第七十七條ニ依ル稅關所屬ノ起重機ノ使用料

(明治四十一年一月)  
大藏省令第二號

改正 昭和七年八月  
省令第二十號

關稅法施行規則第七十七條ニ依リ稅關所屬ノ起重機ノ使用料左ノ通定メ明治四十一年三月一日ヨリ施行ス

#### 起重機使用料

- 一 電氣起重機
  - 揚力一噸半乃至二噸半ノモノ 一臺一時間迄毎ニ金壹圓
  - 揚力三噸乃至五噸ノモノ 金壹圓五拾錢
  - 揚力七噸ノモノ 同 金貳圓
  - 揚力十五噸ノモノ 同 金四圓五拾錢
  - 揚力五十噸ノモノ 同 金拾五圓

### 關稅法施行規則第七十七條ニ依ル稅關所屬ノ土地建設物ノ使用料

(昭和八年九月)  
大藏省令第二十四號

改正 昭和十四年九月  
大藏省令第四十三號

第一條 貨物藏置ノ爲上屋又ハ上屋以外ノ土地ヲ使用スル

每十立方尺迄十五日迄毎ニ 金一錢五厘

日數ノ計算ハ前條第三項ニ依ル

第三條 土地又ハ上屋其ノ他ノ建設物ヲ專用スルモノハ左ノ使用料ヲ納ムベシ

- 一 貨物藏置ノ爲土地又ハ上屋其ノ他ノ建物ヲ專用スル場合 一坪迄毎ニ一月 金二圓
  - 二 倉庫上屋其ノ他貿易設備ヲ爲ス爲土地ヲ專用スル場合 一坪迄毎ニ一月 金一圓
  - 三 木材藏置ノ爲貯木場水域ヲ專用スル場合 一坪迄毎ニ一月 金六錢
- 前項各號ノ使用料ハ十五日迄ハ半月分ヲ十五日ヲ超ユルトキハ一月分ヲ徵收ス
- 第一項ノ使用料ハ土地ノ狀況其ノ他ノ事情ニ因リ特ニ必要アルトキハ之ヲ低減スルコトヲ得

#### 附 則

本令ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年大藏省令第二十二號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附 則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十四年九月二十五日)

關稅法施行規則第七十七條ニ依ル稅關所屬ノ起重機ノ使用料  
關稅法施行規則第七十七條ニ依ル稅關所屬ノ土地建設物ノ使用料

者ハ左ノ使用料ヲ納ムベシ但シ輸出スベキ貨物(積戻スベキ貨物ニシテ保稅工場ニ於テ製造又ハ加工シタルモノヲ含ム)關稅定率法第七條第一號及第二號ノ物品並ニ旅客ノ携帯セル旅具ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 貨物搬入ノ日ヨリ五日迄 無料
  - 二 貨物搬入ノ日ヨリ六日以上十五日迄 五百斤又八十立方尺迄毎ニ一日 金一錢
  - 三 貨物搬入ノ日ヨリ十六日以後 五百斤又八十立方尺迄毎ニ一日 金二錢
- 前項ノ使用料ハ重量ニ依リ關稅ヲ賦課セラルベキ貨物ハ重量ニ依リ其ノ他ハ容積ニ依リ之ヲ徵收ス但シ徵收上便宜ト認ムルトキハ重量ニ依ルベキモノヲ容積ニ依リ容積ニ依ルベキモノヲ重量ニ依ラシムルコトヲ得
- 日數ノ計算ニハ搬入ノ日ハ之ヲ算入シ搬出ノ日ハ之ヲ算入セズ

第二條 木材藏置ノ爲貯木場水域ヲ使用スル者ハ左ノ使用料ヲ納ムベシ但シ輸出スベキ木材ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 木材搬入ノ日ヨリ十日迄 無料
- 二 木材搬入ノ日ヨリ十一日以上二十日迄 十立方尺毎ニ 金一錢
- 三 木材搬入ノ日ヨリ二十一日以後迄 同 金一錢



### 關稅法施行規則第七十七條ニ依ル橫濱稅關ニ屬スル電燈ノ使用料

(大正四年四月)  
大藏省令第十三號

關稅法施行規則第七十七條ニ依リ橫濱稅關ニ屬スル電燈ノ使用料左ノ通定メ大正四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス  
十六燭光電燈五燈毎ニ一月金五圓  
三十二燭光電燈五燈毎ニ一月金十圓  
但シ一月未滿ノ使用料ハ十五日迄ハ半月分ヲ、十五日ヲ超ユルトキハ一月分ヲ徵收ス

### 關稅法施行規則第七十七條及第七十八條ニ依ル稅關曳船使用料

(大正五年十二月)  
大藏省令第二十九號

關稅法施行規則第七十七條及第七十八條ニ依リ稅關曳船使用料左ノ通定ム  
第一條 稅關所屬ノ曳船ヲ使用スル者ハ使用料ヲ納付スヘシ  
第二條 曳船使用料ハ一隻一回ニ付金三十圓以下トシ大藏大臣ノ認可ヲ得テ稅關長之ヲ定ム  
曳船ノ使用豫定日時ヨリ二時間以上ヲ經過シタルトキハ稅關長ハ爾後延長一時間迄毎ニ一隻ニ付金二圓ノ使用料ヲ増徴スルコトヲ得  
第三條 稅關長ハ船舶繫離ノ狀況其ノ他ノ事情ニ依リ特ニ必要アルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ得テ曳船使用料ヲ免除スルコトヲ得

附 則  
本令ハ大正六年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

### 關稅法施行規則及航空法中關稅ニ關スル規定ノ施行規則ニ依ル稅關手續料

(昭和十三年七月)  
大藏省令第四十三號

關稅法施行規則及航空法中關稅ニ關スル規定ノ施行規則ニ依ル稅關手續料左ノ通定ム  
一 稅關及稅關支署臨時開關特許手續料  
日出ヨリ日没迄 一時間迄毎ニ 十五圓  
日没ヨリ午後十二時迄 同 三十圓  
午後十二時ヨリ日出迄 同 四十五圓  
但シ輸出貨物(保稅工場ニ於テ製造又ハ加工セラレタル積戻貨物ヲ含ム以下同ジ)並ニ航空機及之ニ積卸ヲ爲ス貨物ニ關スル場合ノ特許手續料ハ前記金額ノ三分ノ一トス

關稅法施行規則第七十七條ニ依ル橫濱稅關ニ屬スル電燈ノ使用料・關稅法施行規則第七十八條ニ依ル稅關曳船使用料・關稅法施行規則第七十七條及第七十八條ニ依ル稅關手續料 七〇五

稅關支署ニ在リテハ前記但書ニ依ル場合ヲ除クノ外其ノ他ノ狀況ニ依リ前記金額ノ半額迄ニ低減スルコトヲ得  
二 貨物ノ積卸、搬入、搬出及取扱特許手續料  
日出ヨリ日没迄 一時間迄毎ニ 三圓  
日没ヨリ午後十二時迄 同 六圓  
午後十二時ヨリ日出迄 同 九圓  
但シ輸出貨物並ニ航空機及之ニ積卸ヲ爲ス貨物ニ關スル場合ノ特許手續料ハ前記金額ノ三分ノ一トス  
三 稅關ニ於テ定メタル場所以外ニ於ケル檢査特許手續料  
(一) 貨物檢査ノ爲稅關官吏ヲ派出スルトキ  
檢査ニ要スル時間 一時間迄毎ニ 五圓  
但シ輸出貨物及航空機ニ積卸ヲ爲ス貨物ニ關スル場合ノ特許手續料ハ二圓トス  
派出ノ爲旅費ヲ要スルトキハ別ニ其ノ實費ヲ加フ  
(二) 船内ニ於テ旅客携帶品檢査ノ爲稅關官吏ヲ乗船セシムルトキ  
乗船官吏一人毎ニ 一月迄毎ニ 百四十圓  
外國貿易船不開港出入特許手續料 入港一回毎ニ 四十五圓  
純噸數千噸未滿ノ船舶



- 純噸數二千噸未満ノ船舶 同 七十圓
- 純噸數二千噸以上ノ船舶 同 百圓
- 但シ輸出貨物船積ノ爲出入スル場合又ハ稅關長ニ於テ不開港地ノ狀況ニ依リ特ニ必要アリト認メ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ前記金額ノ半額迄ニ低減スルコトヲ得
- 五、外國貿易航空機ノ稅關飛行場ニ非ザル場所ニ著陸スル場合ノ特許手数料
- 著陸一回毎ニ 十圓
- 六、證明及計表下附手数料
- 證明 每一件 一圓
- 證 明 每一件 一圓
- 輸出入貨物日計表 每一件一枚迄毎ニ 五十錢但シ十三行三段詰ヲ以テ一枚ト計算ス

附 則

本令ハ昭和十三年八月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 明治三十五年大藏省第十七號ハ之ヲ廢止ス

關稅定率法 (拔萃)

(明治四十三年四月)  
 法律第五十四號  
 改正 昭和十六年三月  
 法律第七十六號

- 第一條 外國ヨリ輸入スル物品ニハ別表ニ依リ關稅ヲ課ス
- 第二條 從價稅品ハ輸入ノ際ニ於ケル到着價格ニ依リテ課稅ス
- 第三條ノ二 本邦ニ近接セル地域ノ生産品ニ對シ必要アルトキハ勅令ヲ以テ地域及物品ヲ指定シ關稅ヲ低減又ハ免除スルコトヲ得

(別表) (抄)

輸入稅表

番號	品 名	單 位	稅 率
五六八	船舶		
	一 機械力又ハ帆ヲ以テ運航スルモノ (噸數ヲ以テ積量ヲ計算セサルモノヲ除ク)		
	甲 船齡二十年ヲ超エ		

關稅定率法(拔萃)・關稅定率法第三條ノ二ノ規定ニ依ル輸入稅ノ免除等ニ關スル件(拔萃)

ガルモノ	總噸數每噸 三〇・三五
乙 其ノ他	總噸數每噸 二七・〇〇
二 其ノ他	從價稅 一割五分

關稅定率法第三條ノ二ノ規定ニ依ル輸入稅ノ免除等ニ關スル件 (拔萃)

(昭和十六年八月)  
 勅令第八百五號

第二條 關稅定率法別表輸入稅表ニ掲グル物品ニシテ關東州ノ生産ニ係リ本令別表乙號ニ掲グルモノノ輸入稅ハ之ヲ免除シ本令別表丙號ニ掲グルモノノ輸入稅ハ關稅定率法別表輸入稅表ニ依ラズ本令別表丙號ニ依ル

(別表) (抄)

乙 號

輸入稅表番號	品 名
五六八	船舶



第七輯 雜

第一章 官制

海事審議會官制

(昭和十六年五月  
勅令第五百二十九號)

第一條 海事審議會ハ逓信大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應  
ジテ海事ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

審議會ハ前項ノ外臨時船舶管理法第十三條及造船事業法  
第十六條ノ規定ニ依リソノ權限ニ屬セシメタル事項ヲ調  
査審議ス

審議會ハ前二項ノ事項ニ付關係各大臣ニ建議スルコトヲ  
得

第二條 審議會ハ會長一人及委員五十人以内ヲ以テ之ヲ組  
織ス

第三條 會長ハ逓信大臣ヲ以テ之ニ充ツ  
委員ハ逓信大臣ノ奏請ニ依リ左ニ掲グル者ノ中ヨリ内閣

海事審議會官制

ニ於テ之ヲ命ズ

一 關係各廳高等官

二 學識經驗アル者

前項第二號ニ掲グル者ノ中ヨリ命ゼラレタル委員ノ任期  
ハ二年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ  
解任スルコトヲ妨ゲズ

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ逓信大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ  
代理ス

第五條 逓信大臣ハ必要ニ依リ審議會ニ部會ヲ置キ其ノ所  
掌事項ヲ分掌セシムルコトヲ得

部會ニ部會長ヲ置ク會長又ハ會長ノ指名スル委員之ニ當  
ル

部會ニ屬スベキ委員ハ會長之ヲ指名ス  
審議會ハ其ノ定ムル所ニ依リ部會ノ決議ヲ以テ審議會ノ



決議ト爲スコトヲ得

第六條 審議會ニ専門委員ヲ置クコトヲ得

逓信大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

専門委員ハ會長ノ命ヲ承ケ専門ノ事項ヲ調査ス

第七條 審議會ニ幹事ヲ置ク逓信大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ

於テ之ヲ命ズ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第八條 審議會ニ書記ヲ置ク逓信大臣之ヲ命ズ

書記ハ上司ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 逓信省官制 (拔萃)

(明治三十一年十月 勅令第二百九十五號)

改正 昭和十五年 勅令第七百九十一號

第一條 逓信大臣ハ郵便、小包郵便、電信、電話及航路標識ヲ管理シ造船、水運ニ關スル事業及航路、船舶、海員ヲ監督ス

逓信大臣ハ逓信局及郵便局ニ於テ掌ル簡易生命保險及郵便年金ニ關スル事務ヲ管理ス

逓信大臣ハ國際電氣通信株式會社ニ關スル事項ヲ管理ス

第三條 逓信省ニ左ノ局務ヲ置ク

郵務局  
電務局  
管理局  
工務局  
管船局  
經理局

第六條 管理局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 航路標識ニ關スル事項

二 航路、船舶、海員、水運及保護海事會社ノ監督ニ關スル事項

管理局ニ船舶試驗所ヲ置キ船舶ノ試驗並ニ船用品ノ検査及試驗ニ關スル事項ヲ掌ラシム

逓信大臣ハ必要ト認ムル地ニ船舶試驗所ノ支所ヲ置キ船舶試驗所ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

船舶試驗所長及支所長ハ逓信技師ヲ以テ之ニ充ツ

### 逓信省分課規程 (拔萃)

(大正十三年十二月 公達第九百七十二號)

改正 昭和十六年一月

第二十條 管船局ニ船舶試驗所ノ外左ノ十一課ヲ置ク

總務課

輸送課

遠洋課

近海課

沿海課

造船課

船舶課

資材課

海務課

養成課

勞務課

第二十一條 管船局總務課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一 海運施設ノ計畫ニ關スル事項

逓信省官制(拔萃)・逓信省分課規程(拔萃)

二 海事資源ノ統制運用計畫事務ノ統合調整ニ關スル事項

三 海事ニ關スル調査及統計ニ關スル事項 (他課主管ニ屬スルモノヲ除ク)

四 船舶金融ニ關スル事項

五 水運事業ノ監督ニ關スル事項 (沿海課主管ニ屬スルモノヲ除ク)

六 海事團體ノ監督ニ關スル事項 (他課主管ニ屬スルモノヲ除ク)

七 船舶管理委員會ニ關スル事項

八 本局主管ニ關スル豫算ノ經理ニ關スル事項

九 局中他課所ニ屬セサル事項

第二十二條 管船局輸送課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

一 物資輸送計畫ニ關スル事項

二 日本船舶ノ讓渡、貸渡、擔保又ハ引渡ノ許可ニ關スル事項

三 外國船舶取得ノ許可ニ關スル事項

四 外國船舶ノ不開港場寄港及沿岸貿易ノ取締ニ關スル事項

五 外國船舶ノ儲船ニ關スル事項



六 拿捕船舶ノ處理ニ關スル事項  
七 海運ニ關スル組合其ノ他ノ團體ノ監督ニ關スル事項

第二十三條 管船局遠洋課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一 定期航路ノ計畫及監督ニ關スル事項
- 二 定期航路ノ補助及獎勵ニ關スル事項
- 三 臨時船舶管理法ニ依ル定期航路ノ調査及統計ニ關スル事項
- 四 航路ノ統制ニ關スル事項

第二十四條 管船局近海課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一 不定期船ノ計畫及監督ニ關スル事項
- 二 不定期船ノ運賃ニ關スル事項
- 三 備船料及船舶ノ賣買價格ニ關スル事項
- 四 臨時船舶管理法ニ依ル不定期船ノ調査及統計ニ關スル事項

第二十五條 管船局沿海課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一 機帆船、舢舨及總噸數百噸未満ノ汽船ノ運賃及配船ニ關スル事項
- 二 前號ニ掲クル事項ニ關スル臨時船舶管理法ニ依ル調査及統計ニ關スル事項
- 三 第一號ニ掲クル船舶ニ依ル海運ニ關スル組合其ノ他ノ團體ノ監督ニ關スル事項

ノ團體ノ監督ニ關スル事項

四 第一號ニ掲クル船舶ニ依ル水運事業ノ監督ニ關スル事項

五 海陸ノ連絡ニ關スル事項

六 船舶荷役ノ監督ニ關スル事項

第二十六條 管船局造船課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一 造船事業並ニ船舶用機關及機裝品ノ製造又ハ修繕事業ニ關スル監督、保護及獎勵ニ關スル事項
- 二 造船事業並ニ船舶用機關及機裝品ノ製造又ハ修繕事業ニ關スル組合其ノ他ノ團體ノ監督ニ關スル事項
- 三 船舶建造ノ助成及監督ニ關スル事項
- 四 造船狀況ノ調査ニ關スル事項
- 五 造船事業委員會ニ關スル事項
- 六 船體、船舶用機關及機裝品ノ規格ニ關スル事項

第二十七條 管船局船舶課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一 船舶及船舶用機關ノ検査ニ關スル事項
- 二 船舶ノ測定ニ關スル事項
- 三 船舶ノ登録ニ關スル事項
- 四 船舶搭載吃水線ノ指定ニ關スル事項
- 五 船舶修繕ノ統制ニ關スル事項

第二十八條ノ三 管船局養成課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一 船員ノ養成及訓育ニ關スル事項
- 二 海員養成所ニ關スル事項
- 三 船舶職員及水先人ノ試験ニ關スル事項
- 四 救命艇手及水夫ノ適任證書ニ關スル事項

第二十八條ノ四 管船局勞務課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一 船員ノ需給ニ關スル事項
- 二 船員ノ職業紹介ニ關スル事項
- 三 船員ノ徵用ニ關スル事項
- 四 船員ノ使用等統制ニ關スル事項
- 五 船員ノ給與統制ニ關スル事項
- 六 船員ノ福利施設ニ關スル事項
- 七 船員ノ勞働爭議調停ニ關スル事項
- 八 船員ニ關スル團體ノ指導監督ニ關スル事項

第二十八條ノ五 管理局船舶試驗所ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一 船體ノ水槽試驗ニ關スル事項
- 二 推進器ノ水槽試驗ニ關スル事項
- 三 水槽試驗ニ伴フ實地試驗ニ關スル事項
- 四 前各號以外ノ水槽試驗及實地試驗ニ關スル事項
- 五 船舶ノ推進、抵抗及動搖等ノ研究ニ關スル事項

六 船舶ノ構造及設備ノ現狀調査ニ關スル事項  
七 海難ニ依ル船舶ノ損傷調査ニ關スル事項  
八 船級協會其ノ他船舶検査ニ關スル團體ノ監督ニ關スル事項

第二十八條 管船局資材課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一 造船及造機用資材ノ需給調整ニ關スル事項
- 二 機裝品其ノ他船用品ノ需給調整ニ關スル事項
- 三 船舶用燃料ノ調査ニ關スル事項
- 四 造船鐵材調査ニ關スル事項

第二十八條ノ二 管船局海務課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一 船舶職員ニ關スル事項
- 二 水先ニ關スル事項
- 三 船員ノ保護、服務及取締ニ關スル事項
- 四 船内ノ醫療及食料ニ關スル事項
- 五 船員ノ登録及下船ニ關スル事項
- 六 港務及水路ニ關スル事項
- 七 航路標識ニ關スル事項
- 八 海員審判所ニ關スル事項
- 九 水難救護及海難調査ニ關スル事項
- 十 船舶ノ信號及旗章ニ關スル事項



- 六 錨、鎖及索ノ検査及試験ニ關スル事項
- 七 船燈、信號器及救命具ノ検査、試験並取締ニ關スル事項
- 八 船舶用計器ノ検査及試験ニ關スル事項
- 九 造船材料ノ検査及試験ニ關スル事項
- 十 前各號以外ノ船用品ノ検査及試験ニ關スル事項
- 十一 船用品ノ研究ニ關スル事項

遞信省管船局船舶試驗所  
支所ヲ置クノ件

(大正九年九月十三號)  
遞信省告示第三百七十三號

改正 昭和十二年八月  
告示第七百七十一號

來十月一日ヨリ左記遞信省管船局船舶試驗所支所ヲ置キ船用品ノ検査及試験ニ關スル事務ヲ分掌セシム

遞信省管船局船舶試驗所 大阪支所 大阪市港區湊屋濱通二丁目

海事ニ關スル遞信局ノ管轄區域並出張所ノ名稱、位置及管轄區域ノ件

(大正八年五月)  
遞信省告示第六百三十八號

改正 昭和十二年十月  
告示第三千五百號

海事ニ關スル遞信局ノ管轄區域ハ別表第一號ニ依ル  
各遞信局海事部ノ位置ハ別表第二號ニ依ル  
海事ニ關スル事務ヲ分掌セシムル爲メ遞信局海事部出張所ヲ設ク其ノ名稱、位置及管轄區域ハ別表第三號ニ依ル  
(別表) 第一號

海事ニ關スル遞信局ノ管轄區域表

局名	管轄區域
東京府	神奈川縣 新潟縣 埼玉縣 群馬縣
東京地方遞信局	馬縣 千葉縣 茨城縣 栃木縣 靜岡縣
山梨縣	

遞信省管船局船舶試驗所支所ヲ置クノ件・海事ニ關スル遞信局ノ管轄區域並出張所ノ名稱、位置及管轄區域ノ件

名	稱	位置
名古屋遞信局	愛知縣 三重縣 (北牟婁郡及南牟婁郡ヲ除ク) 岐阜縣 長野縣 福井縣 石川縣 富山縣	
大阪遞信局	大阪府 京都府 兵庫縣 奈良縣 滋賀縣 和歌山縣 三重縣ノ内北牟婁郡及南牟婁郡 德島縣 高知縣	
廣島遞信局	廣島縣 鳥取縣 島根縣 岡山縣 山口縣ノ内大島郡 香川縣 愛媛縣	
熊本遞信局	熊本縣・長崎縣 山口縣(大島郡ヲ除ク) 福岡縣 大分縣 佐賀縣 宮崎縣 鹿兒島縣 沖繩縣	
仙臺遞信局	宮城縣 福島縣 岩手縣 青森縣 山形縣 秋田縣	
札幌遞信局	北海道	
(別表) 第二號	遞信局海事部ノ位置	
東京地方遞信局海事部	東京市	
名古屋遞信局海事部	名古屋市	
大阪遞信局海事部	大阪市	



海事法令集

廣島遞信局海事部 三原市  
熊本遞信局海事部 門司市  
(別表) 第三號

仙臺遞信局海事部  
札幌遞信局海事部  
函館市

遞信局海事部出張所名稱、位置及管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
東京地方遞信局海事部 橫濱出張所	橫濱市	神奈川縣(橫須賀市・三浦郡・鎌倉郡ヲ除ク) 靜岡縣ノ内熱海市・田方郡網代町・伊東町・宇佐美村・小室村・對馬村及賀茂郡下田町・稻取町・城東村・下河津村・白濱村・濱崎村・竹麻村
東京地方遞信局海事部 浦賀出張所	神奈川縣三浦郡 浦賀町	神奈川縣ノ内橫須賀市・三浦郡・鎌倉郡
東京地方遞信局海事部 清水出張所	清水市	靜岡縣(熱海市・田方郡ノ内網代町・伊東町・多賀村・宇佐美村) 小室村・對馬村及賀茂郡ノ内稻取町・下田町・城東村 下河津村・白濱村・濱崎村・竹麻村ヲ除ク
東京地方遞信局海事部 新潟出張所	新潟市	新潟縣
名古屋遞信局海事部 伏木出張所	富山縣射水郡 伏木町	富山縣 福井縣(敦賀市・敦賀郡・三方郡・遠敷郡・大飯郡ヲ除ク) 石川縣
大阪遞信局海事部 神戸出張所	神戸市	兵庫縣(三原郡・揖保郡・赤穂郡ヲ除ク)
大阪遞信局海事部 相生出張所	兵庫縣赤穂郡 相生町	兵庫縣ノ内揖保郡・赤穂郡
大阪遞信局海事部 藤浦出張所	和歌山縣東牟婁郡 藤浦町	三重縣ノ内北牟婁郡・南牟婁郡和歌山縣ノ内新宮市・西牟婁郡串本町 江住村・和深村・田並村・有田村・潮神村及東牟婁郡
廣島遞信局海事部 高知出張所	高知市	兵庫縣ノ内三原郡・德島縣・高知縣安藝郡ノ内甲浦町 高知縣(安藝郡ノ内甲浦町ヲ除ク)
廣島遞信局海事部 岡山出張所	岡山縣兒島郡 岡山比島町	香川縣・岡山縣(淺口郡及小田郡ヲ除ク)
廣島遞信局海事部 土生出張所	廣島縣御調郡 土生町	廣島縣御調郡ノ内土生町・三庄町・大濱村・田熊村・中庄村・三浦村・重井村 廣島縣豊田郡ノ内瀬戸田町・名荷村・東生口村・西生口村・南生口村・北生口村・愛媛縣越智郡ノ内岩城村・弓削村・東伯方村・西伯方村・生名村
廣島遞信局海事部 境出張所	鳥取縣西伯郡 境町	鳥取縣鳥根縣
廣島遞信局海事部 三津濱出張所	愛媛縣温泉郡 三津濱町	愛媛縣(今治市・新居濱市・越智郡・周桑郡・新居郡・宇摩郡ヲ除ク) 山口縣ノ内大島郡
熊本遞信局海事部 長崎出張所	長崎市	熊本縣ノ内天草郡・長崎縣佐賀縣
熊本遞信局海事部 若松出張所	若松市	福岡縣ノ内若松市・八幡市・戸畑市・遠賀郡
熊本遞信局海事部 三池出張所	大牟田市	福岡縣ノ内久留米市・大牟田市・浮羽郡・三井郡・三潞郡 八女郡・山門郡・三池郡・熊本縣(天草郡ヲ除ク)
熊本遞信局海事部 鹿兒島出張所	鹿兒島市	鹿兒島縣 宮崎縣 沖繩縣
仙臺遞信局海事部 青森出張所	青森市	青森縣 秋田縣

海事ニ關スル遞信局ノ管轄區域並出張所ノ名稱、位置及管轄區域ノ件



札幌 遞信局 海部 小樽 出張所 小樽 市 (北海道ノ内後志國・石狩國・天鹽國・北見國 (斜里郡・網走郡・常呂郡ヲ除ク))  
 札幌 遞信局 海部 釧路 出張所 釧路 市 (北海道ノ内十勝國・釧路國・根室國・北見國ノ内斜里郡・網走郡・常呂郡・千島國)

船舶内ニ設置シタル郵便局及電信局ノ管轄ノ件

遞信局分課規程(拔萃)

(大正十二年六月) 遞信省告示第四百八十二號

改正 昭和十五年十一月 (公達第三百九號)

船舶内ニ設置シタル郵便局及電信局ハ其ノ船舶ノ定繫港ヲ管轄スル遞信局ノ管轄ニ屬ス

第一條 遞信局ニ出張所ノ外左ノ部、課及所ヲ置ク

- 總務部
- 監察課
- 厚生課
- 遞信講習所
- 業務部
- 服務課
- 郵務課
- 電務課

放送課 (大阪遞信局ニ限ル)

計理課

貯金課

用品課

保險課

第二十三條 海部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌理ス

放送部 (東京都市遞信局ニ限ル)

無線課

一 船舶ノ積量測定ニ關スル事項

工務部

二 船舶ノ登録ニ關スル事項

總務課 (東京都市遞信局及大阪遞信局ヲ除ク)

三 船舶國籍證書及假船舶國籍證書ニ關スル事項

庶務課 (東京都市遞信局及大阪遞信局ニ限ル)

四 船舶ノ検査ニ關スル事項

調査課 (同前)

五 造船ノ監督ニ關スル事項

線路課

六 造船鐵材調査ニ關スル事項

土木課 (東京都市遞信局及大阪遞信局ニ限ル)

七 船舶滿載吃水線ノ指定ニ關スル事項

機械課

八 遠洋漁業獎勵法ニ依ル漁船ノ製造監督及検査ニ關スル事項

無線課 (東京都市遞信局及大阪遞信局ニ限ル)

九 船舶職員及水先人ノ試験ニ關スル事項

電氣部 (東京都市遞信局ヲ除ク)

十 海技免狀及水先免狀ニ關スル事項

監理課

十一 船員手帳ニ關スル事項

技術課

十二 船員ノ職業紹介ノ監督ニ關スル事項

海事部 (東京都市遞信局ヲ除ク)

十三 船員ノ最低年齢及健康證明書ニ關スル事項

經理部

十四 船員ノ勞働爭議調停ニ關スル事項

庶務課

十五 船内ノ醫療及食料ニ關スル事項

船内ニ設置シタル郵便局及電信局ノ管轄ノ件・遞信局分課規程(拔萃)

船内ニ設置シタル郵便局及電信局ノ管轄ノ件・遞信局分課規程(拔萃)



- 十六 船員ノ扶助及送還ニ關スル事項
- 十七 海員ノ雇傭契約ノ公認及認證ニ關スル事項
- 十八 船長就職及退職ノ認證ニ關スル事項
- 十九 船内遺留品ニ關スル事項
- 二十 船内書類ノ認可ニ關スル事項
- 二十一 海難ノ調査ニ關スル事項
- 二十二 航海日誌ノ檢閲、船長ノ報告及報告書ノ認證ニ關スル事項
- 二十三 船燈、信號器及救命具ノ檢定及監督ニ關スル事項
- 二十四 海事代願人ノ取締ニ關スル事項
- 二十五 海運狀況ノ調査ニ關スル事項
- 二十六 前各號ノ外法令ニ依リ管海官廳事務ニ屬セシメラレタル事項
- 二十七 部印及部長印ノ管守ニ關スル事項

### 燈臺局官制

七二六

(大正十四年九月)

改正 昭和十六年三月  
勅令第百八十四號

第一條 燈臺局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ燈臺其ノ他ノ航路標識ノ工事、保守、運用及用品ノ作業並ニ航路標識附屬ノ設備ニ依ル氣象觀測ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 燈臺局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長	勅任又ハ奏任
書記官	專任 一人 奏任
技師	專任 五人 奏任
書記	專任 十六人 判任
技手	專任 二十七人 判任
標識技手	判任

第三條 局長ハ遞信大臣ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス  
 第三條ノ二 書記官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル  
 第四條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル  
 第五條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第六條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス  
 第七條 標識技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ航路標識ノ看守及氣象觀測ニ從事ス其ノ定員ハ左ノ如シ

- 一等燈臺 各三人
- 二等燈臺 各三人
- 三等燈臺 各三人
- 四等燈臺 各三人
- 五等燈臺 各三人
- 六等燈臺 各三人
- 無等燈臺 各三人
- 燈卒 各二人
- 導燈 各二人
- 燈標 各二人
- 燈船 各二人
- 霧信號所 各二人
- 潮流信號所 各二人
- 通航信號所 各五人
- 無線方位信號所 各三人
- 他ノ航路標識ノ管理ニ屬スル航路標識ニハ前項ノ規定ニ拘ラス標識技手ヲ置カス

燈臺局官制・燈臺局ニ於テ掌ル氣象觀測事務ニ關スル件

### 燈臺局ニ於テ掌ル氣象觀測事務ニ關スル件

(昭和十三年十月)

勅令第百九十六號  
 燈臺局ニ於テ氣象觀測事務ヲ掌ル場合ニ於テ其ノ事務取扱ニ關スル規程ハ遞信大臣文部大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

附 則

七二七



本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 燈臺局分課規程

(昭和三年十一月  
公達第千二十六號)

改正 昭和十四年三月

第一條 燈臺局ニ左ノ二課及一所ヲ置ク

監理課  
工務課

燈臺官吏養成所

第二條 監理課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一 職員ノ進退、賞罰及身分ニ關スル事項
- 二 局印及局長印ノ管守ニ關スル事項
- 三 職員ノ共済及保健ニ關スル事項
- 四 從業員會ニ關スル事項
- 五 航路標識各所業務ノ監督ニ關スル事項
- 六 氣象觀測業務ノ監督ニ關スル事項
- 七 航路標識視察船ノ行動ニ關スル事項
- 八 公文書ノ受發編纂保存ニ關スル事項
- 九 航路標識ノ告示及統計ニ關スル事項

- 十 圖書ノ出版保管ニ關スル事項
- 十一 航路標識用機械器具及點燈用品ノ研究、試驗並檢定ニ關スル事項
- 十二 歳入、歳出ノ豫算、決算ニ關スル事項
- 十三 收入、支出及現金ノ出納ニ關スル事項
- 十四 賣買、貸借、請負ニ關スル事項
- 十五 物品ノ保管及配給ニ關スル事項
- 十六 廳中取締ニ關スル事項
- 十七 局中他課、所ニ屬セサル事項

第三條 工務課ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一 航路標識及氣象觀測施設ノ計畫並工事施行ニ關スル事項
- 二 航路標識ニ關スル申請處理ニ關スル事項
- 三 國有財産ニ關スル事項
- 四 航路標識用品ノ製作作業ニ關スル事項
- 五 工場傭人ノ身分進退ニ關スル事項
- 六 工場ノ取締ニ關スル事項

第三條ノ二 燈臺官吏養成所ハ左ノ事務ヲ掌理ス

- 一 職員ノ養成ニ關スル事項
- 第四條 課長、所長ヲ置キ、選任大臣之ヲ命免ス

第五條 燈臺局長ハ課ニ係リ置キ、係長ヲ置クコトヲ得

係長ハ燈臺局長之ヲ命免ス

第六條 燈臺局長ハ航路標識ニ燈臺長又ハ信號所長ヲ置ク

コトヲ得

燈臺長及信號所長ハ燈臺局長之ヲ命免ス

### 燈臺局長職務章程

(大正十三年十一月  
公達第九百八十二號)

第一條 燈臺局長ハ主管事務ヲ整理シ且部下職員ヲ監督シ

其ノ進退功過ヲ選任大臣ニ具狀ス

第二條 燈臺局長ハ左ニ掲クル事項ヲ專決施行ス

- 一 雇員ヲ進退スル事
- 二 局員ノ服務ヲ指定スル事
- 三 局員ノ内地出張ヲ命スル事
- 四 局員ノ歸省、看護、墓參、轉地療養願、受験願ヲ處理シ又ハ除服出仕ヲ命スル事
- 五 歳入金ノ分納及延納願ヲ處理スル事
- 六 明治二十五年勅令第八十號ニ依リ官吏療治料ヲ給與

燈臺局分課規程・燈臺局長職務章程

スル事  
七 同居セサル親族ニ對スル家族移轉料ノ支給ヲ認可スル事

八 削除

九 會計規則第三百三十六條ノ検査員、同第三百三十七條ノ立會官吏及同第四百四十六條ノ計算書作成官吏ヲ命スル事

十 出納官吏ニ對スル檢定書ヲ處理スル事

十一 部下職員又ハ其ノ家族ノ營業願ヲ處理スル事

十二 部下職員ノ受クル贈與ノ受領申請ヲ許可スル事

十三 遺失物法又ハ水難救護法ニ依リ遺失物又ハ漂流物等拾得者ニ報勞金ヲ給與スル事

十三ノ二 官公設航路標識ノ保守ヲ受託スル事

十三ノ三 公衆傷害慰勞金及非常災害等ノ場合ニ於ケル部外盡力者ニ對スル慰勞金ヲ給與スル事但シ總額一千圓ヲ超エサルモノニ限ル

十三ノ四 三百圓以下ノ諸謝金ヲ贈與スル事

十四 前各項ニ比シ輕易ノ事項

第三條 燈臺局長ハ其ノ專決施行ニ屬スル事項ト雖モ特ニ重要ナルモノト思料スルトキハ豫メ意見ヲ具シテ選任大臣



臣ノ決裁ヲ承クヘシ

第四條 燈臺局長ハ豫メ選信大臣ノ認可ヲ承ケ其ノ專決施行ニ屬スル事務ノ一部ヲ課、所長又ハ燈臺長若ハ信號所長ニ分任スルコトヲ得

### 海員養成所官制

(昭和十四年七月 勅令第四百五十八號)

改正 昭和十五年十一月 勅令第七百九十七號

第一條 海員養成所ハ選信大臣ノ管理ニ屬シ海員ノ養成ヲ掌ル

第二條 各海員養成所ノ名稱及位置ハ選信大臣之ヲ定ム

第三條 海員養成所ニ通ジテ左ノ職員ヲ置ク

所長△教諭專任三十六人内 八人 奏任

△書記專任四人(判任)

所長ハ奏任官タル教諭ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 所長ハ選信大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第五條 教諭ハ上官ノ命令ヲ承ケ養成ヲ掌ル

第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

### 高等海員養成所規則

(昭和十五年九月 選信省令第五十號)

第一條 高等海員養成所ハ船舶職員タルニ須要ナル知識及技能ヲ授ケ兼テ心身ノ鍛鍊ニカム

第二條 高等海員養成所ニ航海部及機關部ヲ置ク

航海部及機關部ノ學科ノ名稱及修業期間左ノ如シ

航海部

汽船甲種二等運轉士科 一年

乙種一等運轉士科 六月

機關部

二等機關士科 一年

發動機船二等機關士科 一年

近海汽船二等機關士科 六月

近海發動機船二等機關士科 六月

第三條 高等海員養成所ニ入所スル者ハ二十歳以上四十歳未滿ノ男子ニシテ高等小學校ヲ卒業シタル者又ハ高等海員養成所長ニ於テ之ト同等以上ノ學力アリト認ムル者ナルコトヲ要シ且學科ノ別ニ從ヒ夫々同一ノ名稱ヲ有スル船舶職員試験ニ必要ナル受験履歴ヲ有スル者ナルコトヲ

高等海員養成所規則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

### 海員養成所設置ノ件

(昭和十四年七月 選信省告示第九百九十二號)

改正 昭和十五年十一月 選信省告示第二千六百五十一號

海員養成所ノ名稱及位置左ノ通定ム

名 稱	位 置
兒島海員養成所	岡山縣兒島郡味野町
小樽海員養成所	北海道小樽市
唐津海員養成所	佐賀市唐津市
宮古海員養成所	岩手縣下閉伊郡宮古町
高等海員養成所	大阪府大阪市

要ス

前項ノ受験履歴ヲ有セザル者ト雖モ高等海員養成所長ニ於テ相當ト認ムルトキハ之ヲ入所セシムルコトヲ得

第四條 航海部及機關部ノ各學科ノ授業科目及授業時間數ハ別表ニ依ル

第五條 高等海員養成所ニ於テハ授業料ヲ徴收セズ

第六條 高等海員養成所生徒ニハ修業中手當ヲ支給ス

高等海員養成所生徒ニハ修業ニ必要ナル物品ヲ給與シ又ハ貸與スルコトアルベシ

第七條 高等海員養成所生徒左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ退所ヲ命ズルコトアルベシ

一 操行不良ニシテ改善ノ見込ナキトキ

二 成績不良ニシテ成業ノ見込ナキトキ

三 疾病傷痍ニ因リ成業ノ見込ナキトキ

四 正當ノ事由ナクシテ長期間缺席シタルトキ又ハ出席

常ナラザルトキ

第八條 高等海員養成所生徒ハ本所卒業後二年間船舶ニ勤

務スルノ義務アルモノトス但シ特別ノ事情アルトキハ此

ノ限ニ在ラズ

第九條 高等海員養成所生徒ニシテ退所ヲ命ゼラレ若ハ自